

「第2期穴水町人口ビジョン・総合戦略」
策定に係る世帯主
アンケート調査結果

目 次

1) アンケート調査の概要	1
(1) 調査目的	1
(2) 調査方法	1
(3) 調査内容	1
(4) 回収率	2
(5) 集計方法	2
(6) 結果の概要	3
2) 調査結果	7
【問1】回答者自身について	7
【問2】人口減少に対する意識について	18
【問3】穴水町の居住・魅力について	26
【問4】人口減少対策の施策や具体的な取組について	34
【問5】個別施策に関する具体的な取組について	62
【問6】今後の穴水町の活性化とまちづくりの方向性について	97
【問7】結婚・出産・子育てについて	106

1) アンケート調査の概要

(1) 調査目的

- ・「第2期穴水町まち・ひと・しごと創生総合戦略」に向け、住民意向を把握するために全世帯主を対象としたアンケート調査を実施した。

(2) 調査方法

- ・アンケート調査票は広報と合わせて配布し、郵送により回収を行った。
- ・調査期間は令和元年11月28日～12月20日として設定した。
(結果は令和2年2月回収分まで反映)

(3) 調査内容

調査項目	設 問
【問1】回答者自身について	① 性別
	② 年齢
	③ 住まい
	④ 世帯人数
	⑤ 職業
	⑥ 通勤・通学先
【問2】人口減少に対する意識について	⑦ 推計結果
	⑧ 社会への影響（3つ以内で回答）
【問3】穴水町の居住・魅力について	⑨ 居住年数
	⑩ 住み心地
	⑪ 穴水町の自慢（3つ以内で自由回答）
【問4】人口減少対策の施策や具体的な取組について	⑫ 施策に対する満足度と重要度
	⑬ 地域の雇用創出や経済活性化の取組（3つ以内で回答）
	⑭ 来訪・移住・定住促進の取組（3つ以内で回答）
	⑮-1 少子化の取組（3つ以内で回答）
	⑮-2 ふるさとに愛着をもてる子どもに育成する取組 (3つ以内で回答)
	⑯-1 安心して暮らせる地域づくりの取組（3つ以内で回答）
⑯-2 高齢者への施策の充実等による取組（3つ以内で回答）	

調査項目	設 問
【問5】個別施策に関する具体的な取組について	⑰ スポーツ
	⑱ 健康診断
	⑲ 食生活（野菜摂取）
	⑳ 食生活（塩分摂取）
	㉑ 食生活（外食頻度）
	㉒ バス利用頻度
	㉓ バスを利用するための改善策（5つ以内で回答）
	㉔ バスを公共交通として維持するための対策
	㉕ 墓の所有
	㉖ 合葬墓を利用したいか
	㉗ 合葬墓を利用したい理由（当てはまるものすべて回答）
	㉘ 合葬墓を利用したくない理由（当てはまるものすべて回答）
【問6】今後の穴水町の活性化とまちづくりの方向性について	㉙ 地域の活性化、にぎわい創出を目指す取組（3つ以内で回答）
	㉚ 穴水町を目指すべき姿（3つ以内で回答）
	㉛ 意見（自由回答）
【問7】結婚・出産・子育てについて（18～49歳）	㉜ 結婚について
	㉝ 将来結婚したいか
	㉞ 独身でいる理由（3つ以内で回答）
	㉟ 理想的な子どもの人数
	㊱ 希望する子どもの数を持っていない場合に想定される要因（3つ以内で回答）
	㊲ 意見（自由回答）

（4）回収率

項目	配布枚数	回収枚数	回収率
穴水町 町民アンケート調査 （世帯主）	3,701 票	1,009 票	27%

（5）集計方法

- ・ 前回調査（2015年）と同様の設問については、前回の結果と比較した。
- ・ ⑰、⑳、㉛の自由回答について、1つの回答欄に複数の回答がみられた場合、回答を2つに分けて集計した。（回答者Aが1つの回答欄に「●●、△△」と回答した場合、「●●」「△△」を分けて集計している。）
- ・ クロス集計は「性別」「年代別」「居住地別」に実施した。

(6) 結果の概要

調査項目	設 問	調査結果
【問1】回答者自身について	① 性別	・「男性」が約8割を占める。
	② 年齢	・「70歳以上」が約5割と最も多い。
	③ 住まい	・「穴水地区（大町、川島）」が約4割と最も多い。
	④ 世帯人数	・「2人」が約4割と最も多い。
	⑤ 職業	・「現在は働いていない」が4割と最も多い。
	⑥ 通勤・通学先	・「通勤・通学していない」が約5割と最も多い。
【問2】人口減少に対する意識について	⑦ 推計結果	・「知っている」が約4割と最も多い。
	⑧ 社会への影響	・「年金の減額、社会保険料や医療費の増額など、社会保障にかかる個人負担の増加」が1,231点と最も高い。
【問3】穴水町の居住・魅力について	⑨ 居住年数	・「20年以上」が約9割と最も多い。
	⑩ 住み心地	・「普通」が約4割と最も多い。
	⑪ 穴水町の自慢（自由回答）	・「祭り」「空港」「自然」に関する回答が多い。

調査項目	設 問	調査結果
【問4】人口減少対策の施策や具体的な取組について	⑫ 施策に対する満足度と重要度	<ul style="list-style-type: none"> ・満足度が最も高い施策は「地域資源を活かした観光誘客に関する施策」、重要度が最も高い施策は「多様な担い手の確保に関する施策」となっている。
	⑬ 地域の雇用創出や経済活性化の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・「企業誘致、起業しやすい環境の整備などによる新規産業の創出」が約6割と最も多い。
	⑭ 来訪・移住・定住促進の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・「Uターン者、移住者の増加に向けた情報発信やサポート体制の充実」が約5割と最も多い。
	⑮-1 少子化の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・「若い世代の経済的安定」が約6割と最も多い。
	⑮-2 ふるさとに愛着をもてる子どもに育成する取組	<ul style="list-style-type: none"> ・「体験活動や多くの人との交流により、豊かな人間性を育む取組」が約7割と最も多い。
	⑯-1 安心して暮らせる地域づくりの取組	<ul style="list-style-type: none"> ・「健康で安心して暮らせるよう、地域医療体制・福祉サービスの充実」が約7割と最も多い。
	⑯-2 高齢者への施策の充実等による取組	<ul style="list-style-type: none"> ・「買い物・通院等が不便・困難な地域へのサービスなど地域生活における生活上の不便を解消する施策の充実」が約7割と最も多い。

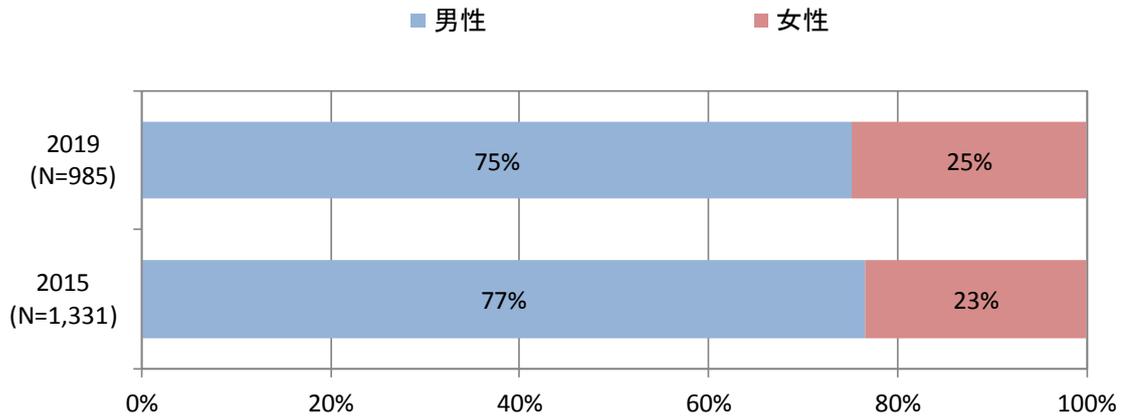
調査項目	設 問	調査結果
【問5】個別施策に関する具体的な取組について	⑰ スポーツ	・「まったく行っていない」が約3割と最も多い。
	⑱ 健康診断	・「町から案内のある健康診断を受けている」が約4割と最も多い。
	⑲ 食生活（野菜摂取）	・「意識して食べている」が約8割と最も多い。
	⑳ 食生活（塩分摂取）	・「意識して控えている」が約5割と最も多い。
	㉑ 食生活（外食頻度）	・「たまに利用している（概ね月2～3回）」が約5割と最も多い。
	㉒ バス利用頻度	・「バスはほとんど利用しない」が約4割と最も多い。
	㉓ バスを利用するための改善策	・「高齢者に対する割引を実施する」が約5割と最も多い。
	㉔ バスを公共交通として維持するための対策	・「町の経費を現行水準で維持して、サービスの現状確保に努める」が約3割と最も多い。
	㉕ 墓の所有	・「している」が約8割を占める。
	㉖ 合葬墓を利用したいか	・「利用したくない」が約5割と最も多い。
	㉗ 合葬墓を利用したい理由	・「自分が亡くなった後、子や孫に負担をかけたくない」が7割と最も多い。
㉘ 合葬墓を利用したくない理由	・「継承者がおり、管理に不安がない」が約7割と最も多い。	
【問6】今後の穴水町の活性化とまちづくりの方向性について	㉙ 地域の活性化、にぎわい創出を目指す取組	・「観光資源や祭りなどの地域資源を活かしたまちづくり」が約6割と最も多い。
	㉚ 穴水町の目指すべき姿	・「医療・福祉が充実した安心なまち」が約6割と最も多い。
	㉛ 意見（自由回答）	・「企業誘致・雇用」「環境・施設整備」「行政」に関する回答が多い。

調査項目	設 問	調査結果
【問7】結婚・出産・子育てについて(18～49歳)	③② 結婚について	・「結婚している(又は結婚することが決まっている)」が7割と最も多い。
	③③ 将来結婚したいか	・「いずれ結婚するつもり、したい」が約6割を占める。
	③④ 独身でいる理由	・「良い相手にまだめぐり合わない(出会いの場がない)から」が約5割と最も多い。
	③⑤ 理想的な子どもの人数	・「2人」が約5割と最も多い。
	③⑥ 希望する子どもの数を持ってない場合に想定される要因	・「子育てや教育にお金がかかりすぎるから(収入が不安定だから)」が136点と最も高い。
	③⑦ 意見(自由回答)	・「企業誘致・雇用」「助成」「環境・施設整備」に関する回答が多い。

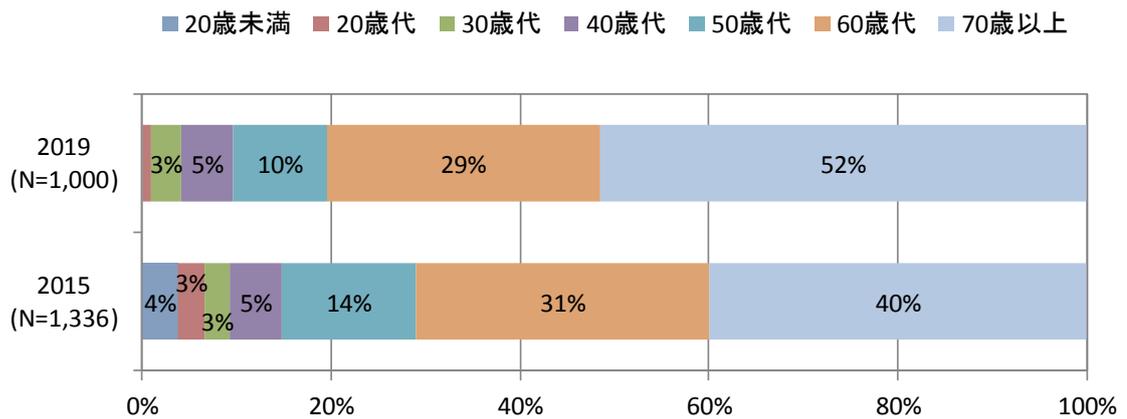
2) 調査結果

【問1】回答者自身について

①	性別
	<ul style="list-style-type: none"> ・「男性」が75%、「女性」が25%となっている。 ・前回との比較では、大きな違いはみられなかった。



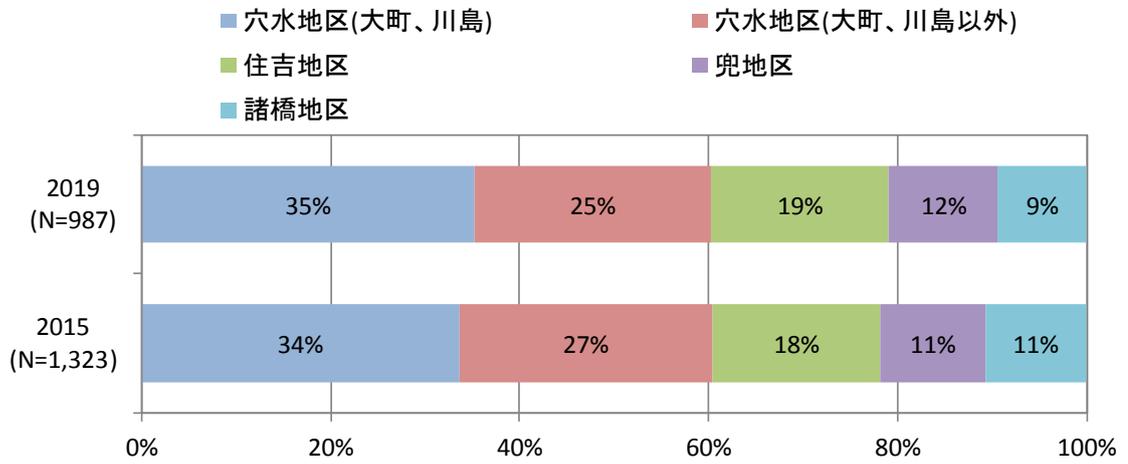
②	年齢
	<ul style="list-style-type: none"> ・「70歳以上」が52%で最も多く、次いで「60歳代」が29%、「50歳代」が10%となっている。 ・前回との比較では、2019年で「70歳以上」が52%と、2015年と比べて12ポイント高くなっている。



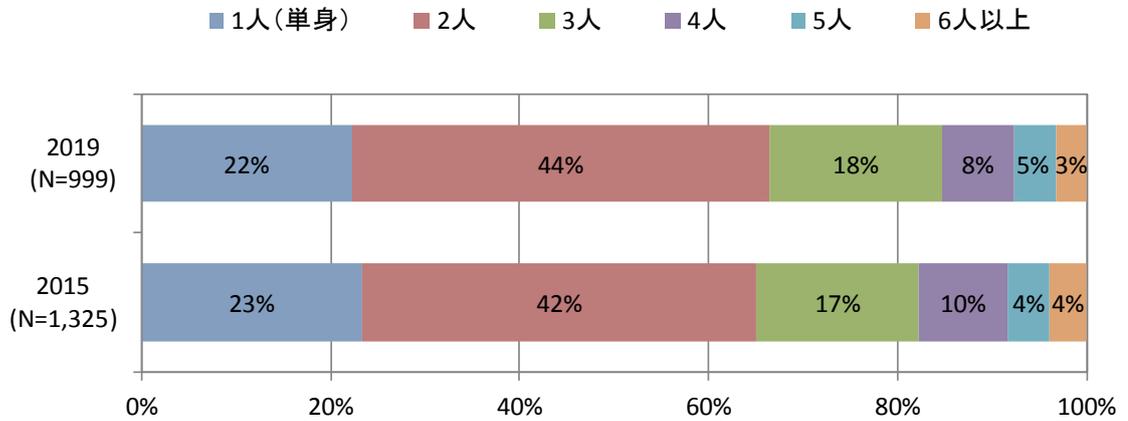
※ 3%未満は非表示

③ 住まい

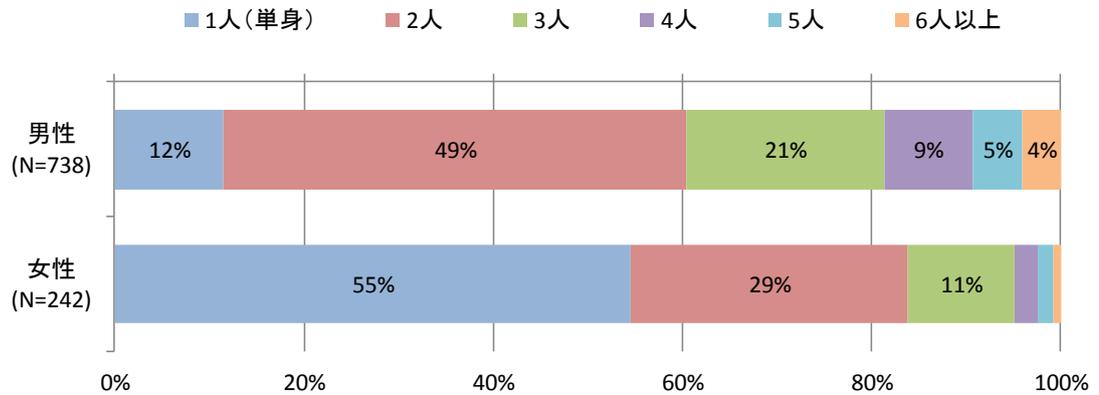
- ・「穴水地区（大町、川島）」が 35%で最も多く、次いで「穴水地区（大町、川島以外）」が 25%、「住吉地区」が 19%となっている。
- ・前回との比較では、大きな違いはみられなかった。



④	世帯人数
<ul style="list-style-type: none"> ・「2人」が44%で最も多く、次いで「1人(単身)」が22%、「3人」が18%となっている。 ・前回との比較では、大きな違いはみられなかった。 	



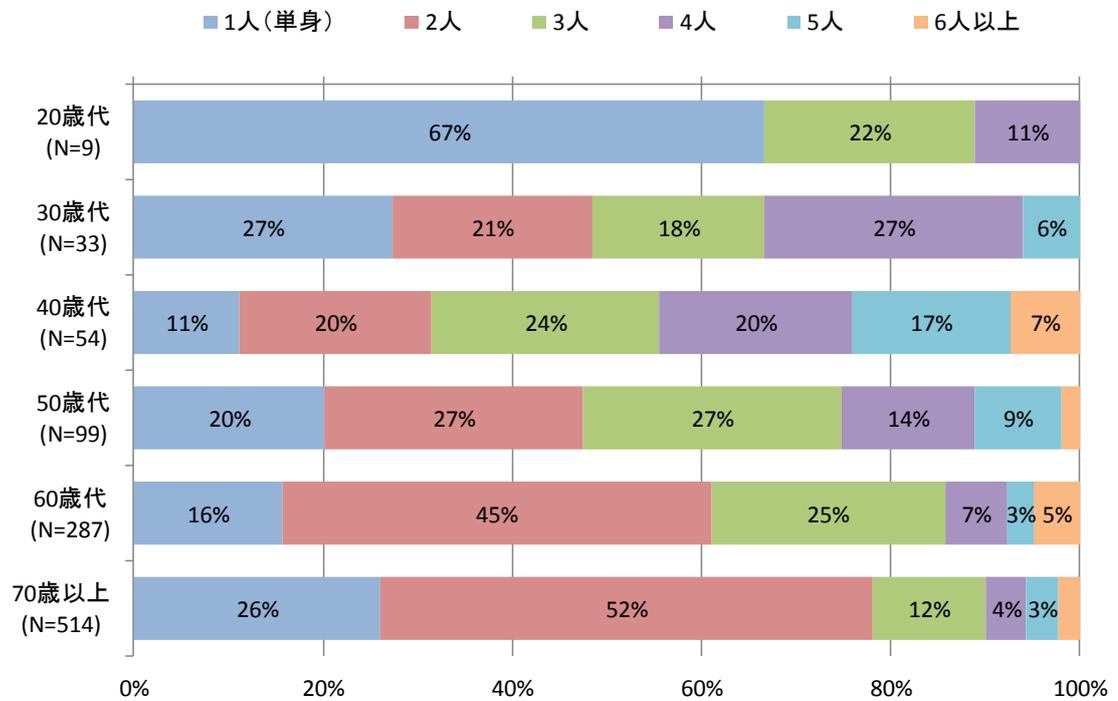
■	世帯人数 (性別)
<ul style="list-style-type: none"> ・性別では、女性で「1人(単身)」が55%と、男性と比べて43ポイント高くなっている。 	



※ 3%未満は非表示

■世帯人数（年代別）

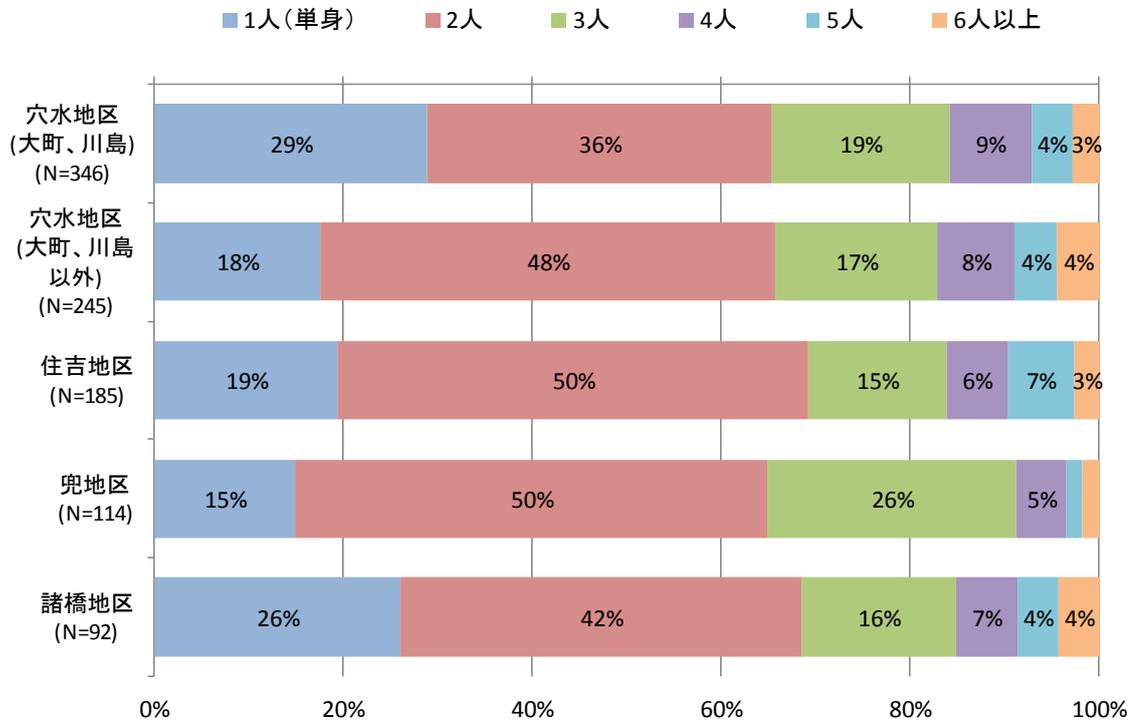
・年代別では、20歳代で「1人（単身）」が67%と、他と比べて40ポイント以上高くなっている。



※ 3%未満は非表示

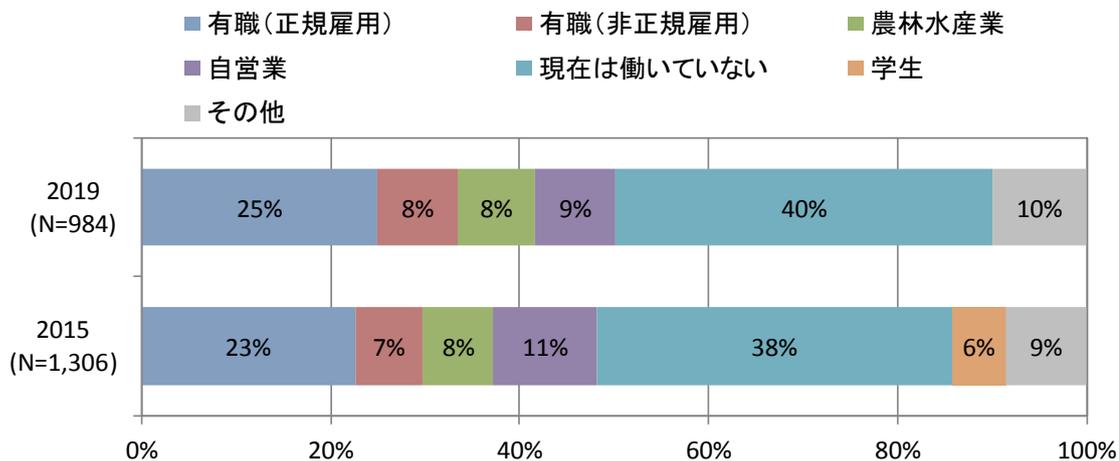
■世帯人数（居住地別）

・居住地別では、兜地区で「3人」が26%と、他と比べて7ポイント以上高くなっている。

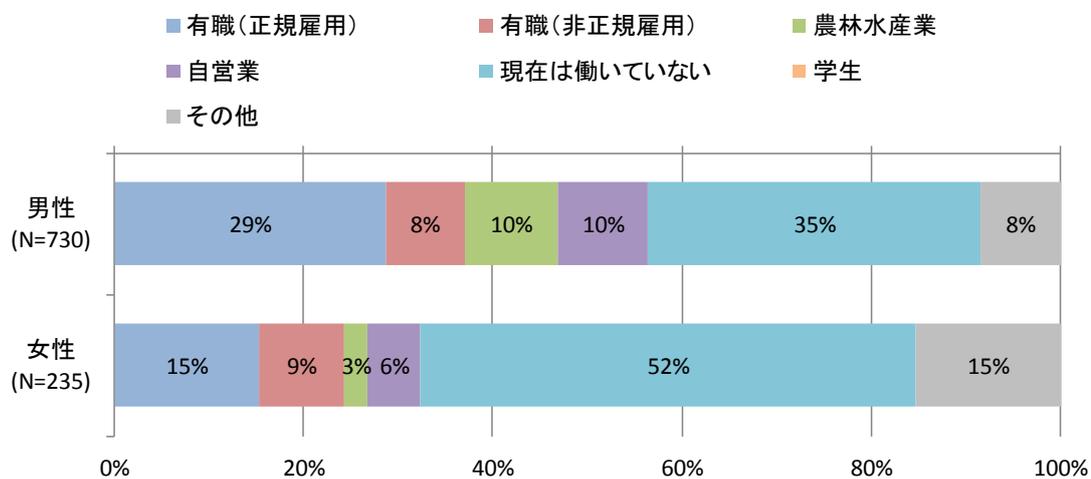


※ 3%未満は非表示

⑤	職業
<ul style="list-style-type: none"> ・「現在は働いていない」が40%で最も多く、次いで「有職（正規雇用）」が25%、「自営業」が9%となっている。 ・前回との比較では、2019年で「学生」が0%と、2015年と比べて6ポイント低くなっている。 	

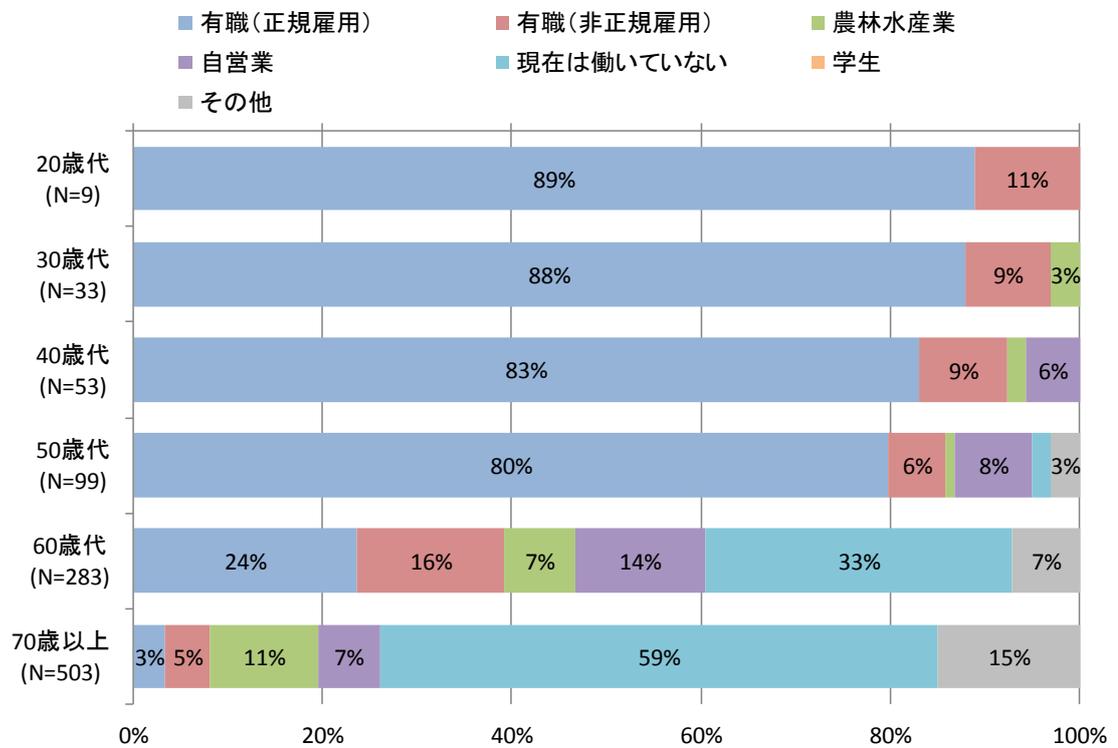


■	職業（性別）
<ul style="list-style-type: none"> ・性別では、女性で「現在は働いていない」が52%と、男性と比べて17ポイント高くなっている。 	



■ 職業（年代別）

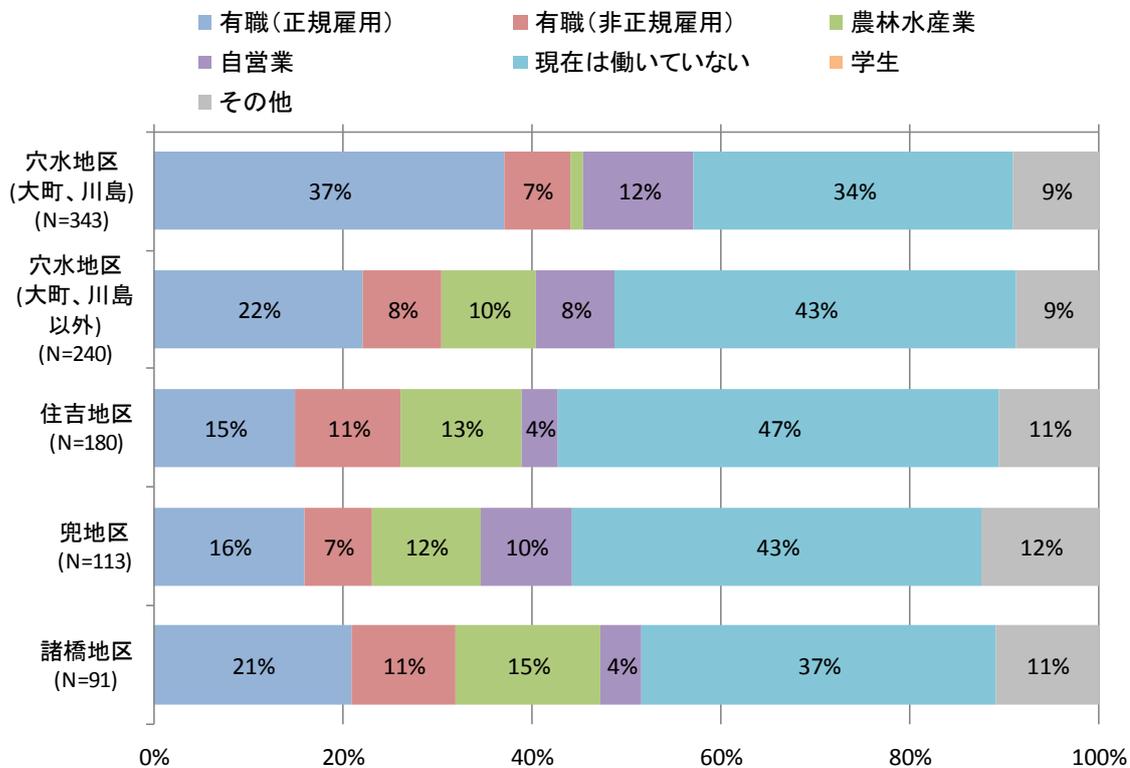
・年代別では、60歳代と70歳以上で「現在は働いていない」が他と比べて高くなっている。



※ 3%未満は非表示

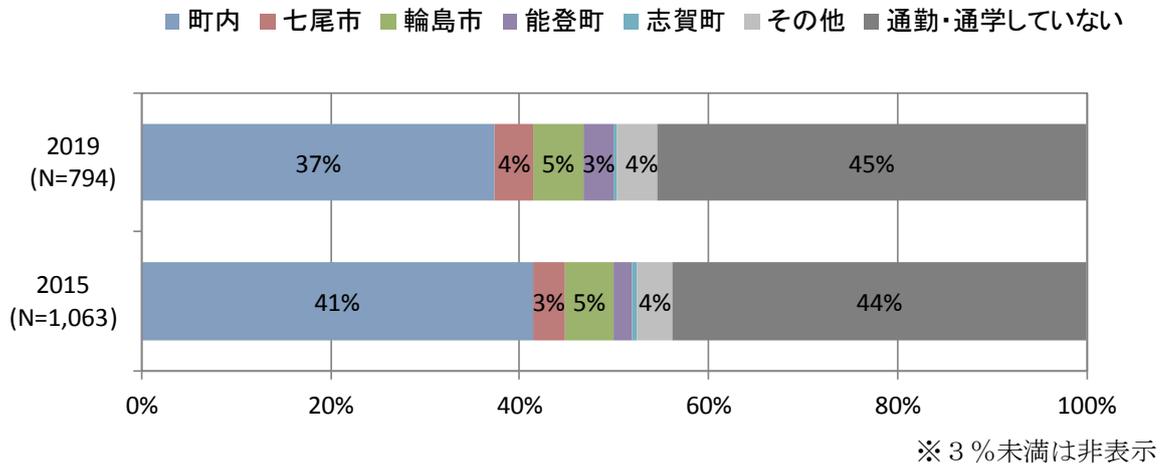
■職業（居住地別）

・居住地別では、穴水地区（大町、川島）で「有職（正規雇用）」が37%と、他と比べて15ポイント以上高くなっている。

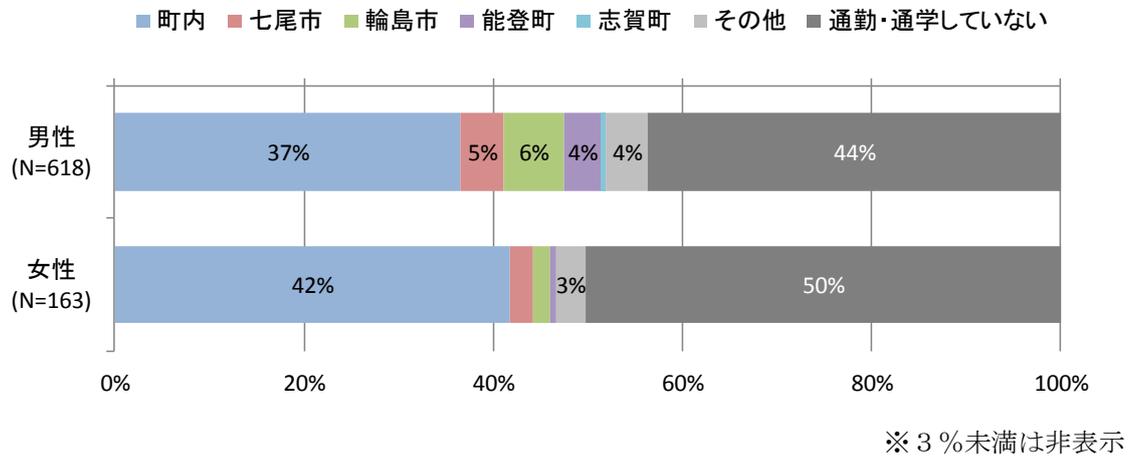


※ 3%未満は非表示

⑥	通勤・通学先
<ul style="list-style-type: none"> ・「通勤・通学していない」が45%で最も多く、次いで「町内」が37%、「輪島市」が5%となっている。 ・前回との比較では、大きな違いはみられなかった。 	

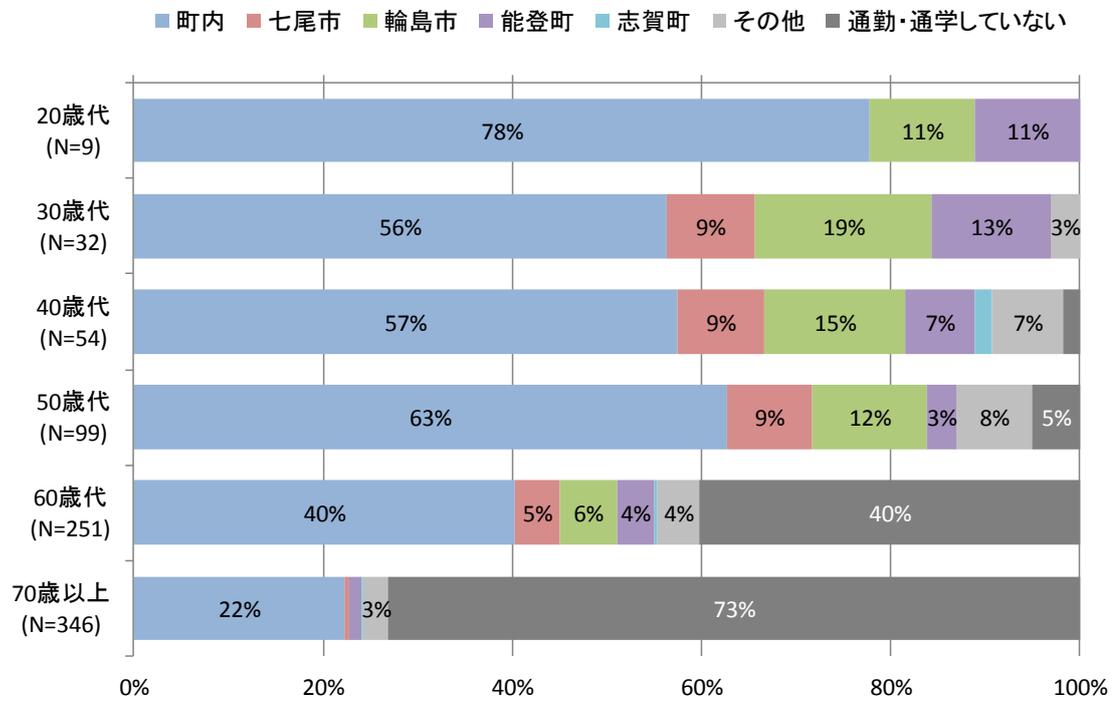


■ 通勤・通学先（性別）	
<ul style="list-style-type: none"> ・性別では、女性で「通勤・通学していない」が50%と、男性と比べて6ポイント高くなっている。 	



■通勤・通学先（年代別）

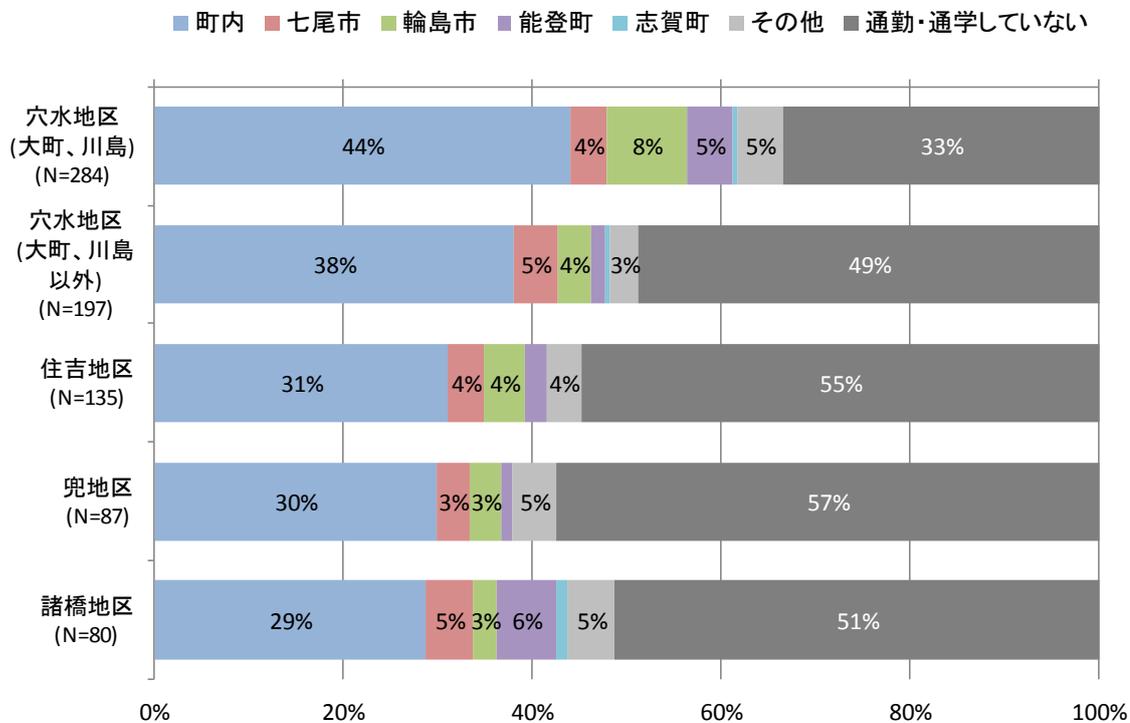
・年齢別では、50歳代以下は「町内」が高くなっている一方で、60歳代以上は「通勤・通学していない」が高くなっている。



※ 3%未満は非表示

■通勤・通学先（居住地別）

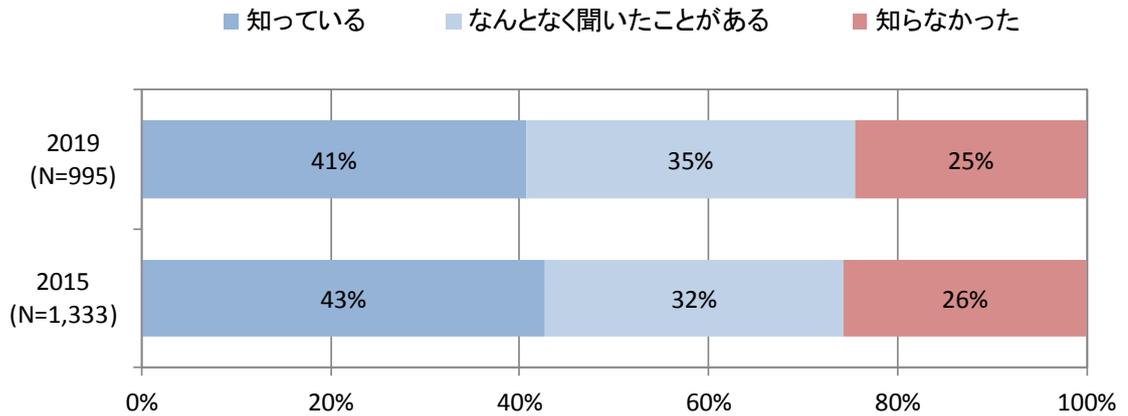
・居住地別では、穴水地区（大町、川島）と穴水地区（大町、川島以外）で「町内」が他と比べて高くなっている。



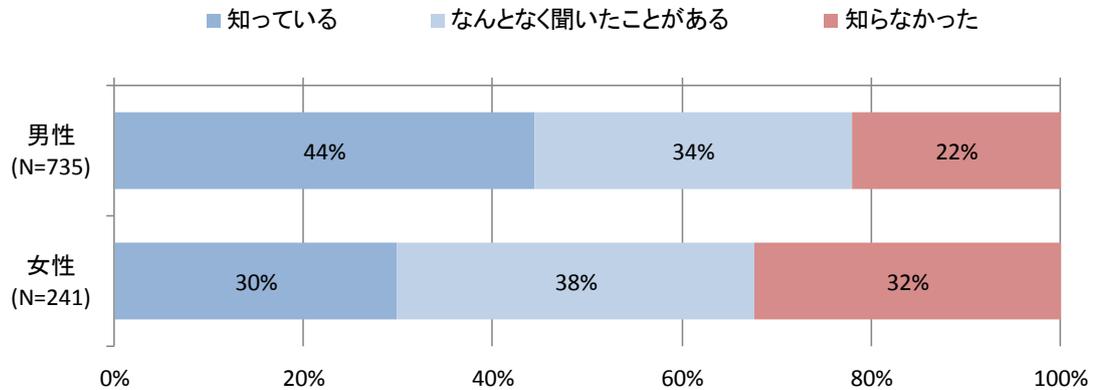
※ 3%未満は非表示

【問2】人口減少に対する意識について

⑦	推計結果
	<ul style="list-style-type: none"> ・「知っている」が41%で最も多く、次いで「なんとなく聞いたことがある」が35%、「知らなかった」が25%となっている。 ・前回との比較では、大きな違いはみられなかった。

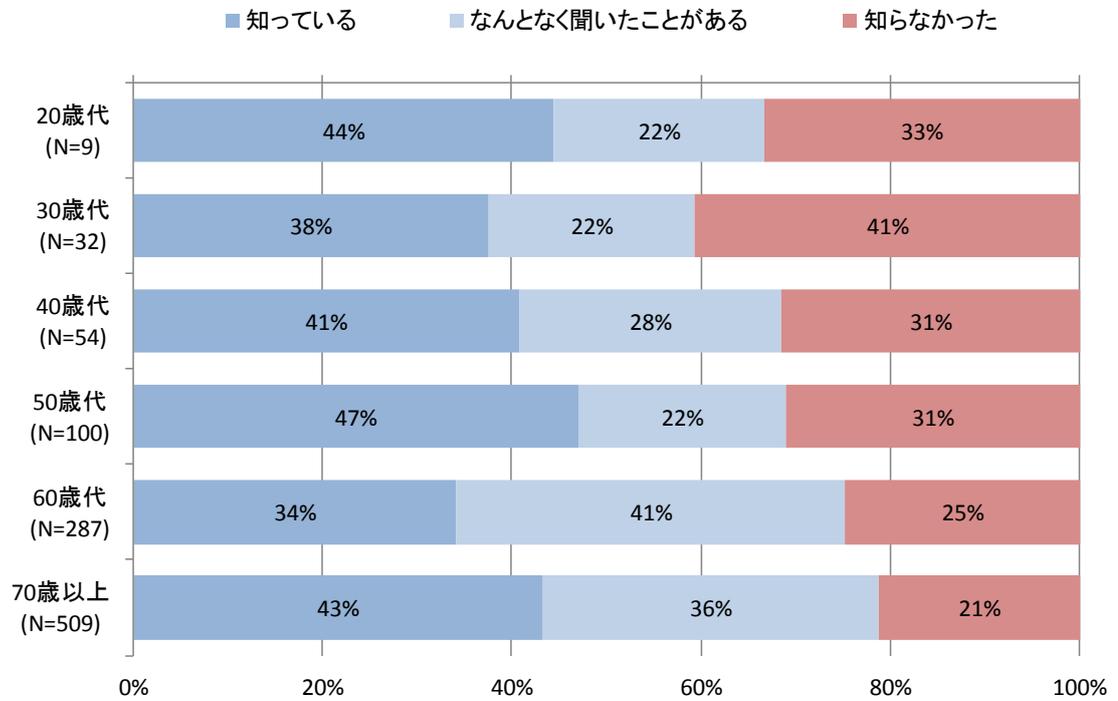


■	推計結果（性別）
	<ul style="list-style-type: none"> ・性別では、男性で「知っている」が44%と、女性と比べて14ポイント高くなっている。



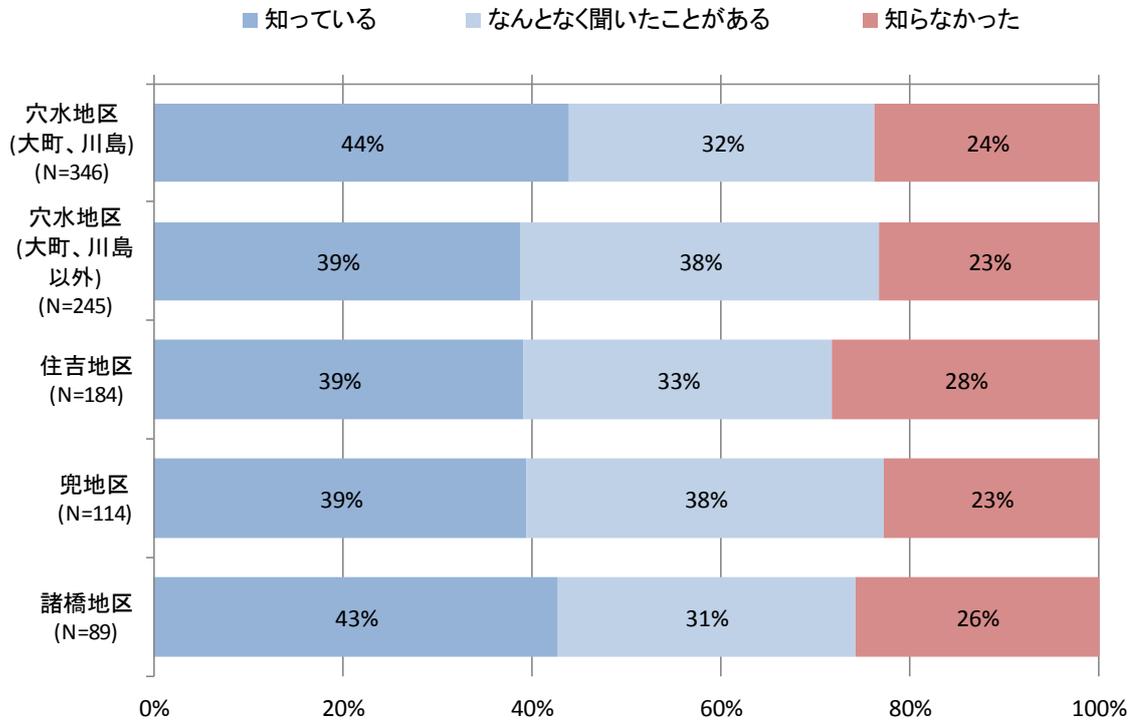
■ 推計結果（年代別）

・年代別では、30歳代で「知らなかった」が41%と、他と比べて8ポイント以上高くなっている。

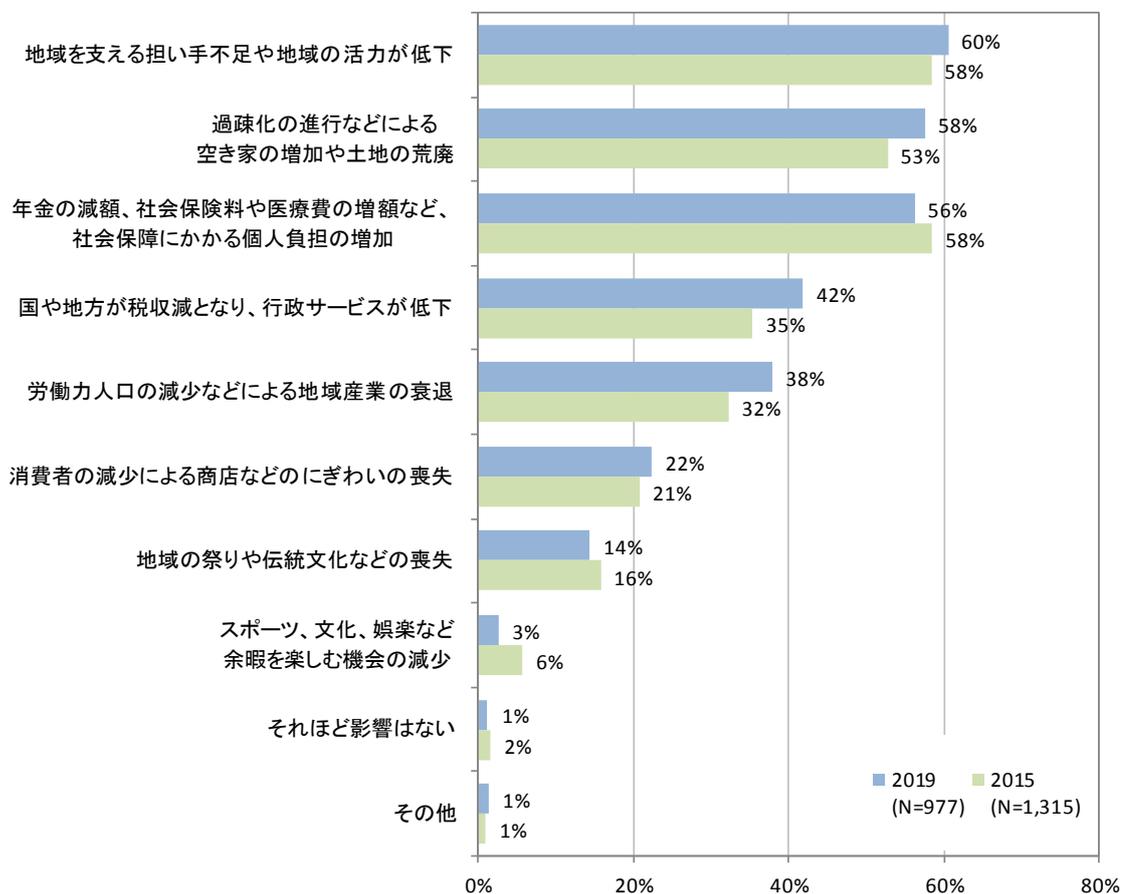


■ 推計結果（居住地別）

・居住地別では、大きな違いはみられなかった。



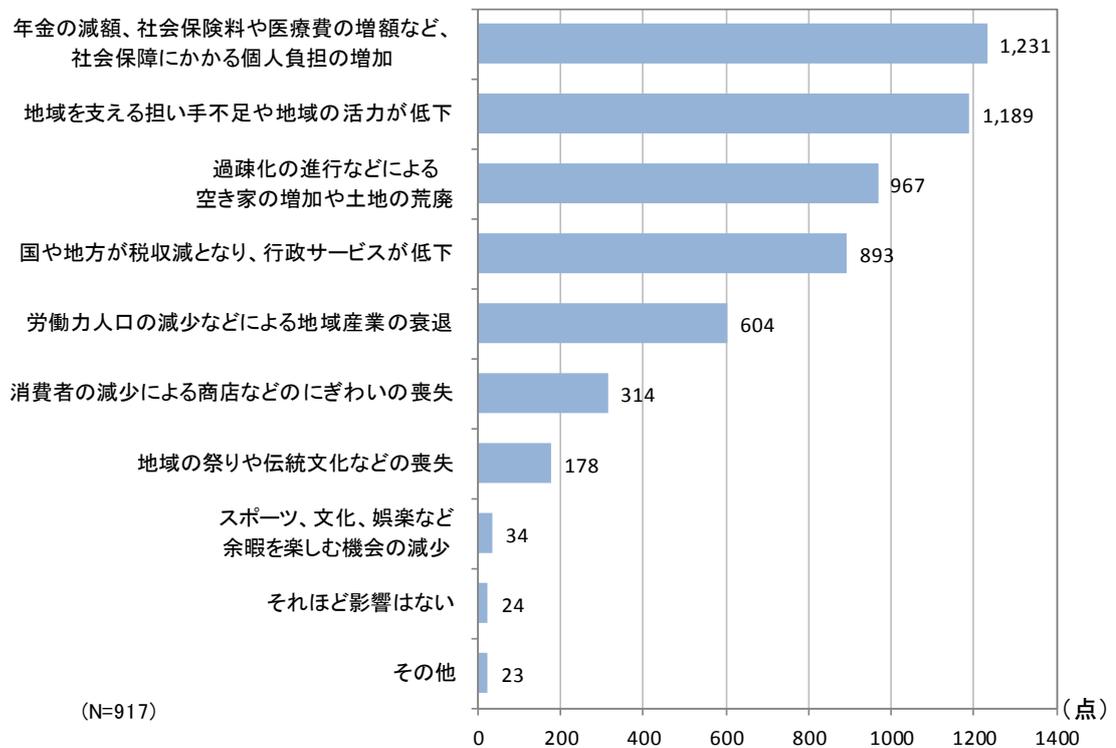
⑧ 社会への影響（3つ以内で回答）	【前回比較】
<p>・前回との比較では、2019年で「国や地方が税収減となり、行政サービスが低下」が42%と、2015年と比べて7ポイント高くなっている。</p>	



※集計について

前回調査（2015年）の結果と比較するため、順位を考慮せず集計した。

■ 社会への影響	【順位付け】
<p>・「年金の減額、社会保険料や医療費の増額など、社会保障にかかる個人負担の増加」が1,231点で最も多く、次いで「地域を支える担い手不足や地域の活力が低下」が1,189点、「過疎化の進行などによる空き家の増加や土地の荒廃」が967点となっている。</p>	



※算出方法

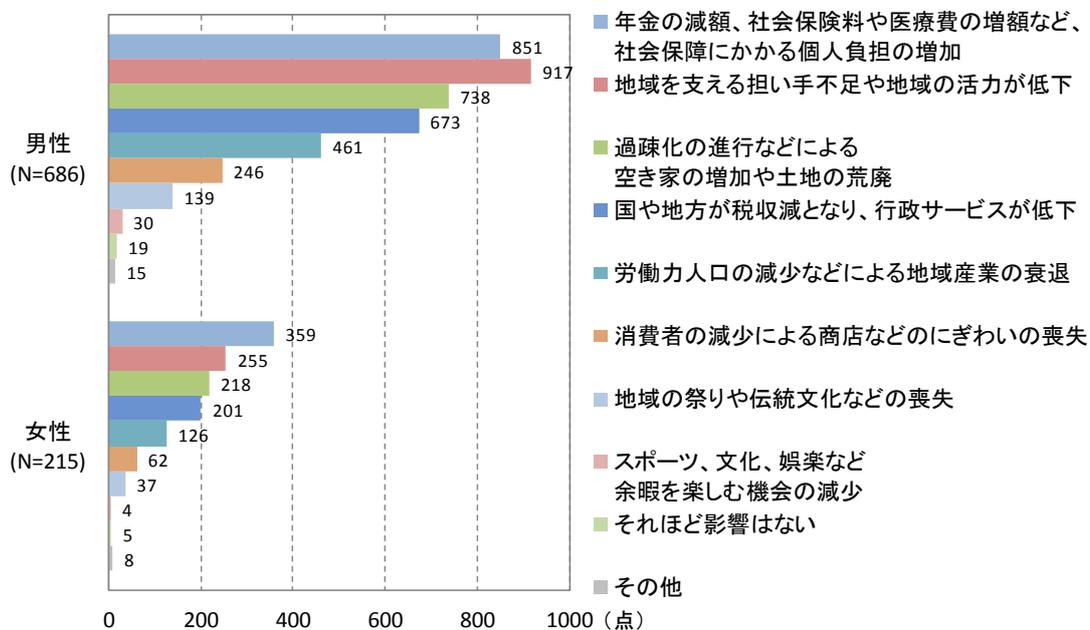
調査票では、1位～3位と順位毎に回答欄を設けており、1位を3点、2位を2点、3位を1点として集計し、各項目の点数を算出した。

※母数について

1位～3位のうち、2位のみ無回答である等の正確な順位が不明である回答は集計の対象外としているため、21頁の「前回比較」のグラフよりも母数は少なくなる。

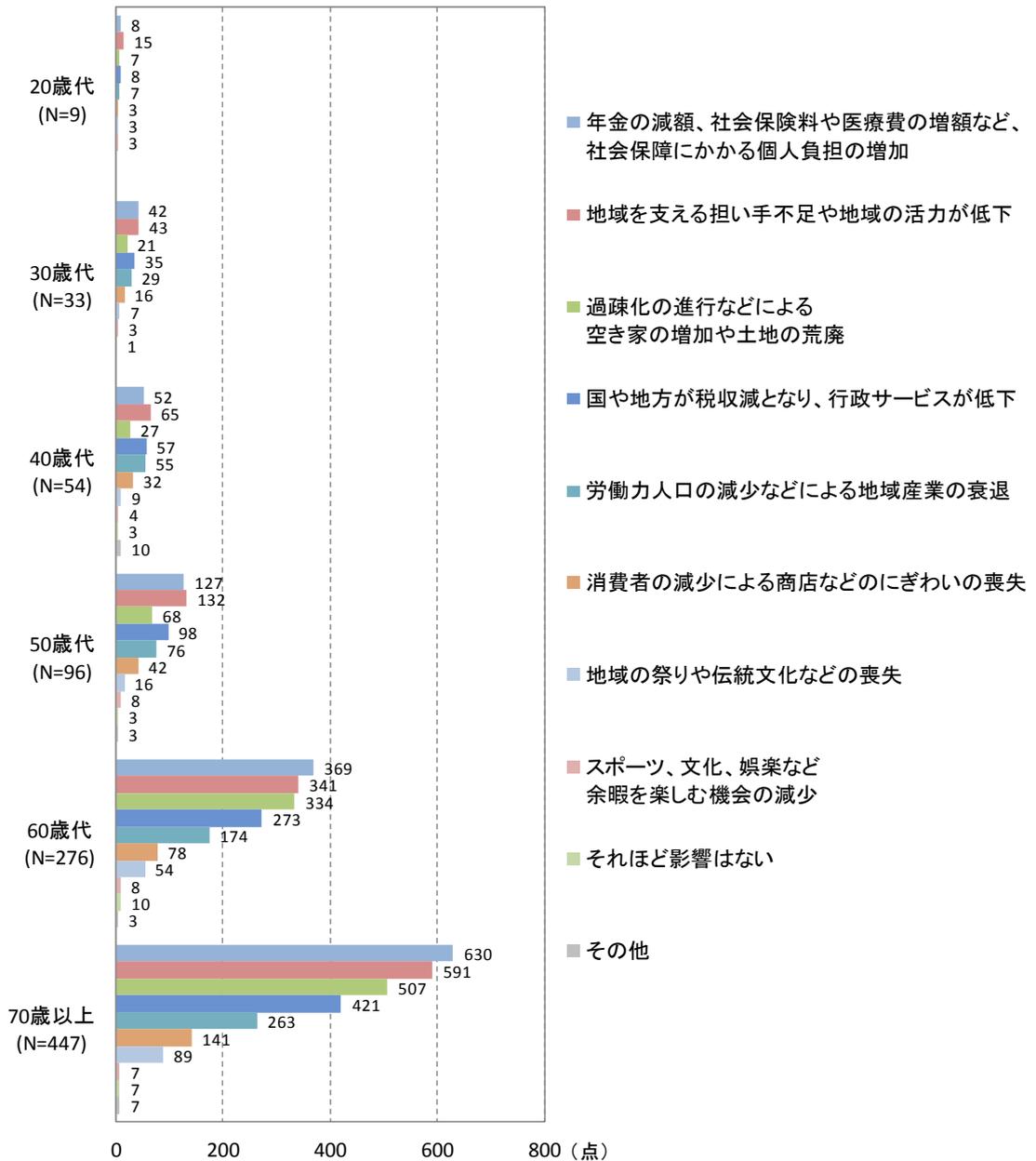
■社会への影響（性別）

・性別では、男性で「地域を支える担い手不足や地域の活力が低下」が最も高く、女性では「年金の減額、社会保険料や医療費の増額など、社会保障にかかる個人負担の増加」が最も高くなっている。



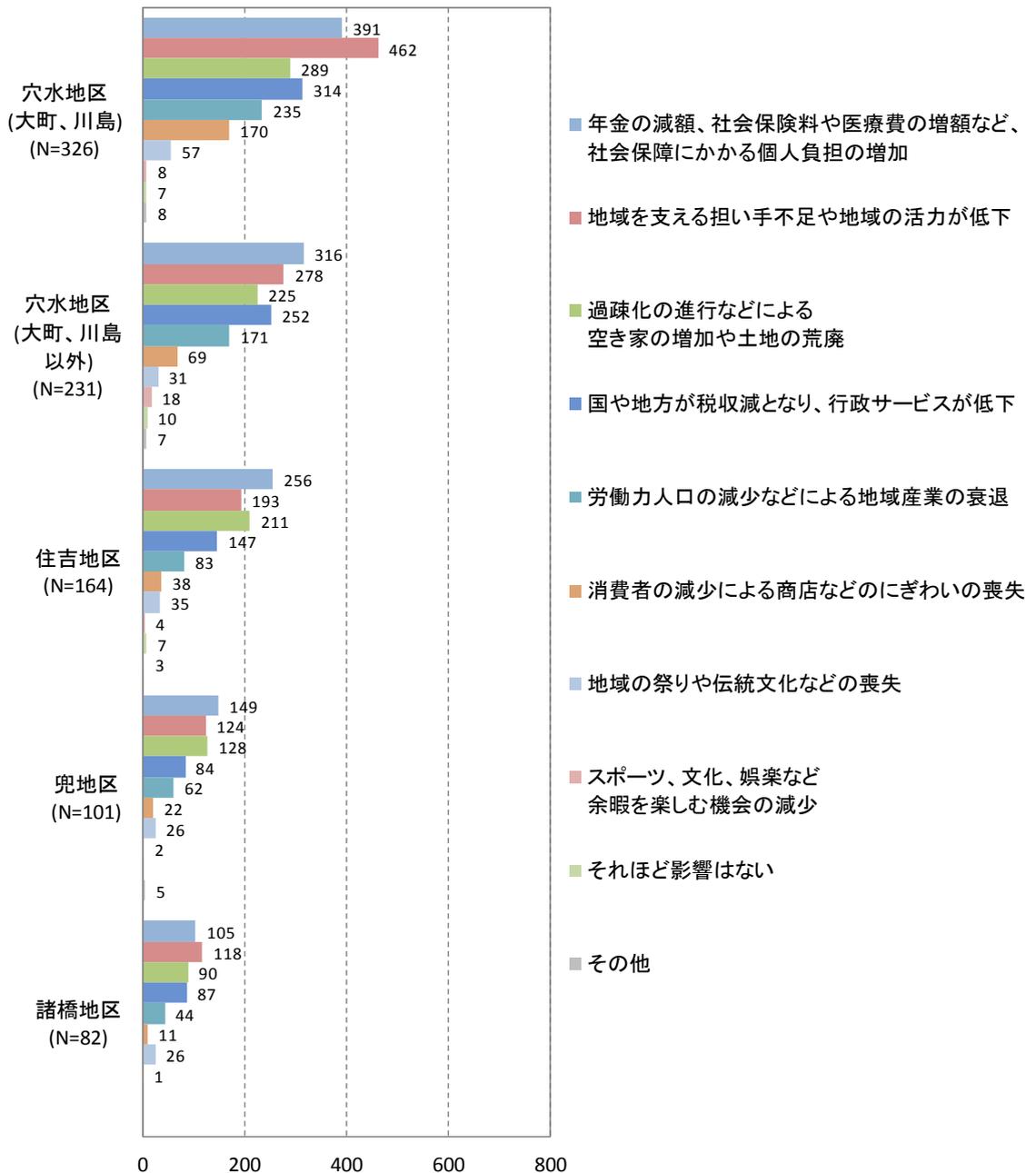
■社会への影響（年代別）

・年代別では、20歳代、30歳代、40歳代、50歳代で「地域を支える担い手不足や地域の活力が低下」が最も高く、60歳代、70歳以上で「年金の減額、社会保険料や医療費の増額など、社会保障にかかる個人負担の増加」が最も高くなっている。



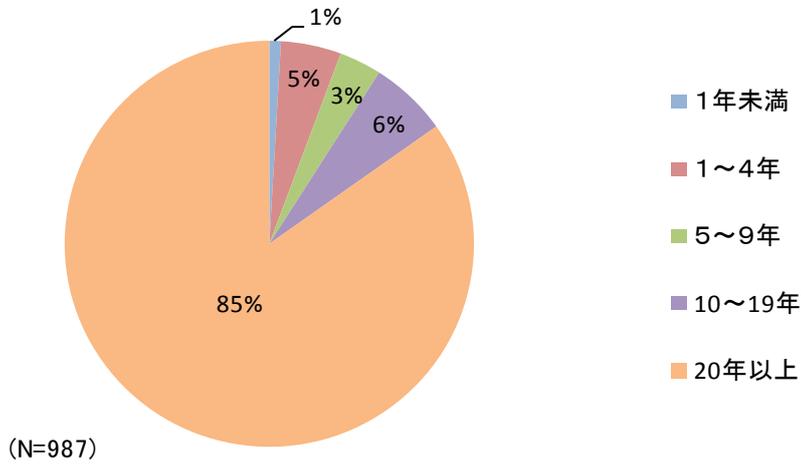
■社会への影響（居住地別）

・居住地別では、穴水地区（大町、川島）、諸橋地区で「地域を支える担い手不足や地域の活力が低下」が最も高く、穴水地区（大町、川島以外）、住吉地区、兜地区で「年金の減額、社会保険料や医療費の増額など、社会保障にかかる個人負担の増加」が最も高くなっている。

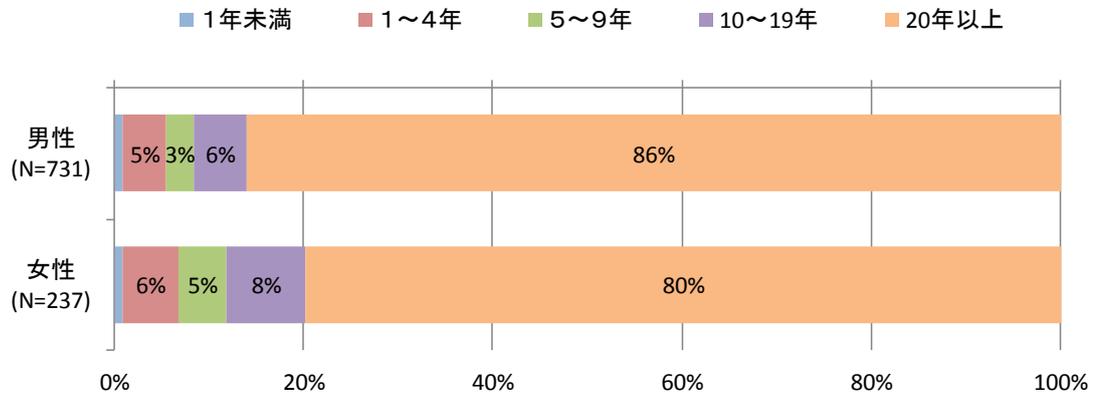


【問3】穴水町の居住・魅力について

⑨	居住年数	【新規設問】
<p>・「20年以上」が85%で最も多く、次いで「10～19年」が6%、「1～4年」が5%となっている。</p>		



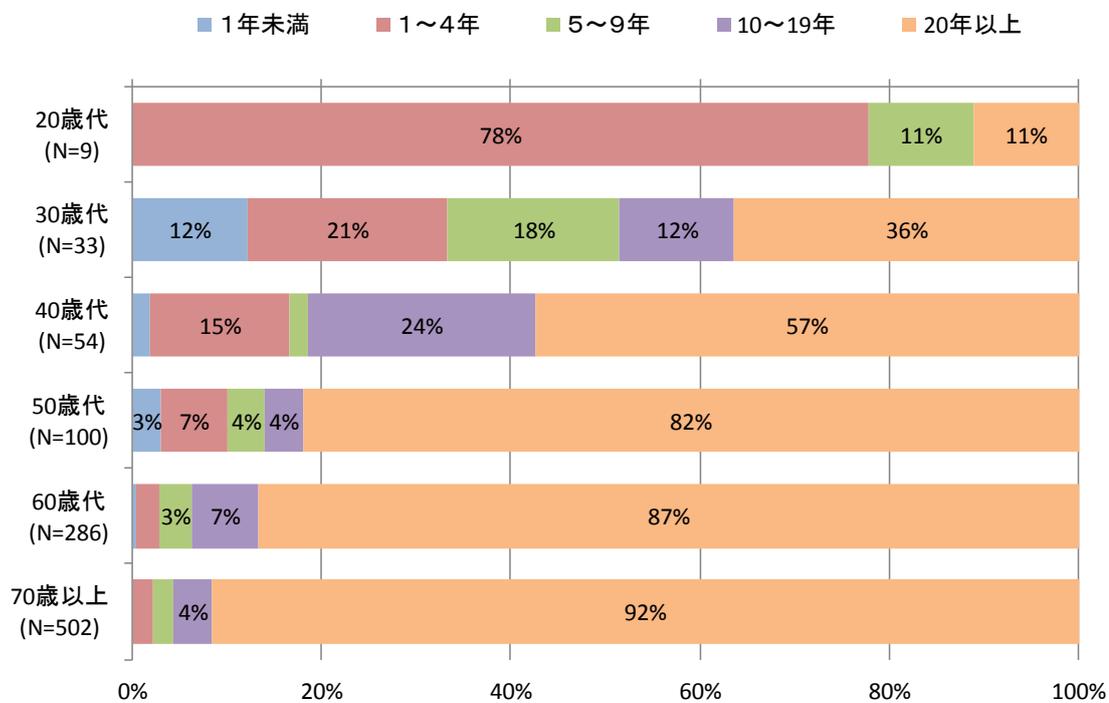
■ 居住年数（性別）
<p>・性別では、男性で「20年」が86%と、女性と比べて6ポイント高くなっている。</p>



※ 3%未満は非表示

■ 居住年数（年代別）

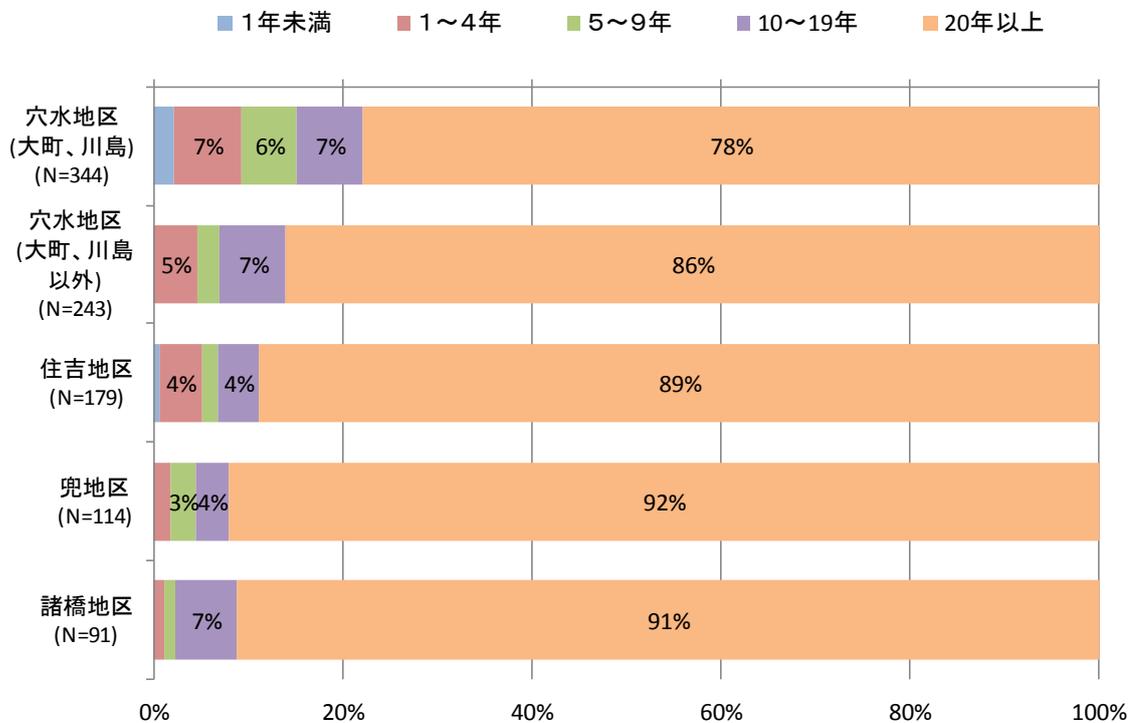
・年代別では、20歳代で「1～4年」が78%と、他と比べて57ポイント以上高くなっている。



※ 3%未満は非表示

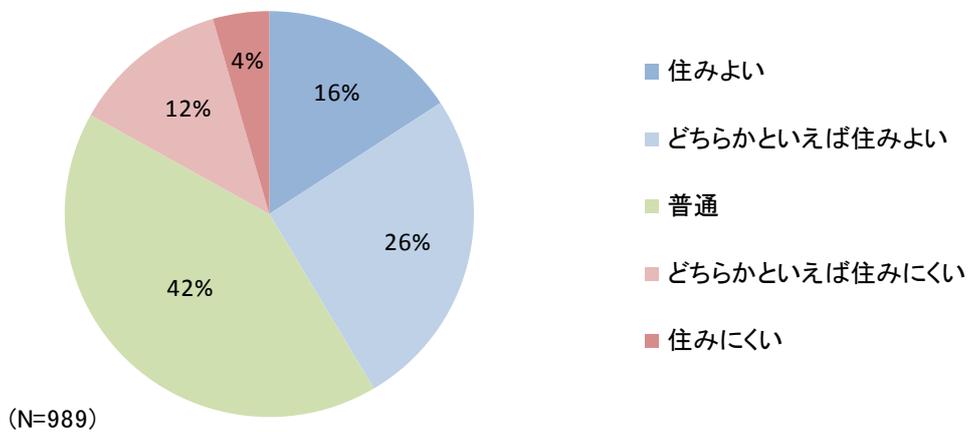
■ 居住年数（居住地別）

・居住地別では、穴水地区（大町、川島）で「20年以上」が78%と、他と比べて8ポイント以上低くなっている。

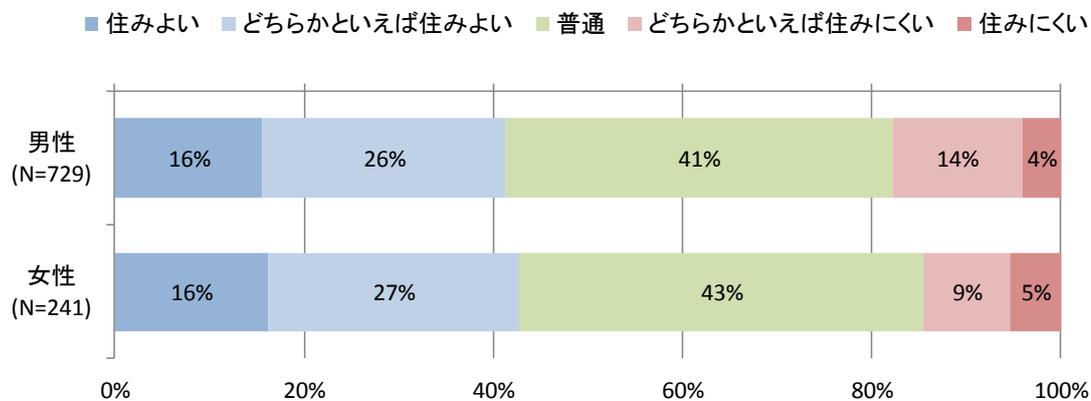


※ 3%未満は非表示

⑩	住み心地	【新規設問】
<p>・「普通」が42%で最も多く、次いで「どちらかといえば住みよい」が26%、「住みよい」が16%となっている。</p>		

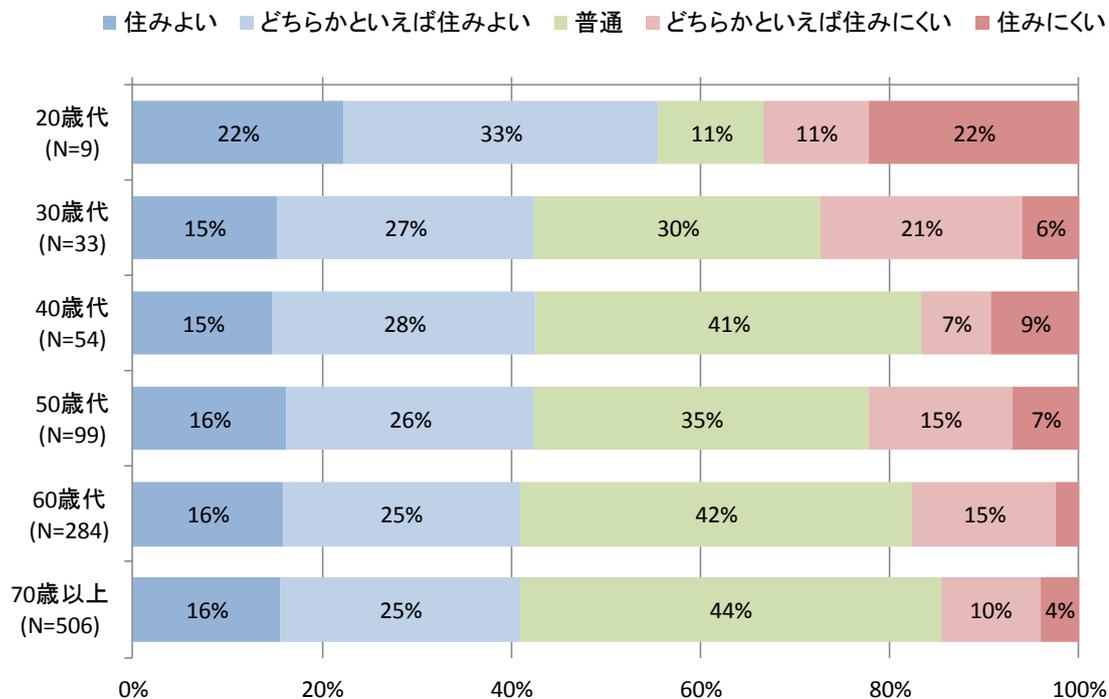


■ 住み心地 (性別)
<p>・性別では、大きな違いはみられなかった。</p>



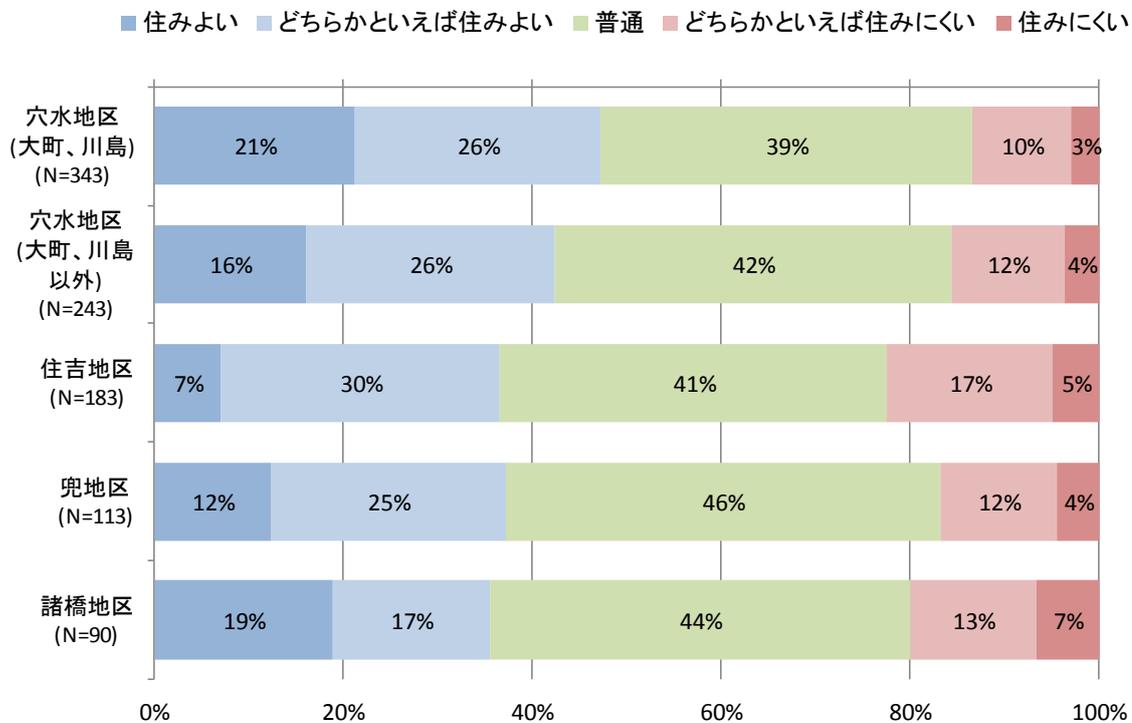
■ 住み心地（年代別）

・年代別では、20歳代で「住みよい」「どちらかといえば住みよい」の合計が55%と、他の合計と比べて12ポイント以上高くなっている。



■ 住み心地（居住地別）

・居住地別では、穴水地区（大町、川島）で「住みよい」「どちらかといえば住みよい」の合計が47%と、最も高くなっている。



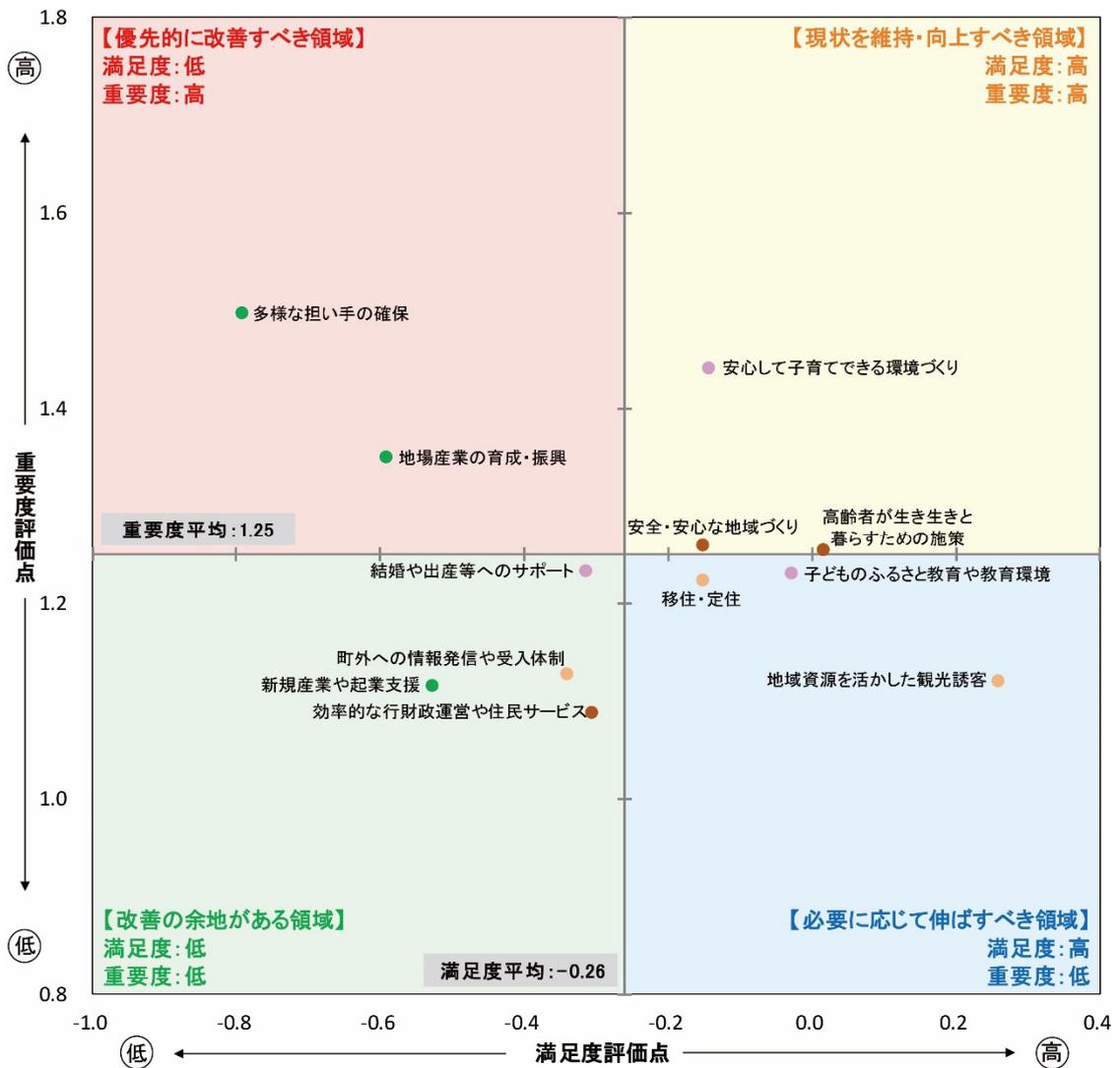
⑪	穴水町の自慢（3つ以内で自由回答）
<p>・「祭り（329件）」、「空港（246件）」、「自然（198件）」に関する回答が多く、「祭り」では主に「カキ祭り」「まいもん祭り」「長谷部祭り」「キリコ祭り」等が回答されている。</p>	

項目	回答数	回答数	主な回答
	2019年 (N=1767)	2015年 (N=2005)	
祭り	329	451	カキ祭り
			まいもん祭り
			長谷部祭り
			キリコ祭り
空港	246	198	のと里山空港
自然	198	177	自然が豊か
			海と山がある
食べ物	149	125	海の幸、山の幸
			食べ物が美味しい
交通	96	59	交通の便が良い
			奥能登交通アクセスの中核
海	76	227	海がきれい
			波静かな穴水湾がある
ワイン	61	69	のとワイン
			のとワイン工場
ボラ待ちやぐら	54	93	ボラ待ちやぐら
能登長寿大仏	50	12	能登長寿大仏
人柄	47	49	人が優しい
			親切な人が多い
景観	36	16	景色が良い
			海岸沿いの自然景観
治安	34	19	治安の良さ
			静かで暮らしやすい
地域交流・行事	33	11	人と人とのつながりが強い
カキ	32	60	カキ
遠藤関 (幕内力士)	32	105	遠藤関
災害	28	9	災害が少ない
のと鉄道	21	25	のと鉄道がある
奥能登	20	18	奥能登の玄関口

項目	回答数	回答数	主な回答
	2019年 (N=1767)	2015年 (N=2005)	
のと里山海道	18	12	のと里山海道へのアクセスが便利
星空	18	10	星空がきれい
能登鹿島駅 (能登さくら駅)	13	14	能登さくら駅
潮騒の道	11	13	潮騒の道
空気	11	7	空気がきれい
釣り	10	11	海がおだやかで、安全に釣りができる
子育て・教育	7	-	小、中、高校が整備されている
時間	6	9	ゆったりした時間が過ごせる
土地	6	6	再利用が可能な広大な土地空間
医療	6	4	病院が近くにあり安心である
健康づくり	6	-	健康長寿の町
行政	6	-	小さい町だが、行政サービスが充実している
特になし	6	31	自慢できるものはないと思う
歴史	5	4	歴史
中居	4	14	中居鋳物館
遊歩道	4	-	海沿の散歩道
あすなる広場	4	-	あすなる広場
穴水駅伝	4	-	穴水駅伝
スポーツ	4	-	スポーツが盛ん
来迎寺	3	4	来迎寺
相撲	3	7	相撲
能登牛	2	4	能登牛
いさざ	1	5	いさざ取り
七尾湾	-	4	-
水	-	7	-
ポリテクカレッジ	-	6	-
蛭	-	5	-
その他	67	105	まいもんの里 農漁業ができること

【問4】人口減少対策の施策や具体的な取組について

⑫	施策に対する満足度と重要度	【新規設問】
<p>・満足度が低く重要度が高い「優先的に改善すべき」項目は、「多様な担い手の確保」「地場産業の育成・振興」となっている。</p>		



※評価点の算出方法

- ・満足度と重要度については、下記の計算式にあるように数段階の評価に点数を与え、評価点を算出した。ただし、無回答については除外した。
- ・点数が高いほど満足度、重要度が高く、反対に点数が低いほど満足度、重要度は低い。

【評価点の算出式】

満足度評価点 = {満足である × (2点) + やや満足である × (1点) + やや不満である × (-1点) + 不満である × (-2点) + わからない × (0点)} ÷ 回答者数

重要度評価点 = {重要である × (2点) + やや重要である × (1点) + あまり重要でない × (-1点) + 重要でない × (-2点)} ÷ 回答者数

■ 満足度及び重要度の評価点一覧

	評価項目		満足度	重要度
基本 目標 1	1	地場産業の育成・振興に関する施策	-0.59	1.35
	2	新規産業や起業支援に関する施策	-0.53	1.12
	3	多様な担い手の確保に関する施策	-0.79	1.50
基本 目標 2	4	地域資源を活かした観光誘客に関する施策	0.26	1.12
	5	町外への情報発信や受入体制に関する施策	-0.34	1.13
	6	移住・定住に関する施策	-0.15	1.22
基本 目標 3	7	結婚や出産等へのサポートに関する施策	-0.31	1.23
	8	安心して子育てできる環境づくりに関する施策	-0.14	1.44
	9	子どものふるさと教育や教育環境に関する施策	-0.03	1.23
基本 目標 4	10	安全・安心な地域づくりに関する施策	-0.15	1.26
	11	高齢者が生き生きと暮らすための施策	0.02	1.25
	12	効率的な行財政運営や住民サービスに関する施策	-0.31	1.09
平均			-0.26	1.25

■ 満足度の回答数一覧

	評価項目	わからない	不満	やや不満	やや満足	満足	回答者数	満足度
1	地場産業の育成・振興に関する施策	303	199	273	116	11	902	-0.591
2	新規産業や起業支援に関する施策	360	172	235	99	9	875	-0.528
3	多様な担い手の確保に関する施策	248	268	271	90	8	885	-0.792
4	地域資源を活かした観光誘客に関する施策	122	92	182	404	97	897	0.259
5	町外への情報発信や受入体制に関する施策	215	167	251	236	23	892	-0.340
6	移住・定住に関する施策	244	134	210	252	46	886	-0.151
7	結婚や出産等へのサポートに関する施策	362	123	225	155	19	884	-0.314
8	安心して子育てできる環境づくりに関する施策	274	119	211	221	51	876	-0.144
9	子どものふるさと教育や教育環境に関する施策	308	77	196	255	35	871	-0.029
10	安全・安心な地域づくりに関する施策	209	114	242	272	33	870	-0.152
11	高齢者が生き生きと暮らすための施策	168	116	213	344	58	899	0.017
12	効率的な行財政運営や住民サービスに関する施策	260	165	219	217	30	891	-0.305

■ 満足度のランキング

順位	評価項目	満足度
1	地域資源を活かした観光誘客に関する施策	0.259
2	高齢者が生き生きと暮らすための施策	0.017
3	子どものふるさと教育や教育環境に関する施策	-0.029
4	安心して子育てできる環境づくりに関する施策	-0.144
5	移住・定住に関する施策	-0.151
6	安全・安心な地域づくりに関する施策	-0.152
7	効率的な行財政運営や住民サービスに関する施策	-0.305
8	結婚や出産等へのサポートに関する施策	-0.314
9	町外への情報発信や受入体制に関する施策	-0.340
10	新規産業や起業支援に関する施策	-0.528
11	地場産業の育成・振興に関する施策	-0.591
12	多様な担い手の確保に関する施策	-0.792

■重要度の回答数一覧

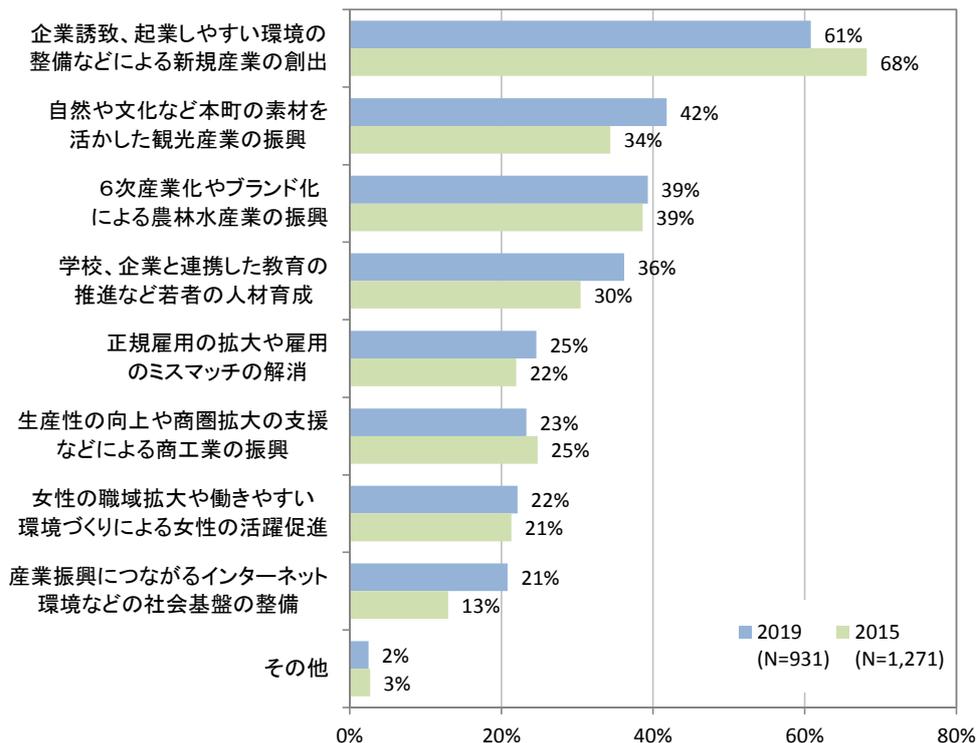
	評価項目	重要でない	あまり重要でない	やや重要	重要	回答者数	重要度
1	地場産業の育成・振興に関する施策	20	53	301	457	831	1.350
2	新規産業や起業支援に関する施策	30	78	372	341	821	1.116
3	多様な担い手の確保に関する施策	13	36	263	530	842	1.498
4	地域資源を活かした観光誘客に関する施策	20	95	371	351	837	1.121
5	町外への情報発信や受入体制に関する施策	25	76	394	333	828	1.128
6	移住・定住に関する施策	25	68	337	395	825	1.223
7	結婚や出産等へのサポートに関する施策	25	64	332	393	814	1.233
8	安心して子育てできる環境づくりに関する施策	13	41	283	482	819	1.441
9	子どものふるさと教育や教育環境に関する施策	18	66	355	373	812	1.230
10	安全・安心な地域づくりに関する施策	17	61	361	387	826	1.259
11	高齢者が生き生きと暮らすための施策	10	70	382	385	847	1.254
12	効率的な行財政運営や住民サービスに関する施策	35	90	343	358	826	1.088

■重要度のランキング

順位	評価項目	重要度
1	多様な担い手の確保に関する施策	1.498
2	安心して子育てできる環境づくりに関する施策	1.441
3	地場産業の育成・振興に関する施策	1.350
4	安全・安心な地域づくりに関する施策	1.259
5	高齢者が生き生きと暮らすための施策	1.254
6	結婚や出産等へのサポートに関する施策	1.233
7	子どものふるさと教育や教育環境に関する施策	1.230
8	移住・定住に関する施策	1.223
9	町外への情報発信や受入体制に関する施策	1.128
10	地域資源を活かした観光誘客に関する施策	1.121
11	新規産業や起業支援に関する施策	1.116
12	効率的な行財政運営や住民サービスに関する施策	1.088

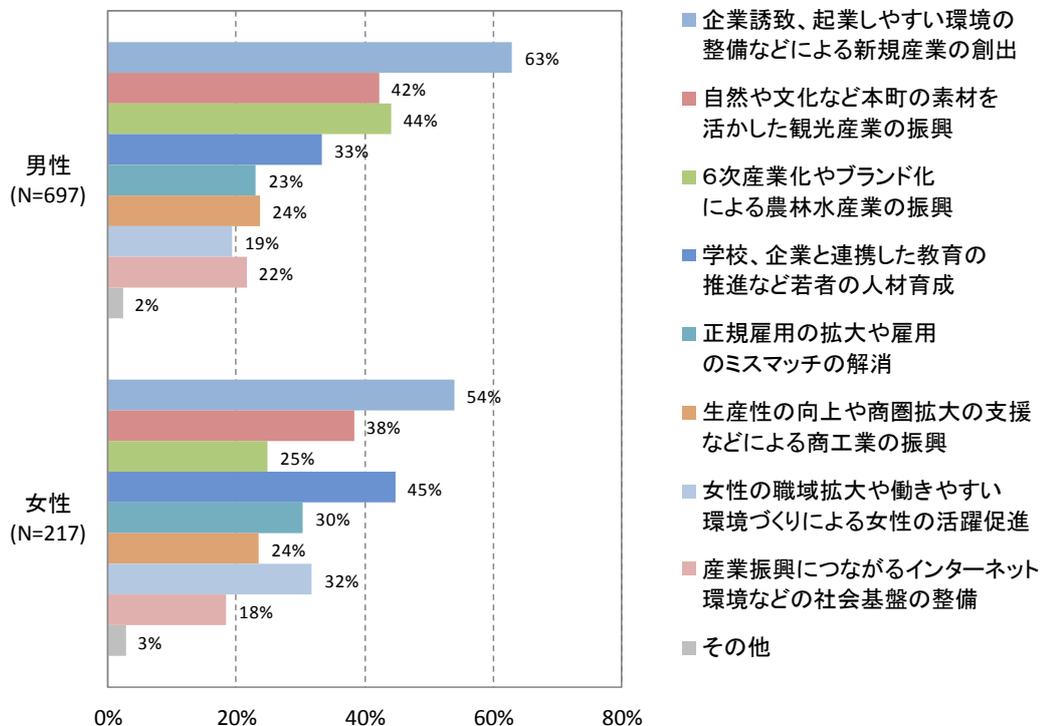
⑬ 地域の雇用創出や経済活性化の取組（3つ以内で回答）

- ・「企業誘致、起業しやすい環境の整備などによる新規産業の創出」が61%で最も多く、次いで「自然や文化など本町の素材を活かした観光産業の振興」が42%、「6次産業化やブランド化による農林水産業の振興」が39%となっている。
- ・前回との比較では「自然や文化など本町の素材を活かした観光産業の振興」が2019年で42%、また、「産業振興につながるインターネット環境などの社会基盤の整備」が2019年で21%と、2015年と比べて8ポイント高くなっている。



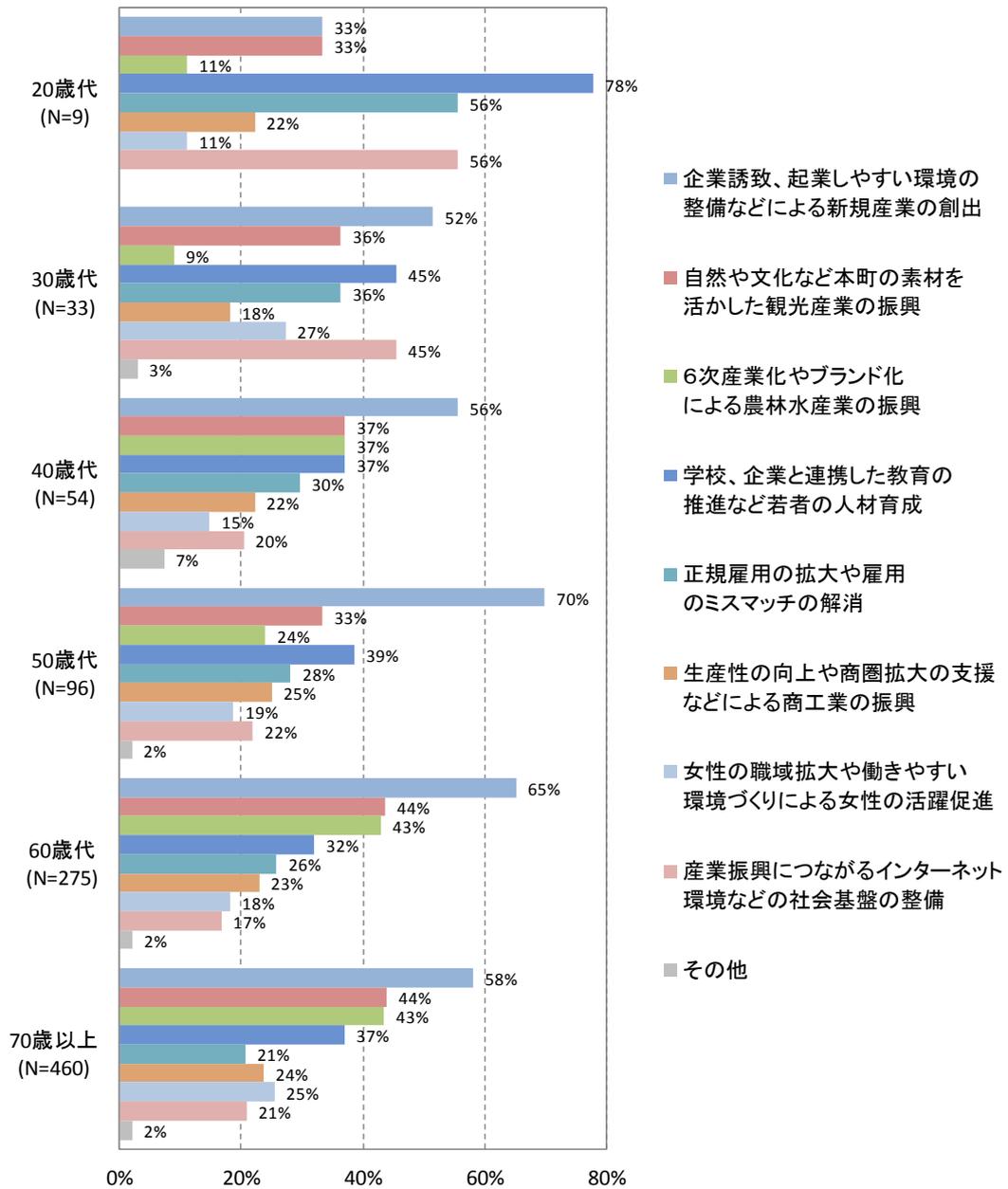
■地域の雇用創出や経済活性化の取組（性別）

・性別では、男性で「6次産業化やブランド化による農林水産業の振興」が44%と、女性と比べて19ポイント高くなっている。



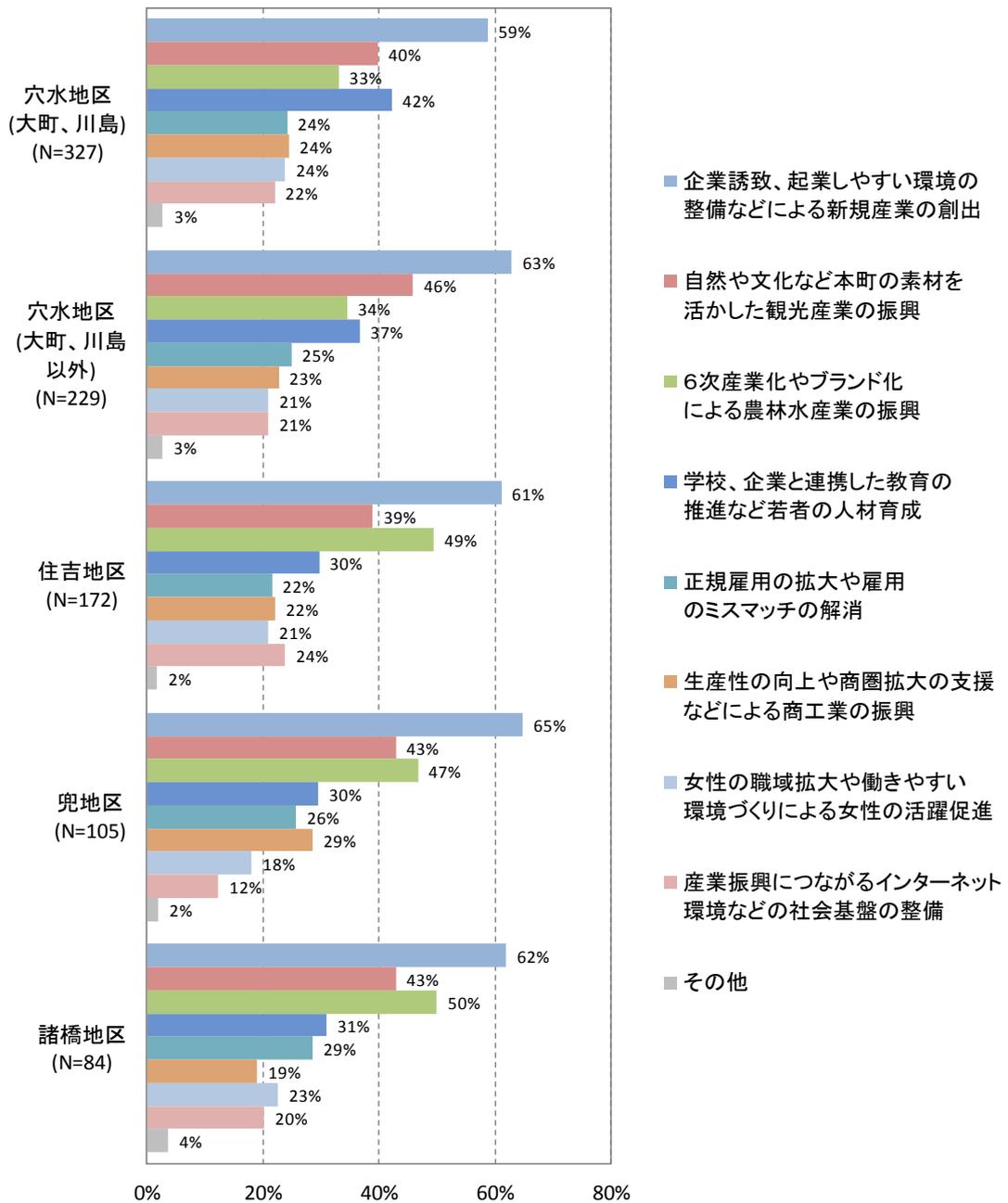
■地域の雇用創出や経済活性化の取組（年代別）

・年代別では、20歳代で「学校、企業と連携した教育の推進など若者の人材育成」が78%と、他と比べて33ポイント以上高くなっている。



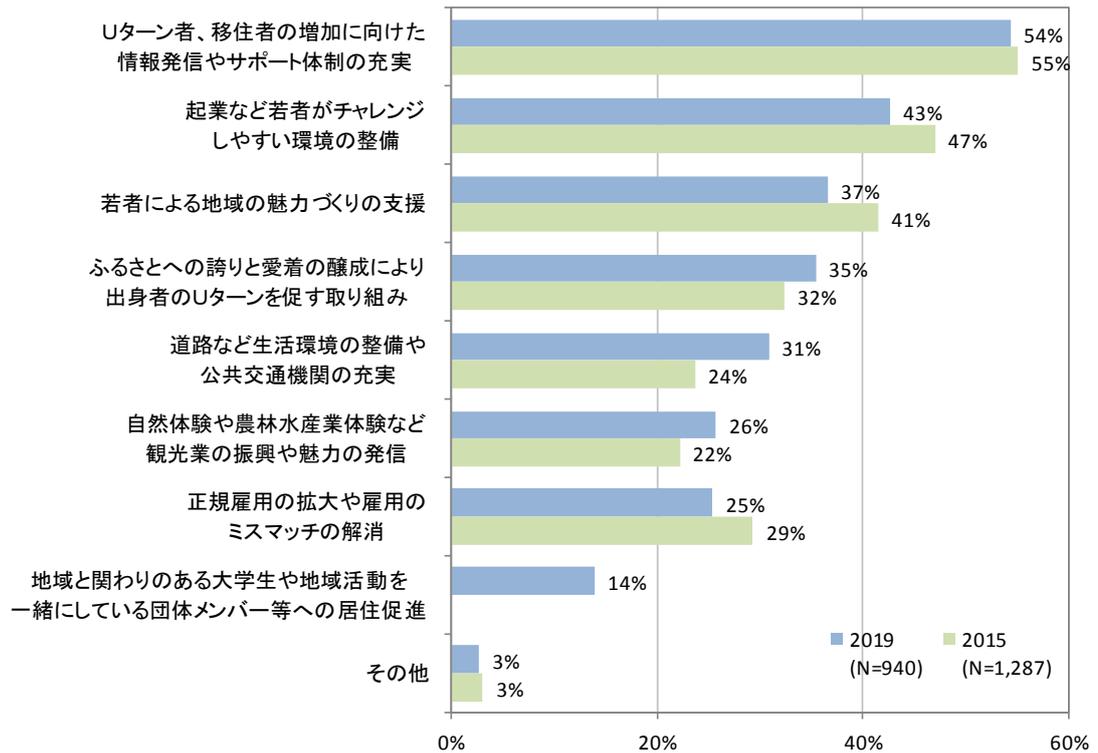
■地域の雇用創出や経済活性化の取組（居住地別）

・居住地別では、兜地区で「産業振興につながるインターネット環境などの社会基盤の整備」が12%と、他と比べて8ポイント以上低くなっている。



⑭ 来訪・移住・定住促進の取組（3つ以内で回答）

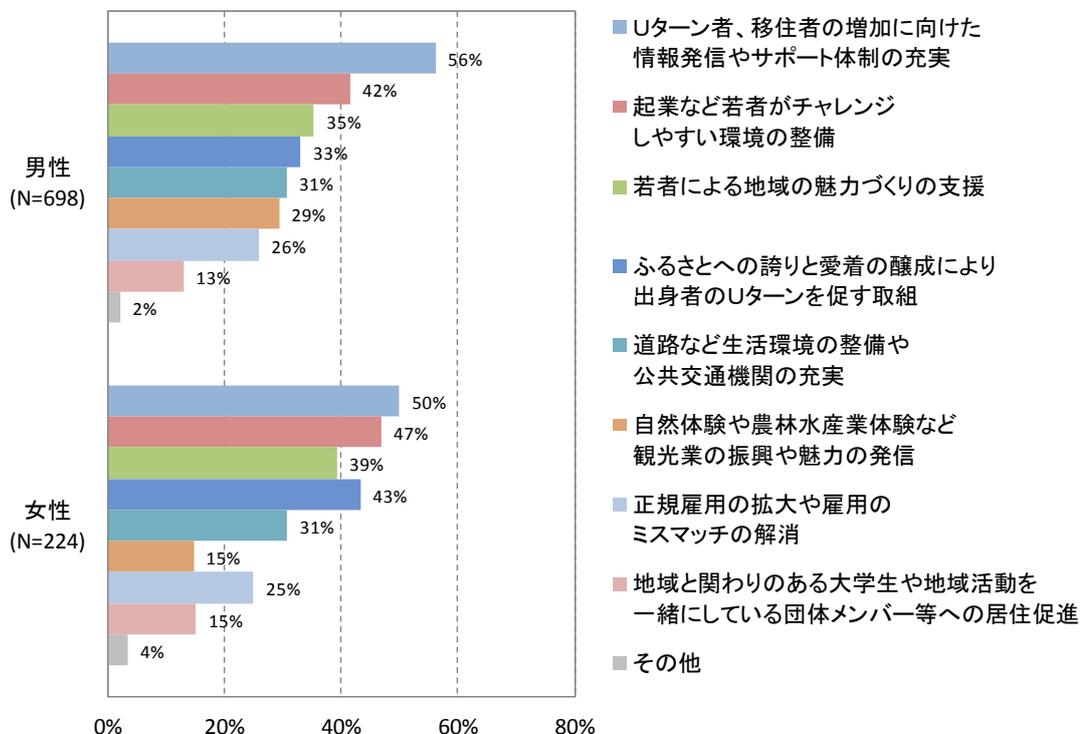
- ・「Uターン者、移住者の増加に向けた情報発信やサポート体制の充実」が54%で最も多く、次いで「起業など若者がチャレンジしやすい環境の整備」が43%、「若者による地域の魅力づくりの支援」が37%となっている。
- ・前回との比較では、2019年で「道路など生活環境の整備や公共交通機関の充実」が31%と、2015年と比べて7ポイント高くなっている。



※本調査（2019年）では、前回調査（2015年）から「地域と関わりのある大学生や地域活動と一緒にしている団体メンバー等への居住促進」の選択肢を追加している。

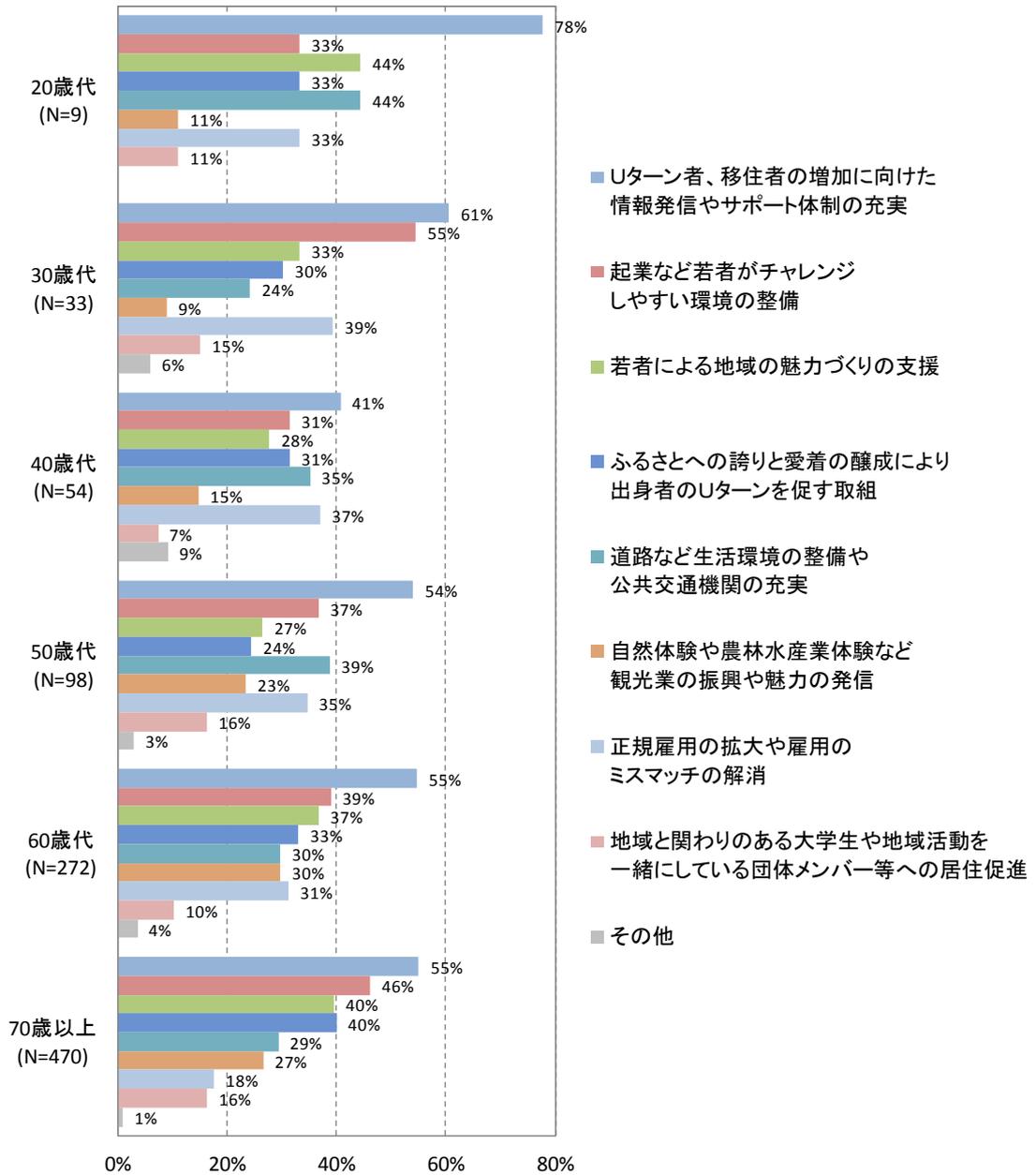
■ 来訪・移住・定住促進の取組（性別）

・性別では、男性で「自然体験や農林水産業体験など観光業の振興や魅力の発信」が29%と、女性と比べて14ポイント高くなっている。



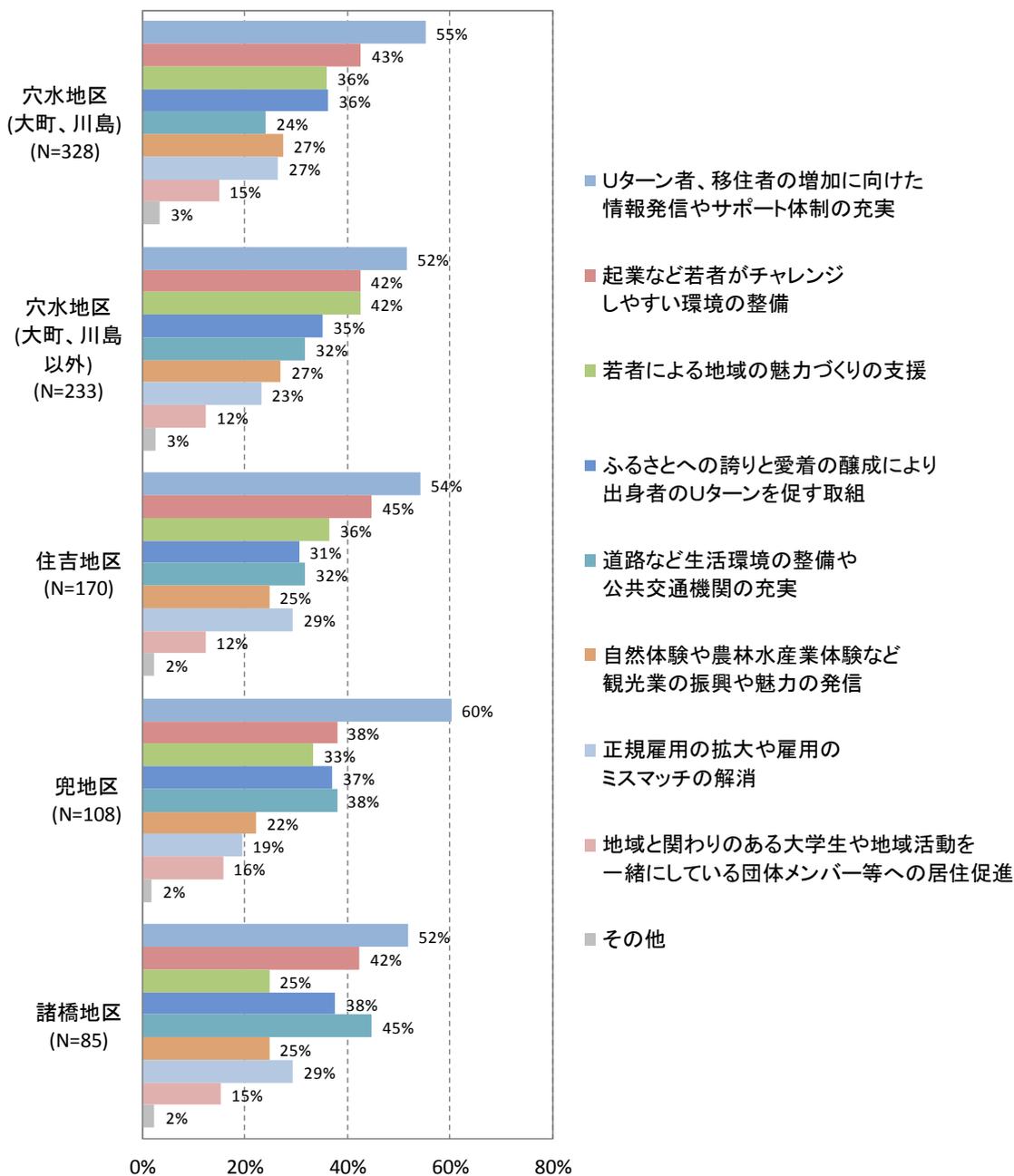
■ 来訪・移住・定住促進の取組（年代別）

・年代別では、20歳代で「Uターン者、移住者の増加に向けた情報発信やサポート体制の充実」が78%と、他と比べて17ポイント以上高くなっている。



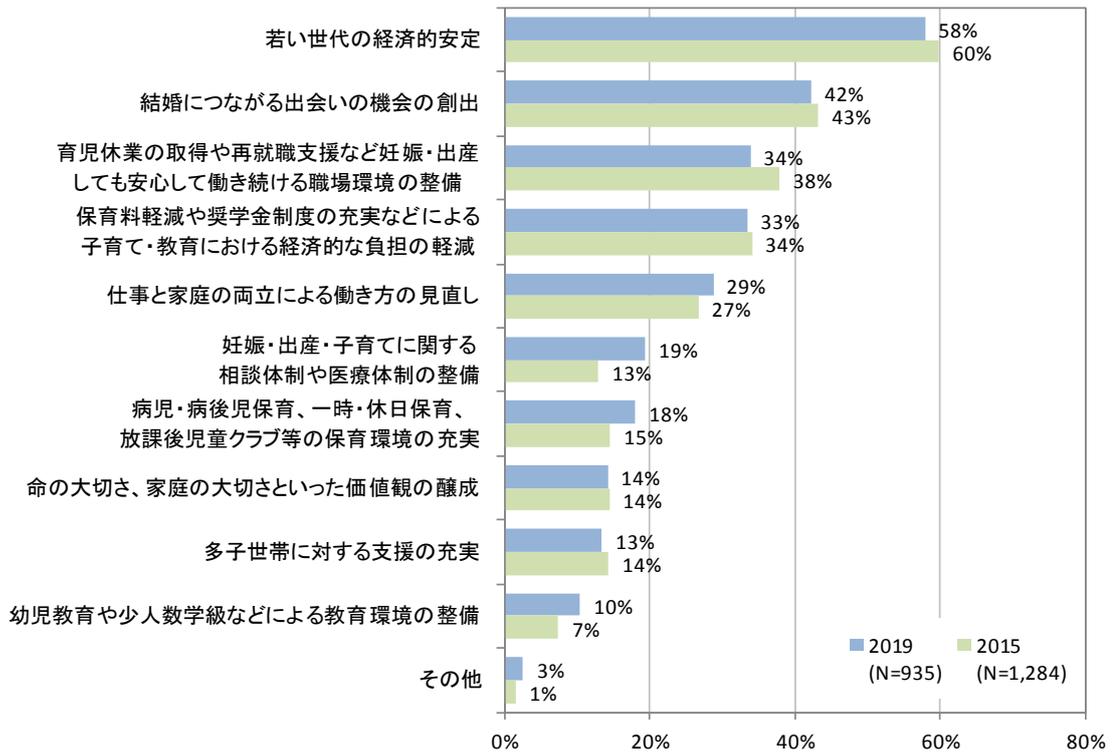
■ 来訪・移住・定住促進の取組（居住地別）

・居住地別では、諸橋地区で「道路など生活環境の整備や公共交通機関の充実」が45%と、他と比べて7ポイント以上高くなっている。



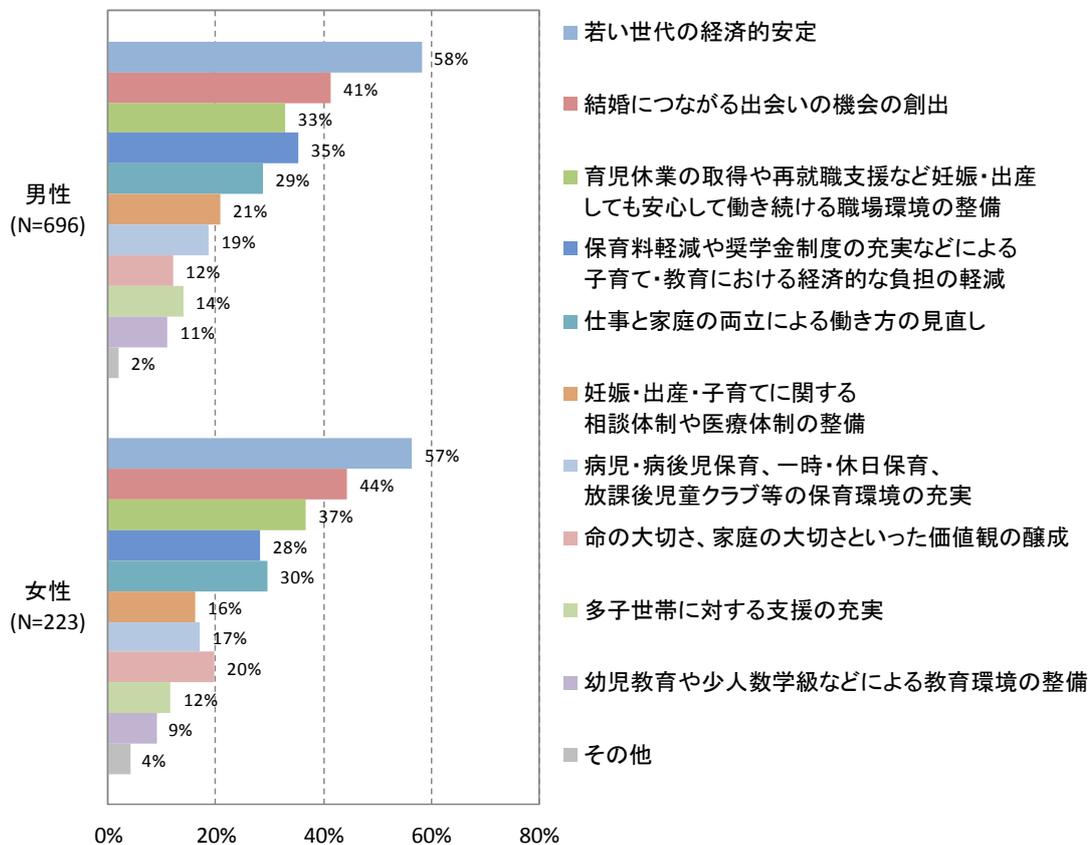
⑮-1 少子化の取組（3つ以内で回答）

- ・「若い世代の経済的安定」が58%で最も多く、次いで「結婚につながる出会いの機会の創出」が42%、「育児休業の取得や再就職支援など妊娠・出産しても安心して働き続ける職場環境の整備」が34%となっている。
- ・前回との比較では、2019年で「妊娠・出産・子育てに関する相談体制や医療体制の整備」が19%と、2015年と比べて6ポイント高くなっている。



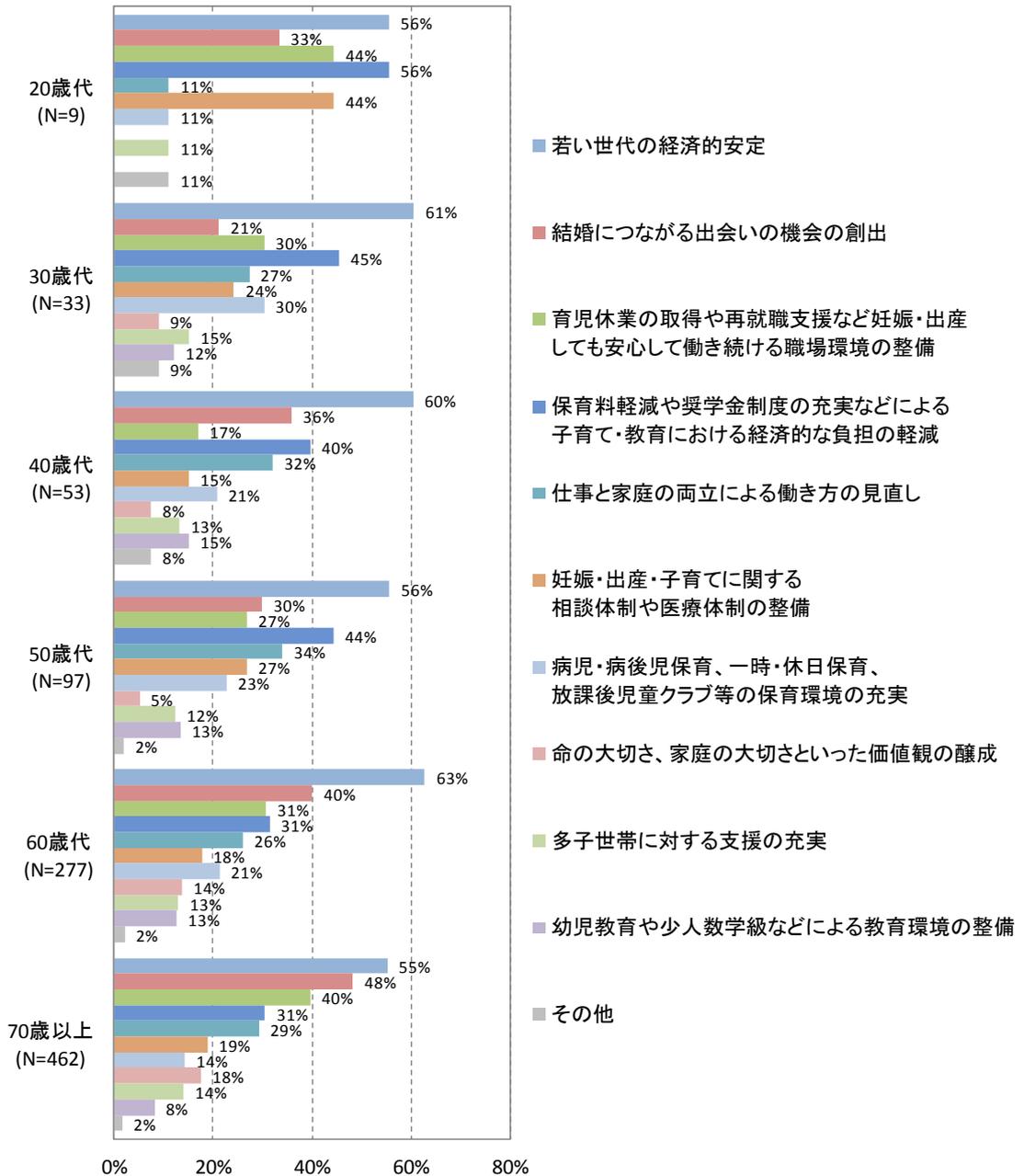
■ 少子化の取組（性別）

・性別では、女性で「命の大切さ、家庭の大切さといった価値観の醸成」が20%と、男性と比べて8ポイント高くなっている。



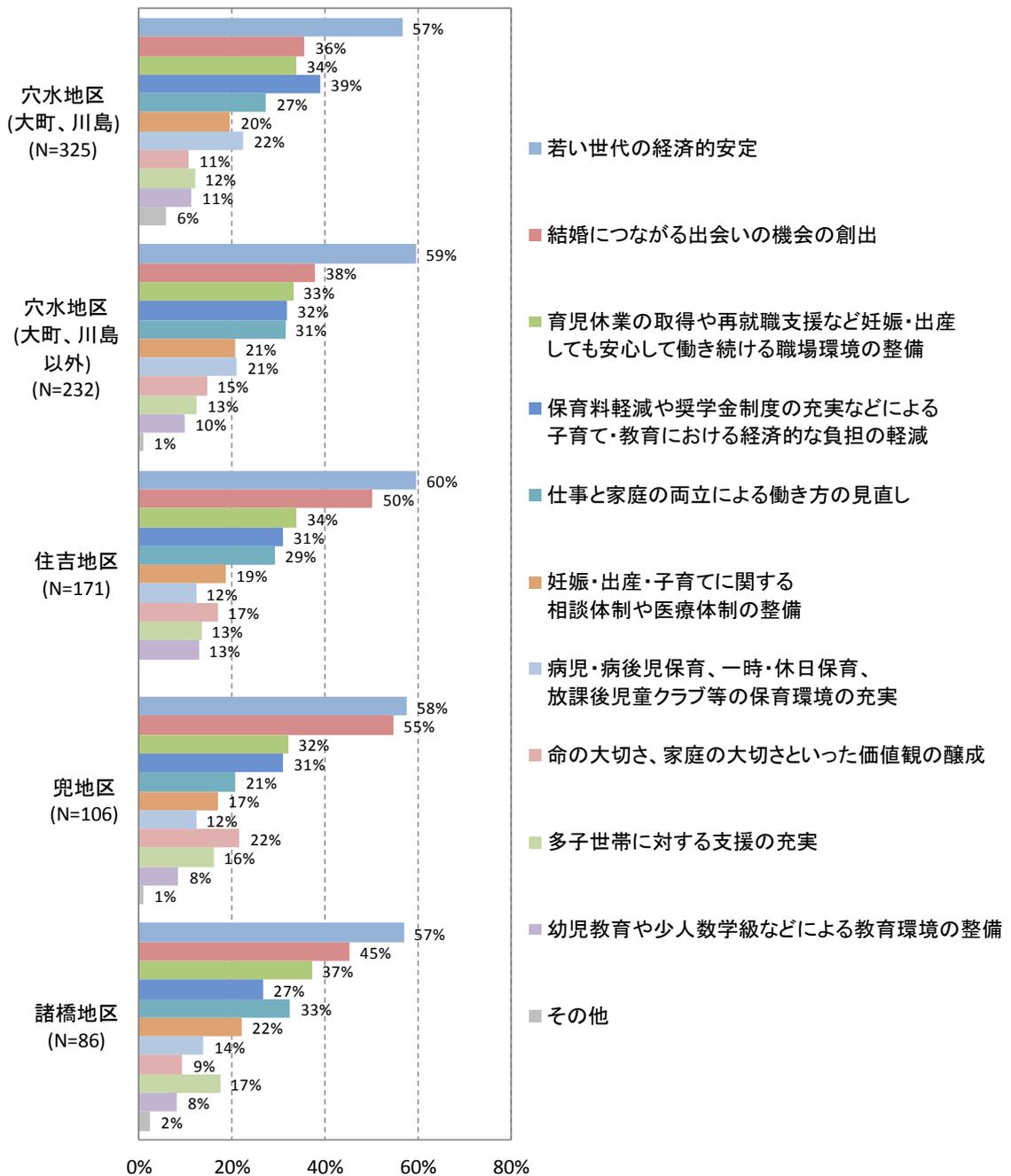
■ 少子化の取組（年代別）

・年代別では、20歳代で「妊娠・出産・子育てに関する相談体制や医療体制の整備」が44%と、他と比べて17ポイント以上高くなっている。



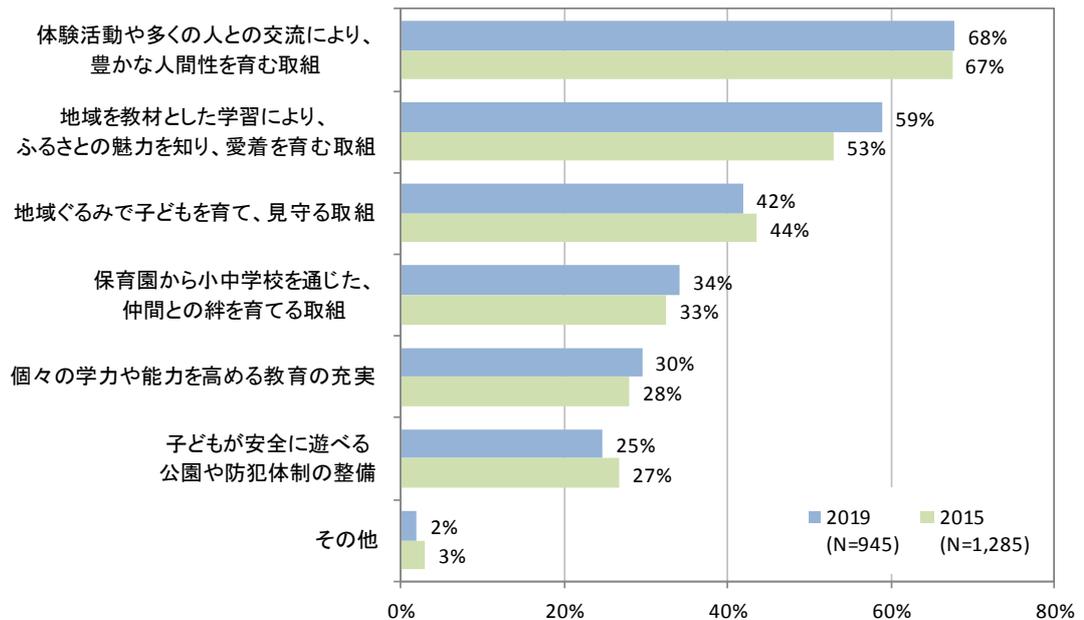
■ 少子化の取組（居住地別）

・居住地別では、穴水地区（大町、川島）で「保育料軽減や奨学金制度の充実などによる子育て・教育における経済的な負担の軽減」が39%と、他と比べて7ポイント以上高くなっている。



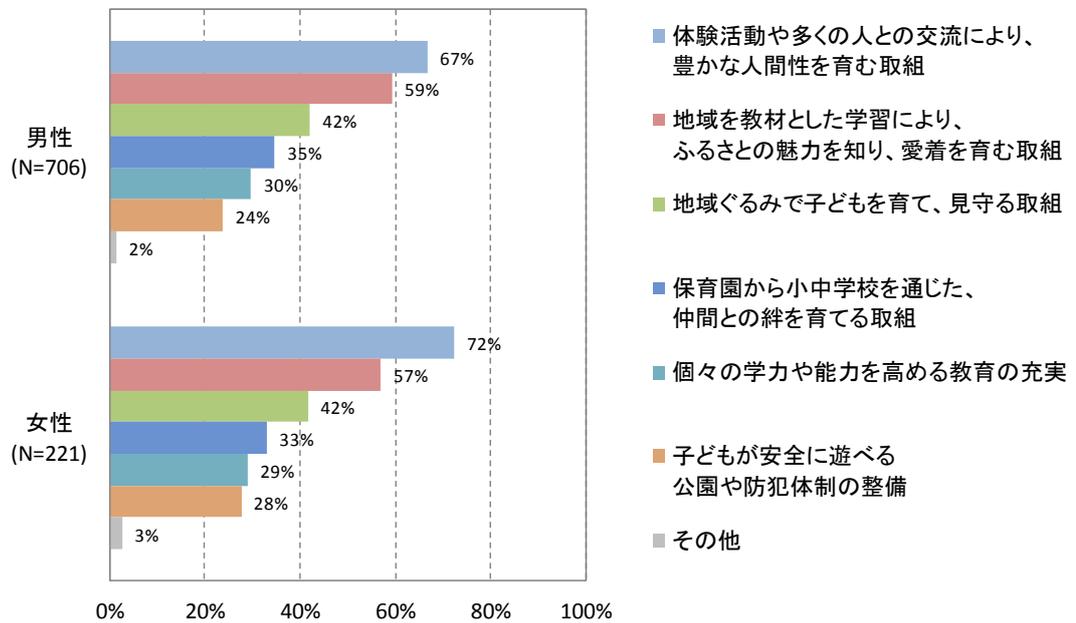
⑮-2 ふるさに愛着をもてる子どもに育成する取組（3つ以内で回答）

- ・「体験活動や多くの人との交流により、豊かな人間性を育む取組」が68%で最も多く、次いで「地域を教材とした学習により、ふるさとの魅力を知り、愛着を育む取組」が59%、「地域ぐるみで子どもを育て、見守る取組」が42%となっている。
- ・前回との比較では、2019年で「地域を教材とした学習により、ふるさとの魅力を知り、愛着を育む取組」が59%と、2015年と比べて6ポイント高くなっている。



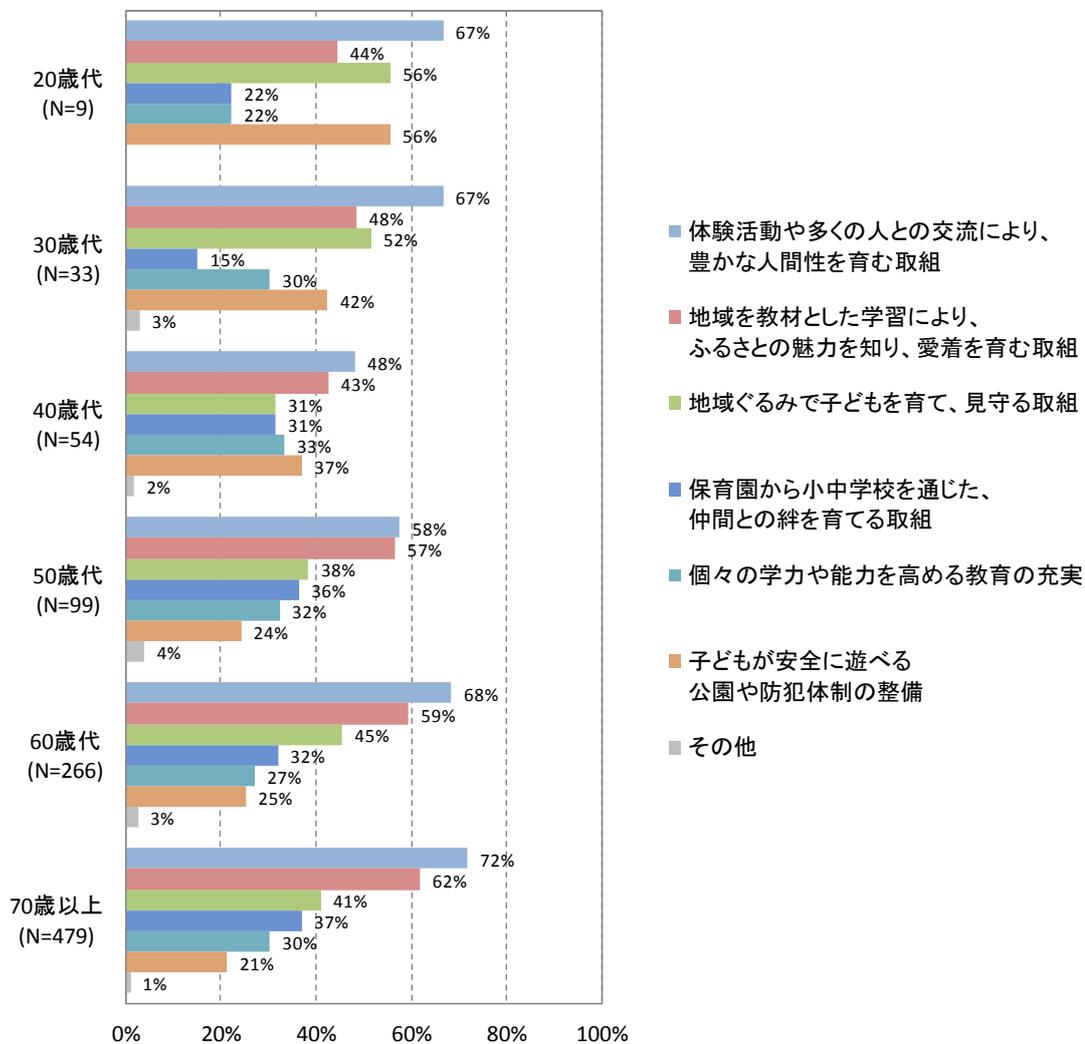
■ふるさとに愛着をもてる子どもに育成する取組（性別）

・性別では、大きな違いはみられなかった。



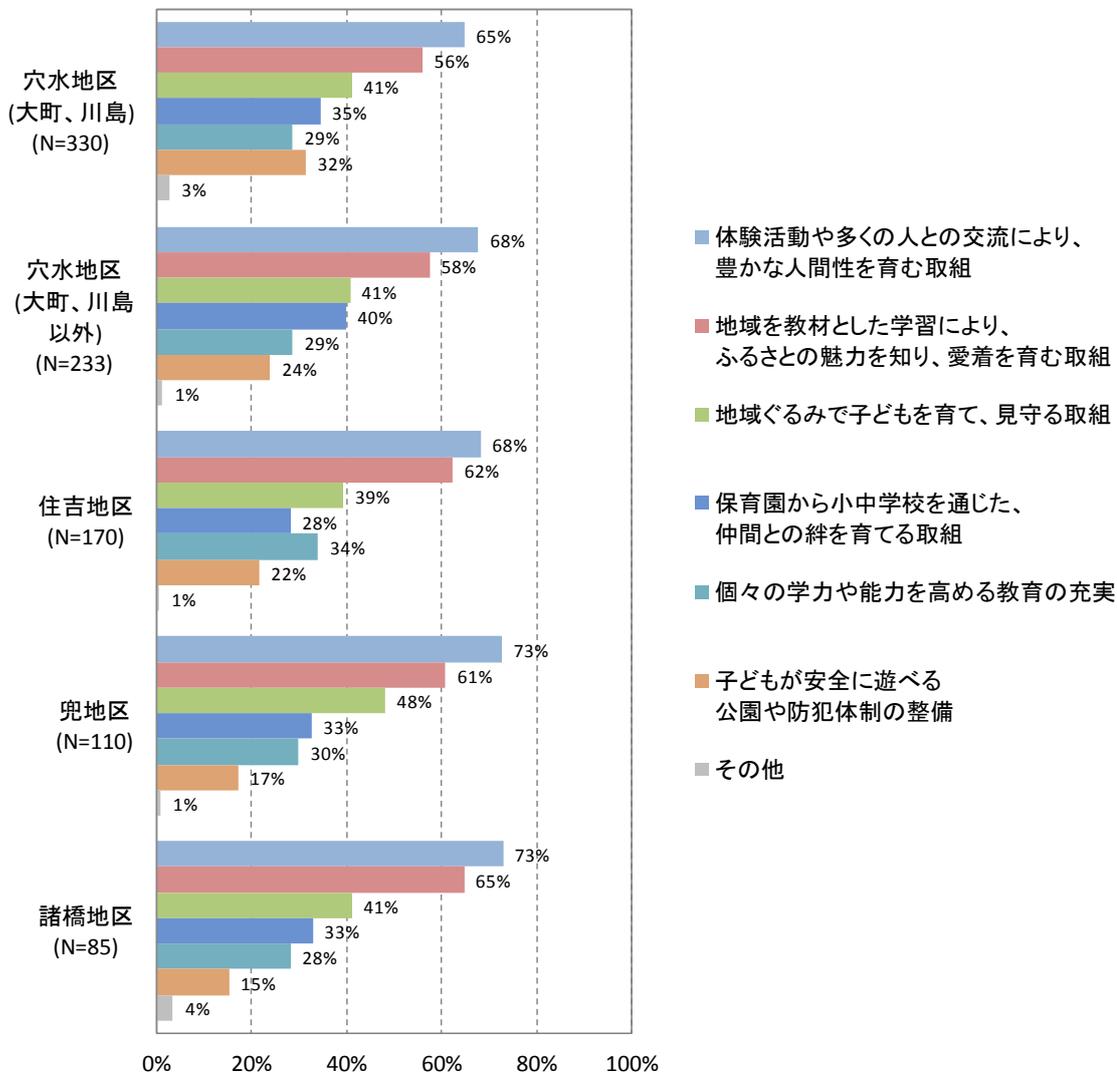
■ふるさとに愛着をもてる子どもに育成する取組（年代別）

・年代別では、40歳代で「体験活動や多くの人との交流により、豊かな人間性を育む取組」が48%と、他と比べて10ポイント以上低くなっている。



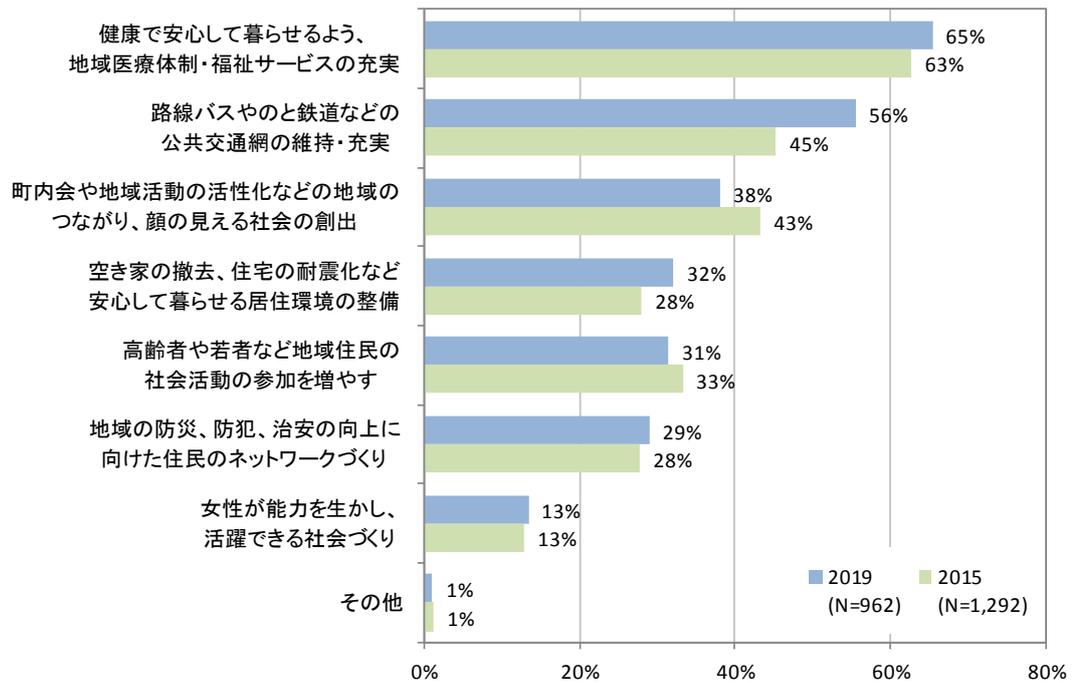
■ふるさとに愛着をもてる子どもに育成する取組（居住地別）

・居住地別では、穴水地区（大町、川島）で「子どもが安全に遊べる公園や防犯体制の整備」が32%と、他と比べて8ポイント以上高くなっている。



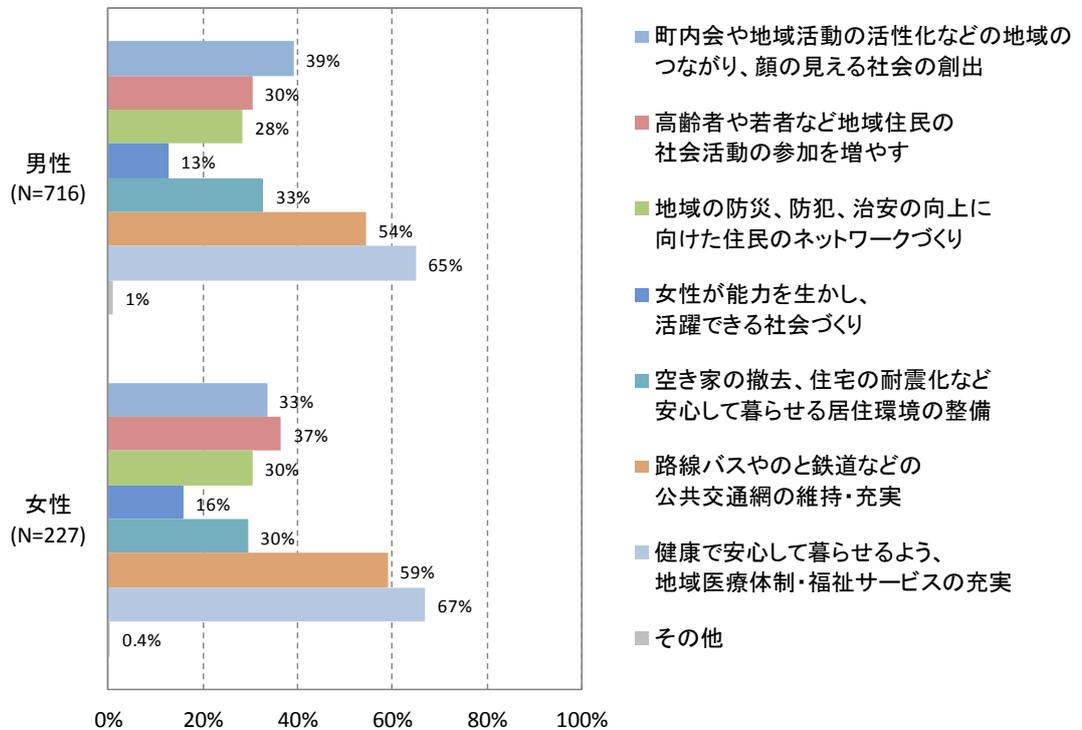
⑩-1 安心して暮らせる地域づくりの取組（3つ以内で回答）

- ・「健康で安心して暮らせるよう、地域医療体制・福祉サービスの充実」が65%で最も多く、次いで「路線バスやのと鉄道などの公共交通網の維持・充実」が56%、「町内会や地域活動の活性化などの地域のつながり、顔の見える社会の創出」が38%となっている。
- ・前回との比較では、2019年で「路線バスやのと鉄道などの公共交通網の維持・充実」が56%と、2015年と比べて11ポイント高くなっている。



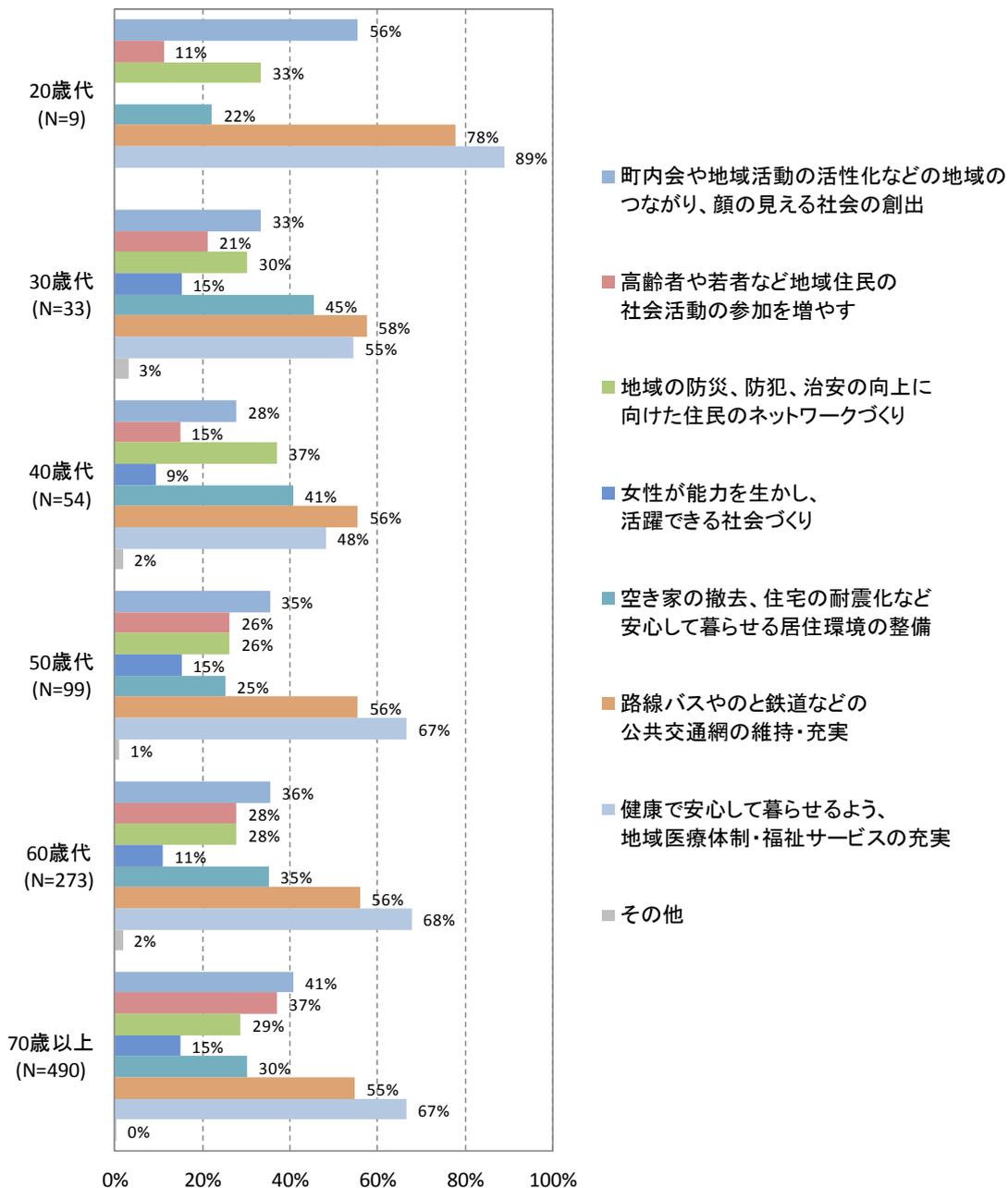
■安心して暮らせる地域づくりの取組（性別）

・性別では、女性で「高齢者や若者など地域住民の社会活動の参加を増やす」が37%と、男性と比べて7ポイント高くなっている。



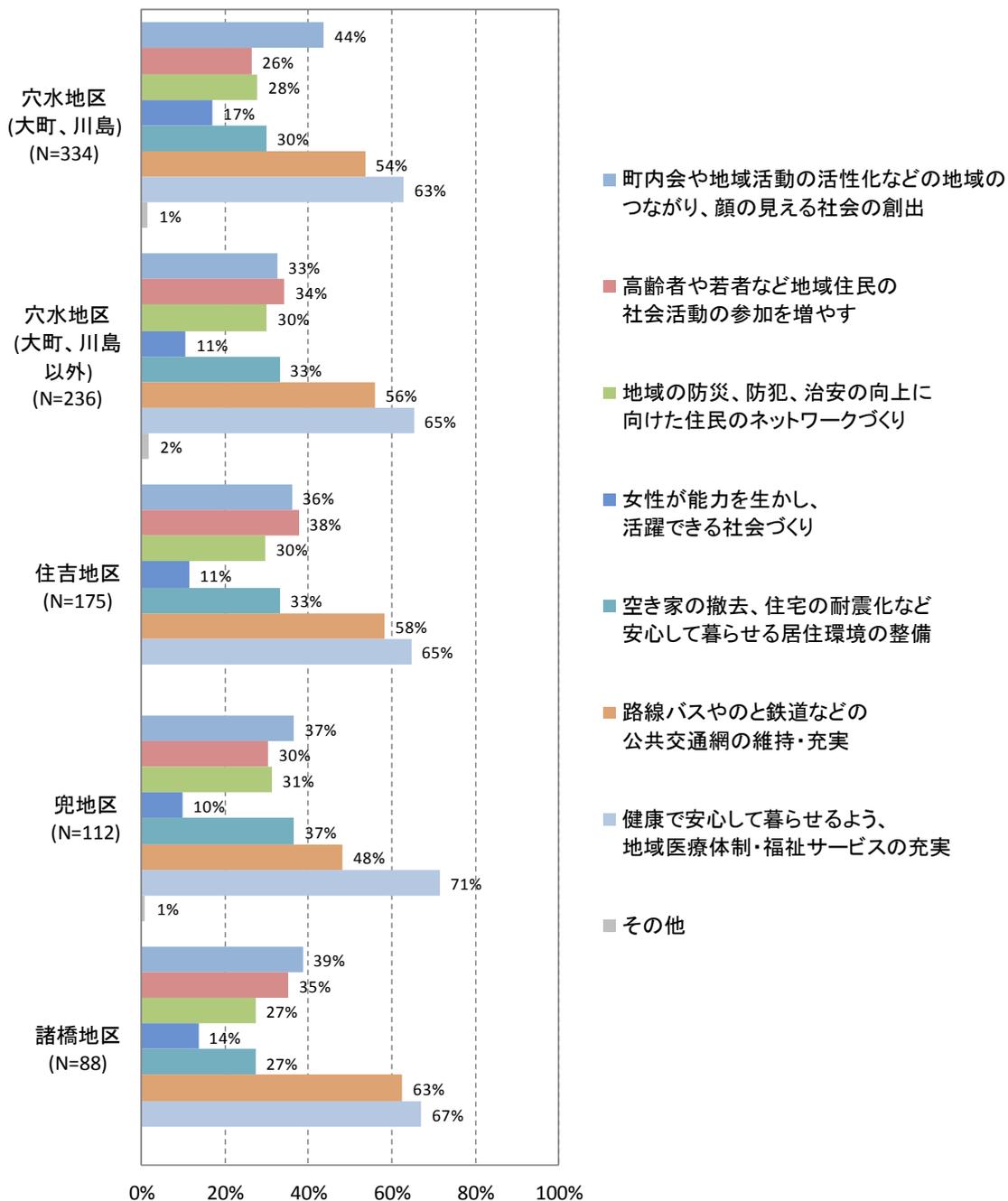
■安心して暮らせる地域づくりの取組（年代別）

・年代別では、20歳代で「健康で安心して暮らせるよう、地域医療体制・福祉サービスの充実」が89%と、他と比べて21ポイント以上高くなっている。



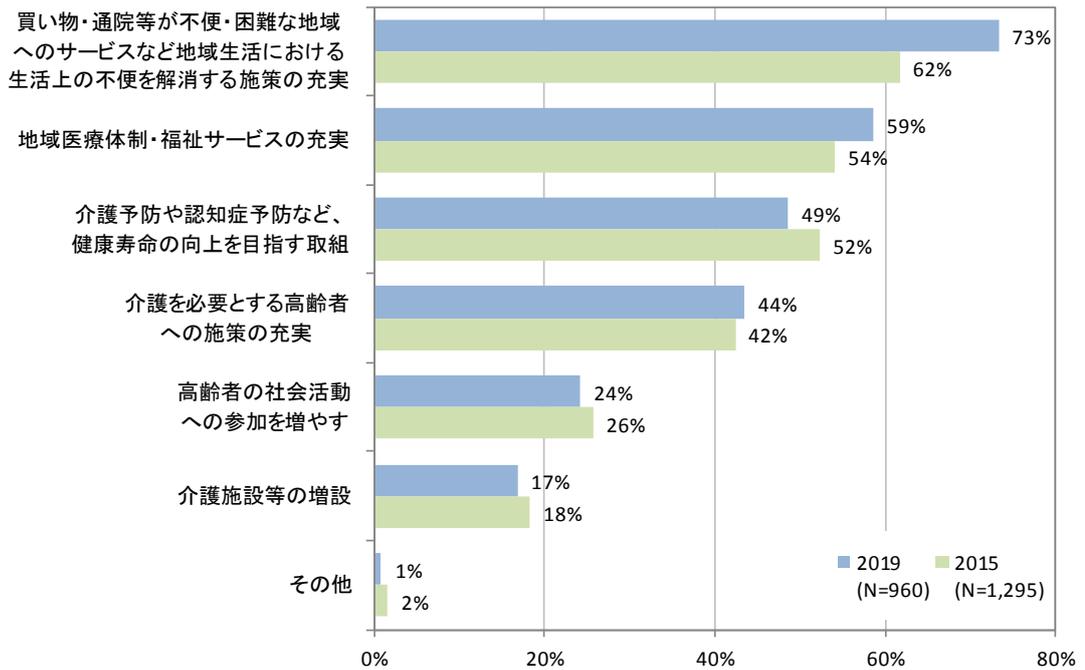
■安心して暮らせる地域づくりの取組（居住地別）

・居住地別では、兜地区で「路線バスやのと鉄道などの公共交通網の維持・充実」が48%と、他と比べて6ポイント以上低くなっている。



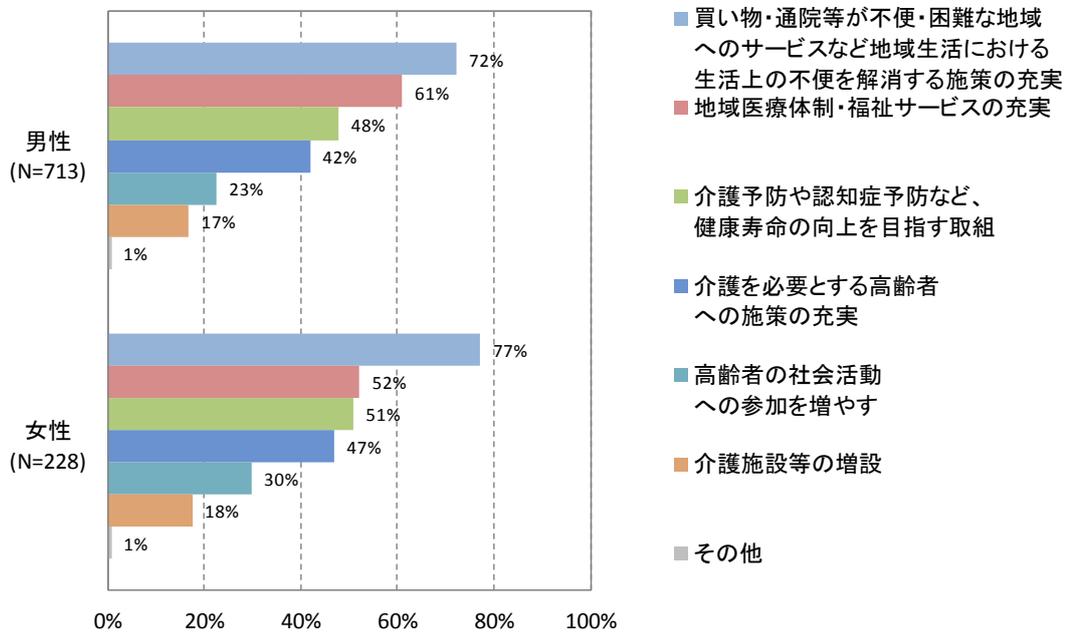
⑩-2 高齢者への施策の充実等による取組（3つ以内で回答）

- ・「買い物・通院等が不便・困難な地域へのサービスなど地域生活における生活上の不便を解消する施策の充実」が73%で最も多く、次いで「地域医療体制・福祉サービスの充実」が59%、「介護予防や認知症予防など、健康寿命の向上を目指す取組」が49%となっている。
- ・前回との比較では、2019年で「買い物・通院等が不便・困難な地域へのサービスなど地域生活における生活上の不便を解消する施策の充実」が73%と、2015年と比べて11ポイント高くなっている。



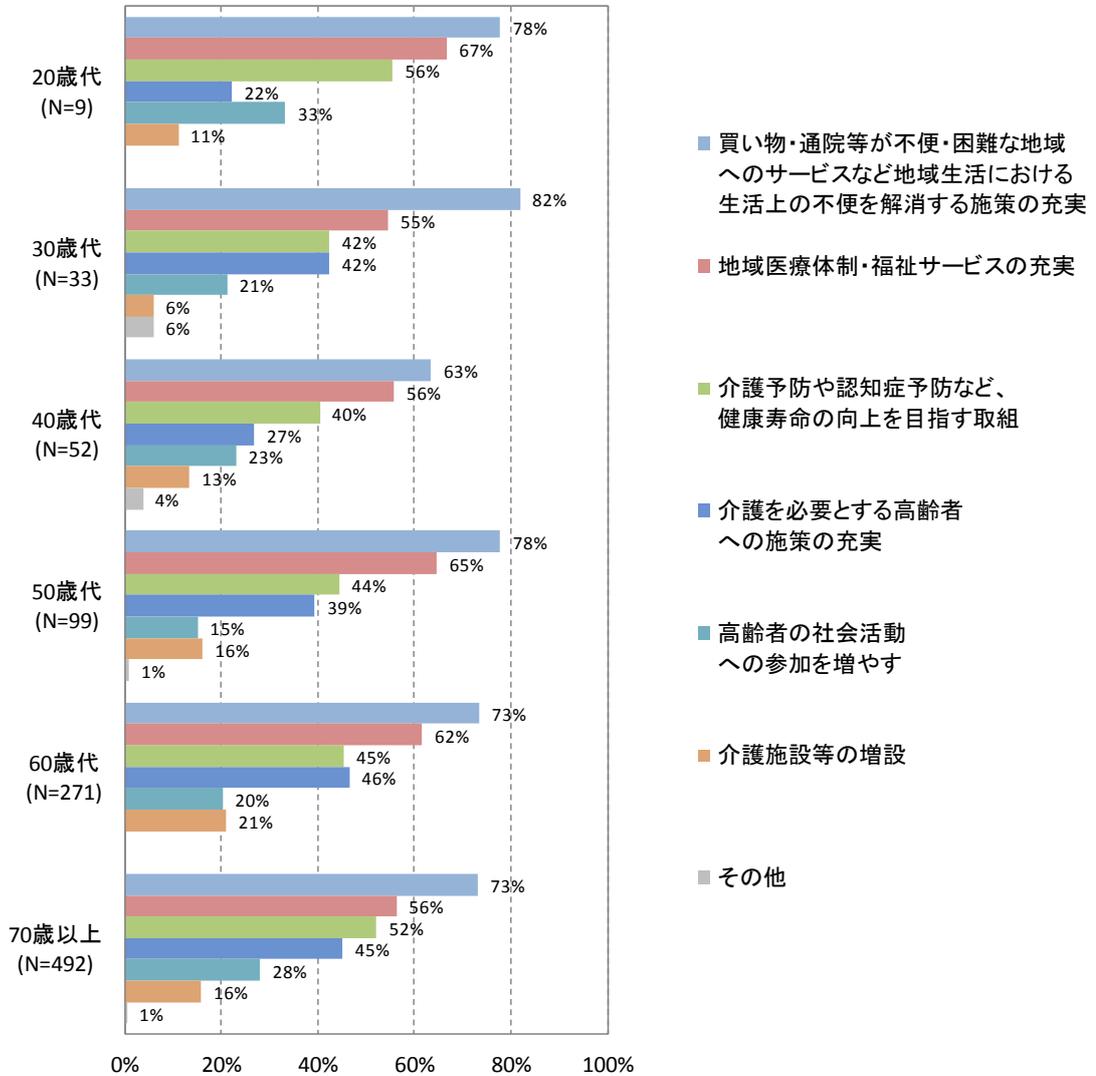
■ 高齢者への施策の充実等による取組（性別）

・性別では、男性で「地域医療体制・福祉サービスの充実」が61%と、女性と比べて9ポイント高くなっている。



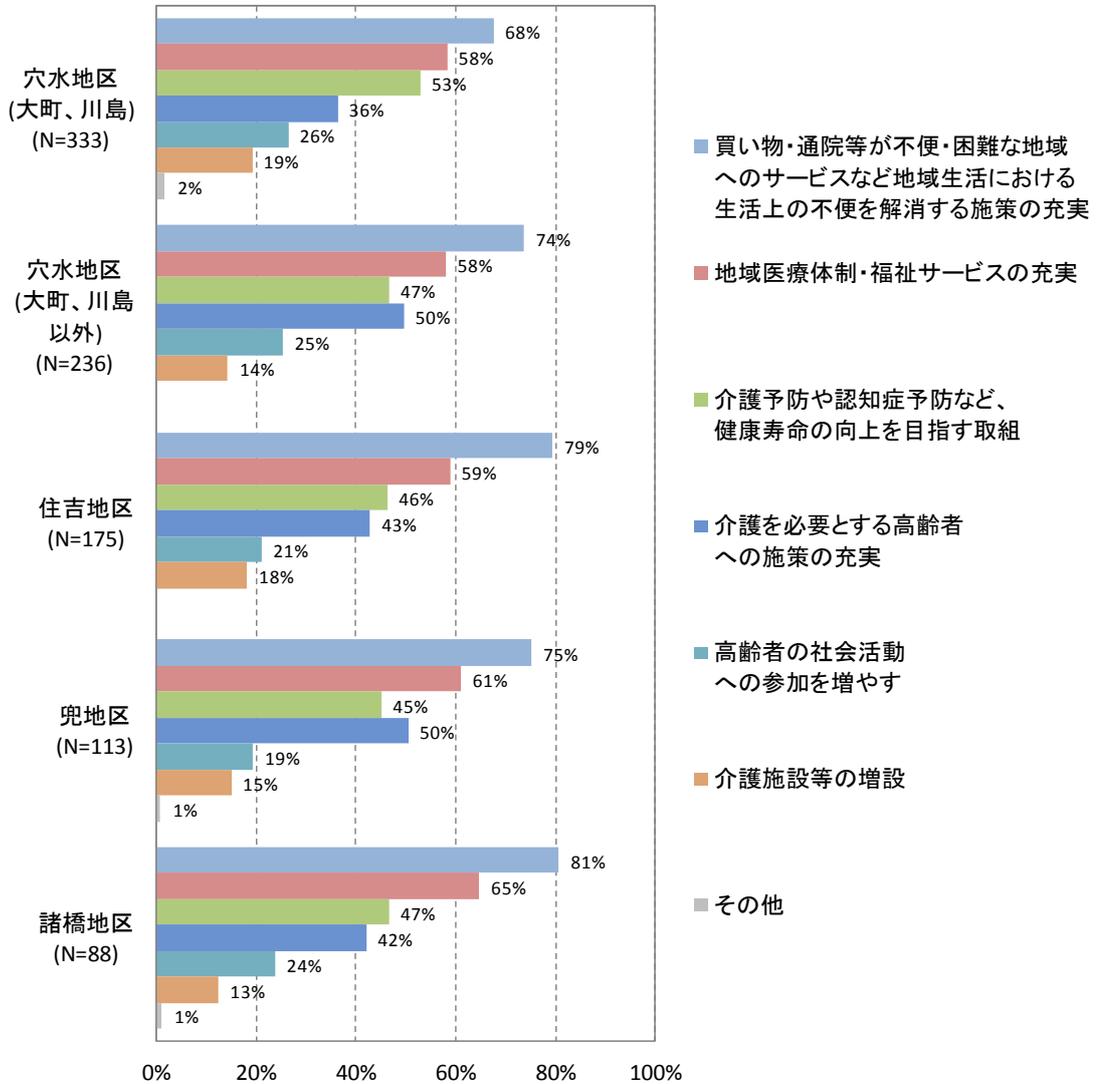
■ 高齢者への施策の充実等による取組（年代別）

・年代別では、40歳代で「買い物・通院等が不便・困難な地域へのサービスなど地域生活における生活上の不便を解消する施策の充実」が63%と、他と比べて10ポイント以上低くなっている。



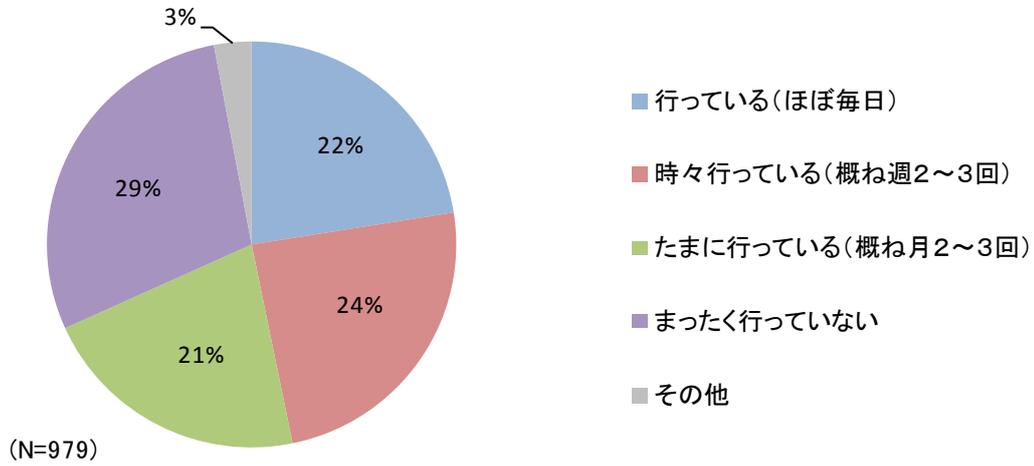
■ 高齢者への施策の充実等による取組（居住地別）

・居住地別では、穴水地区（大町、川島）で「買い物・通院等が不便・困難な地域へのサービスなど地域生活における生活上の不便を解消する施策の充実」が68%と、他と比べて6ポイント以上低くなっている。

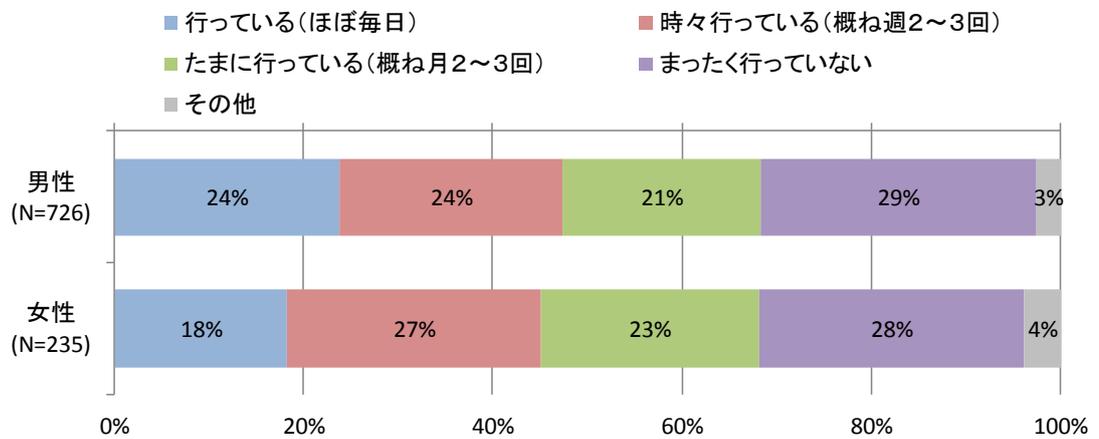


【問5】個別施策に関する具体的な取組について

⑰	スポーツ	【新規設問】
<p>・「まったく行っていない」が29%で最も多く、次いで「時々行っている（概ね週2～3回）」が24%、「行っている（ほぼ毎日）」が22%となっている。</p>		

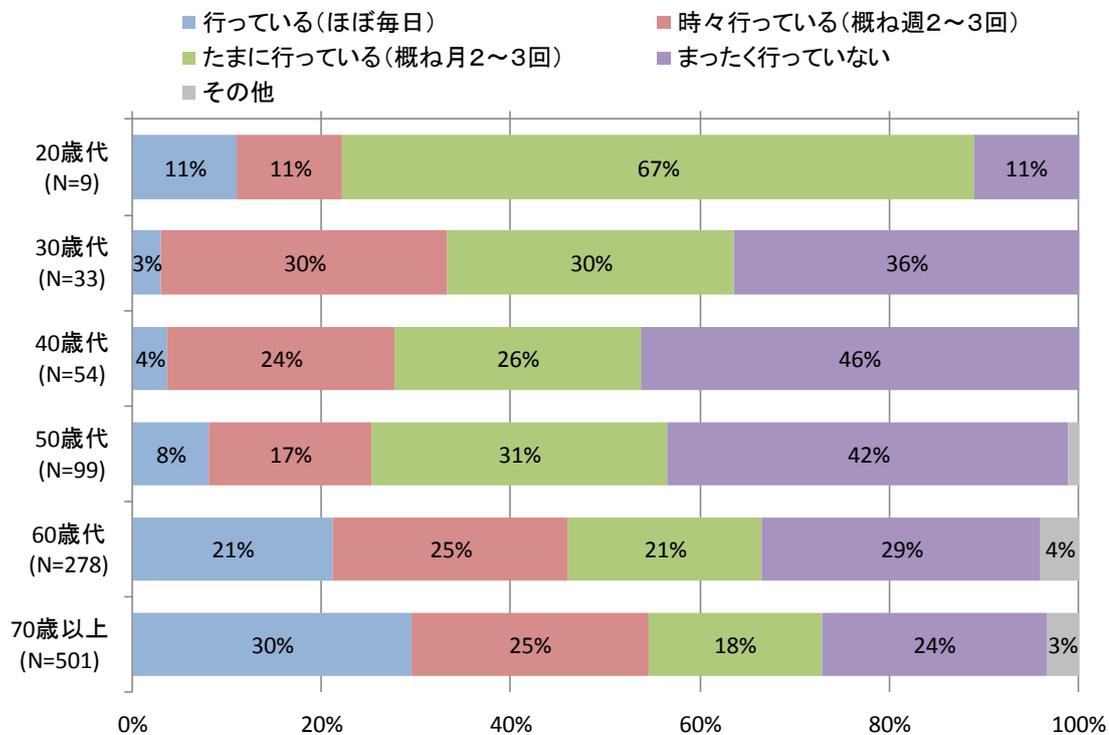


■ スポーツ（性別）	
<p>・性別では、男性で「行っている（ほぼ毎日）」が24%と、女性と比べて6ポイント高くなっている。</p>	



■ スポーツ（年代別）

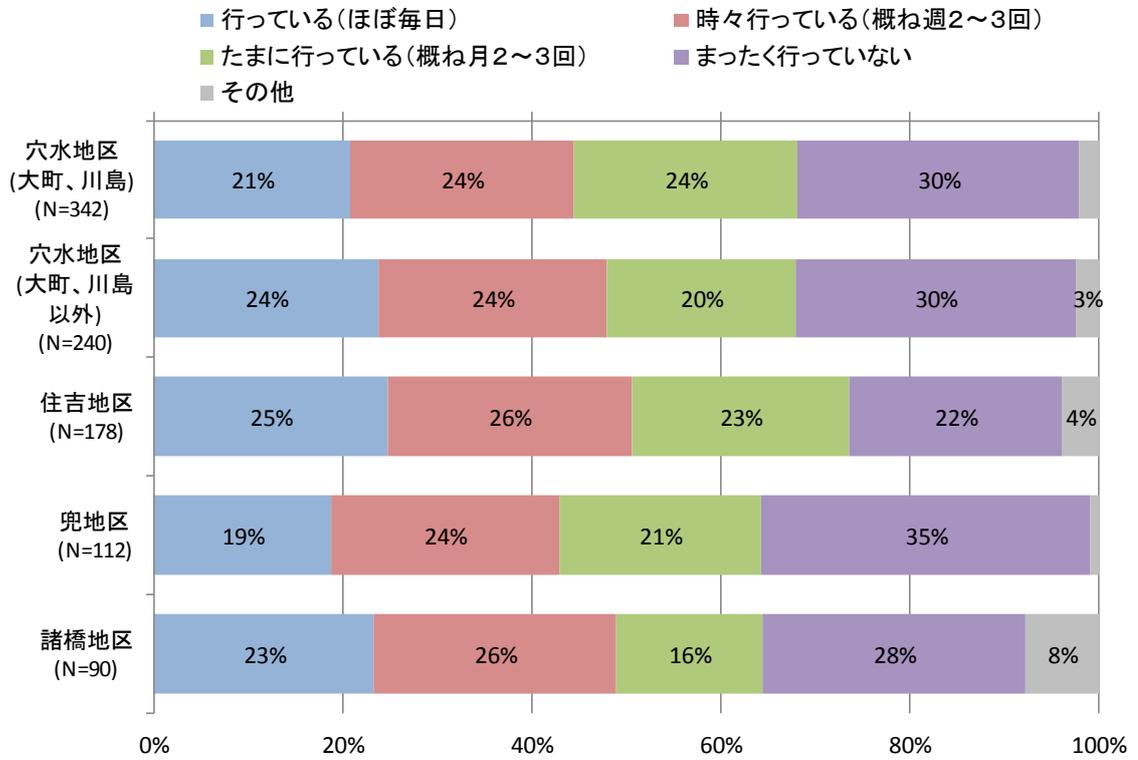
・年代別では、20歳代で「たまに行っている（概ね月2～3回）」が67%と、他と比べて36ポイント以上高くなっている。



※ 3%未満は非表示

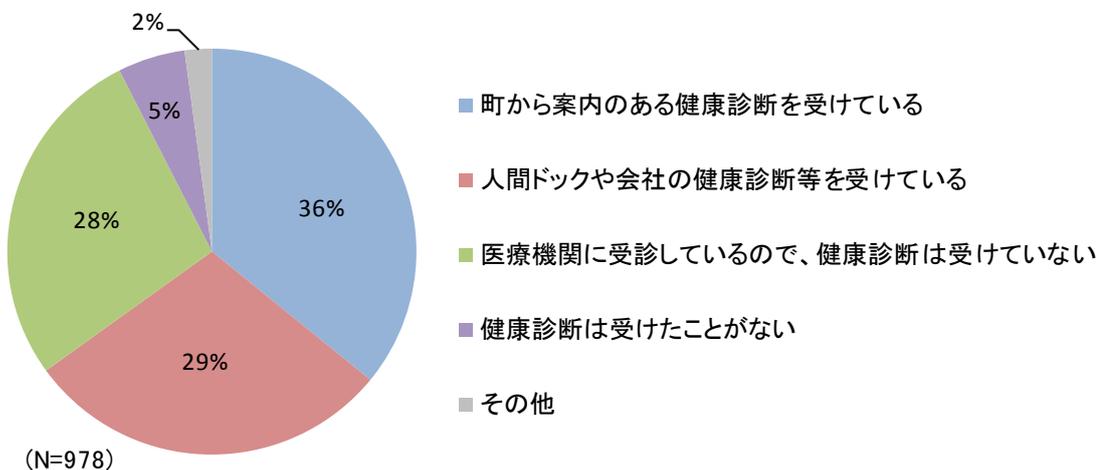
■ スポーツ（居住地別）

・居住地別では、住吉地区で「まったく行っていない」が22%と、他と比べて6ポイント以上低くなっている。

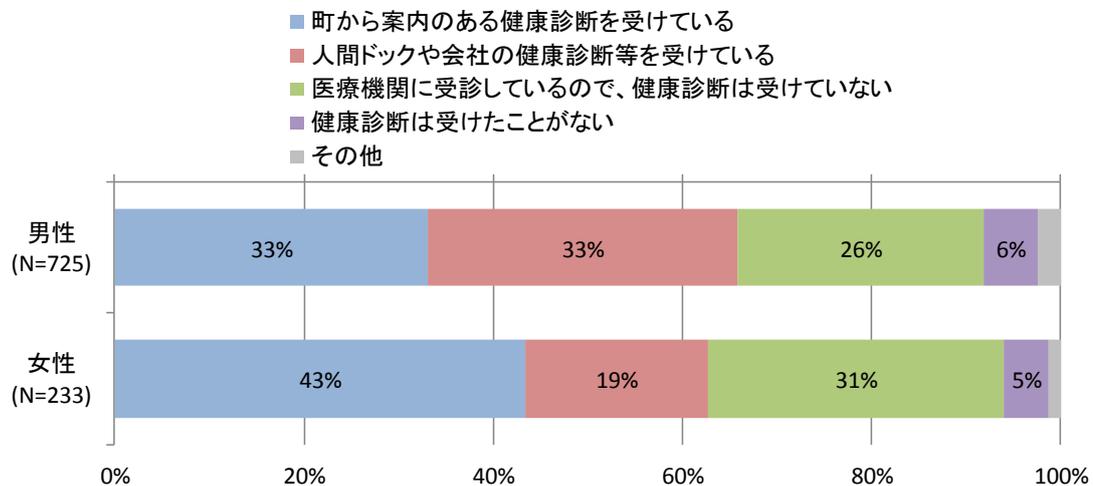


※ 3%未満は非表示

⑱	健康診断	【新規設問】
<p>・「町から案内のある健康診断を受けている」が 36%で最も多く、次いで「人間ドックや会社の健康診断等を受けている」が 29%、「医療機関に受診しているのに、健康診断は受けていない」が 28%となっている。</p>		



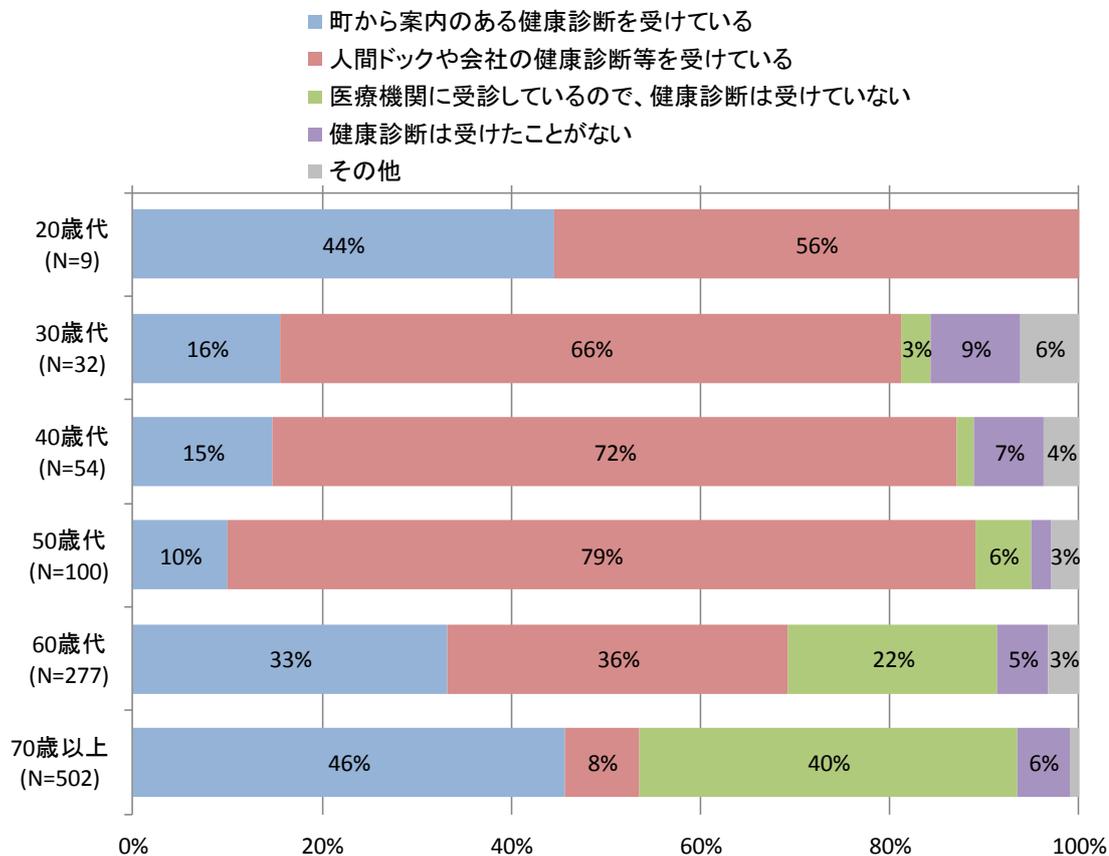
■ 健康診断（性別）
<p>・性別では、男性で「人間ドックや会社の健康診断等を受けている」が 33%と、女性と比べて 14 ポイント高くなっている。</p>



※ 3%未満は非表示

■健康診断（年代別）

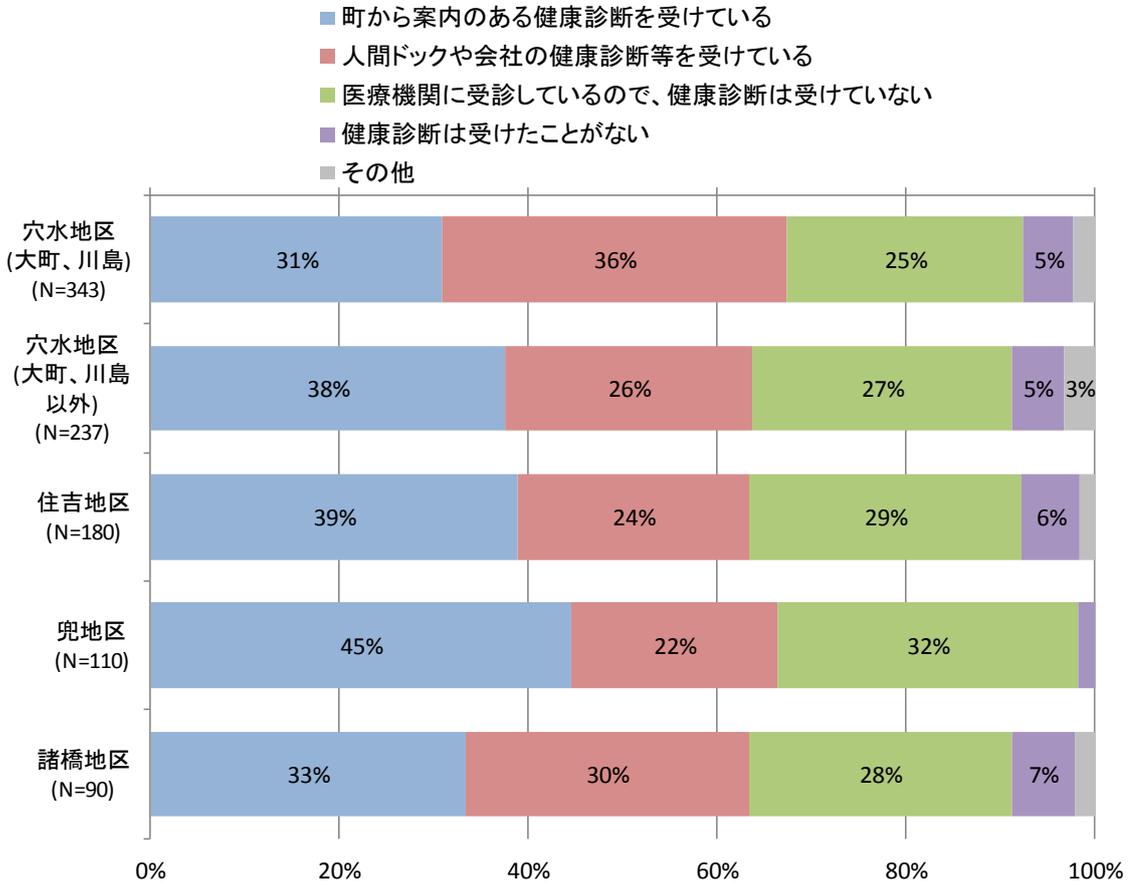
・年代別では、70歳以上で「人間ドックや会社の健康診断等を受けている」が8%と、他と比べて28ポイント以上低くなっている。



※ 3%未満は非表示

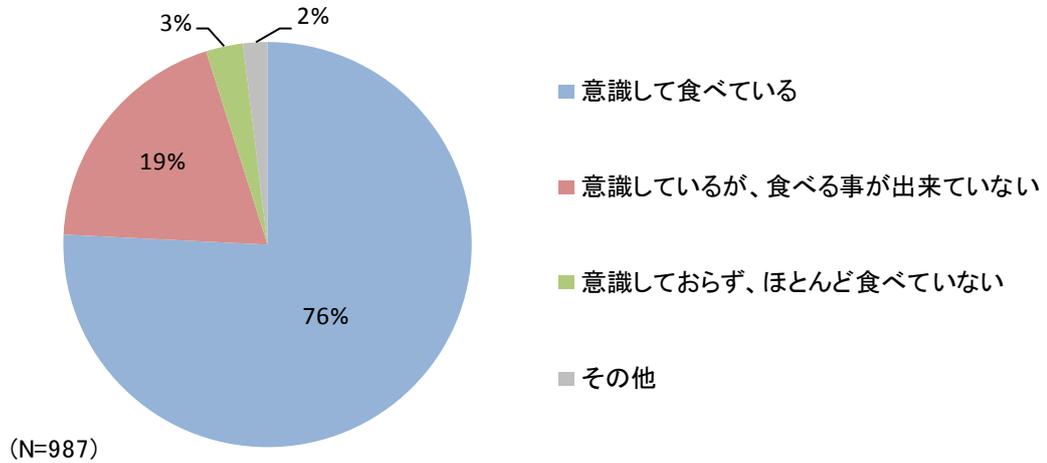
■健康診断（居住地別）

・居住地別では、兜地区で「町から案内のある健康診断を受けている」が45%、穴水地区（大町、川島）で「人間ドックや会社の健康診断等を受けている」が36%と、他と比べて6ポイント以上高くなっている。

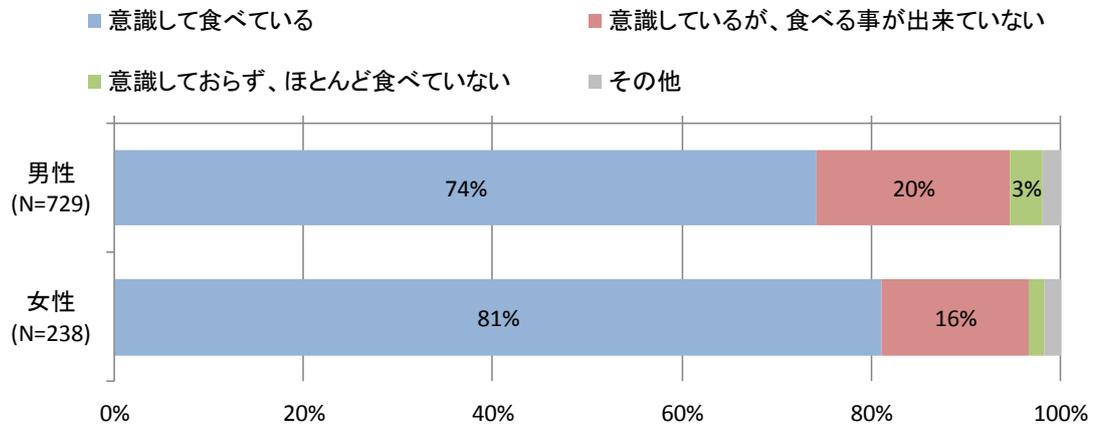


※ 3%未満は非表示

⑱	食生活（野菜摂取）	【新規設問】
<p>・「意識して食べている」が76%で最も多く、次いで「意識しているが、食べる事が出来ていない」が19%、「意識しておらず、ほとんど食べていない」が3%となっている。</p>		



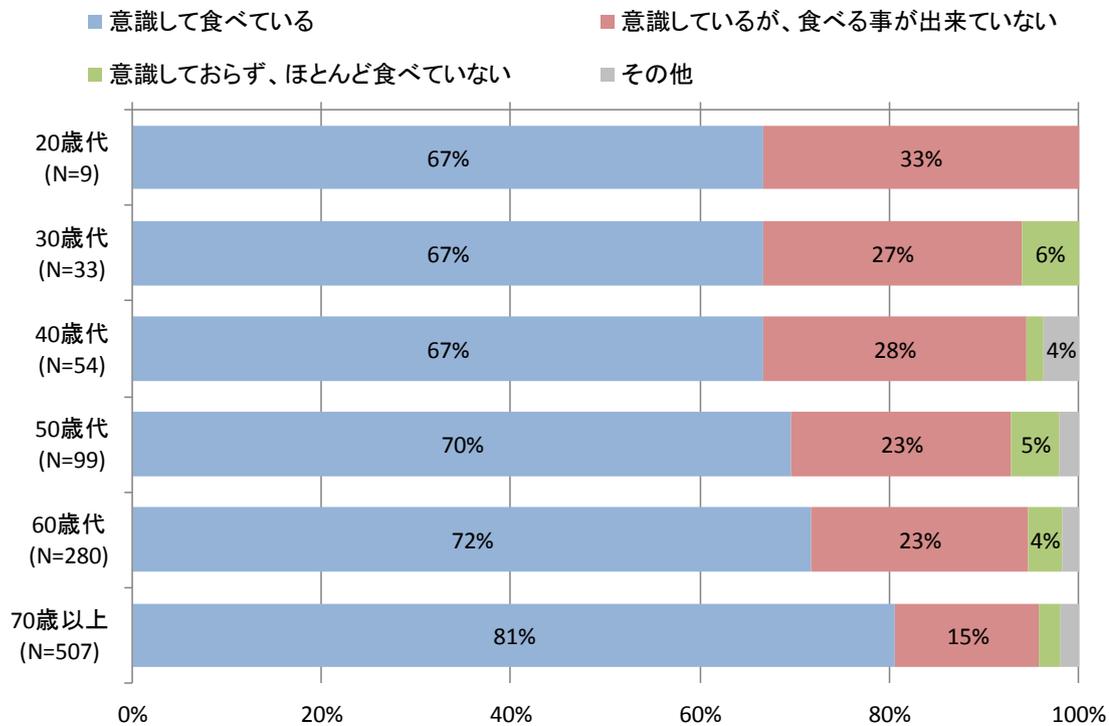
■ 食生活（野菜摂取）（性別）
<p>・性別では、女性で「意識して食べている」が81%と、男性と比べて7ポイント高くなっている。</p>



※ 3%未満は非表示

■ 食生活（野菜摂取）（年代別）

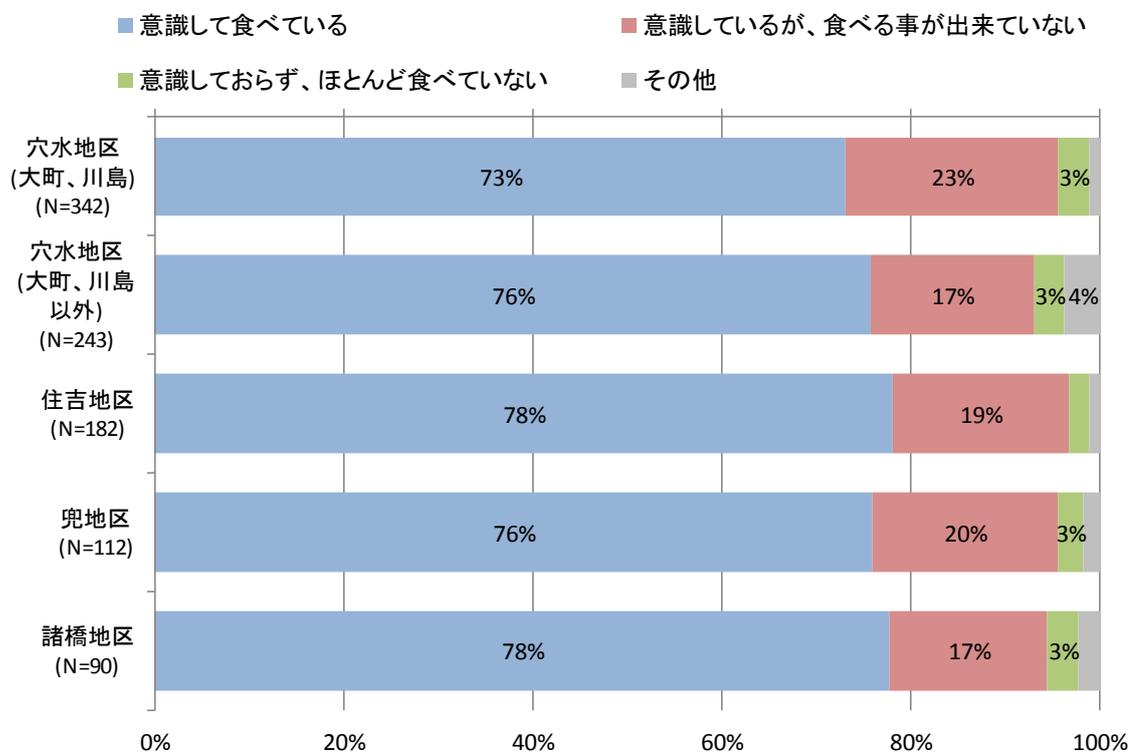
・年代別では、70歳以上で「意識して食べている」が81%と、他と比べて9ポイント以上高くなっている。



※ 3%未満は非表示

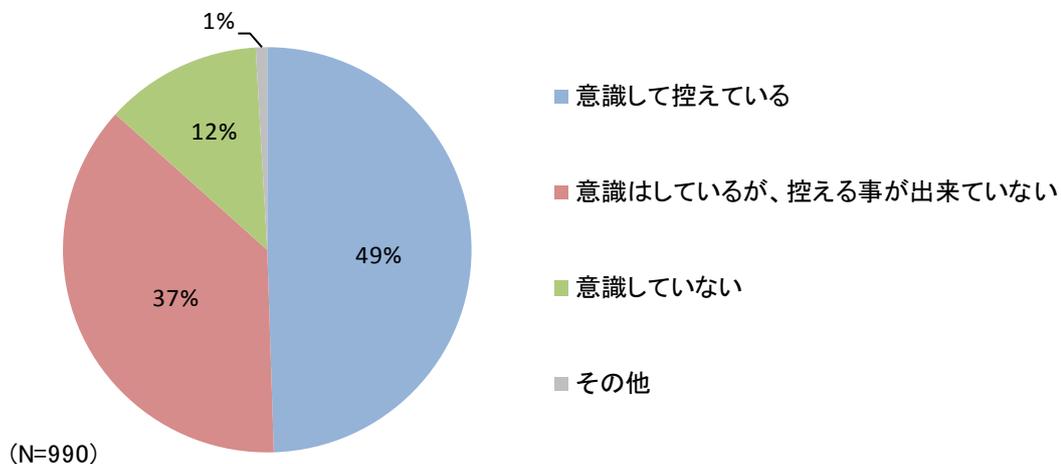
■ 食生活（野菜摂取）（居住地別）

・居住地別では、大きな違いはみられなかった。

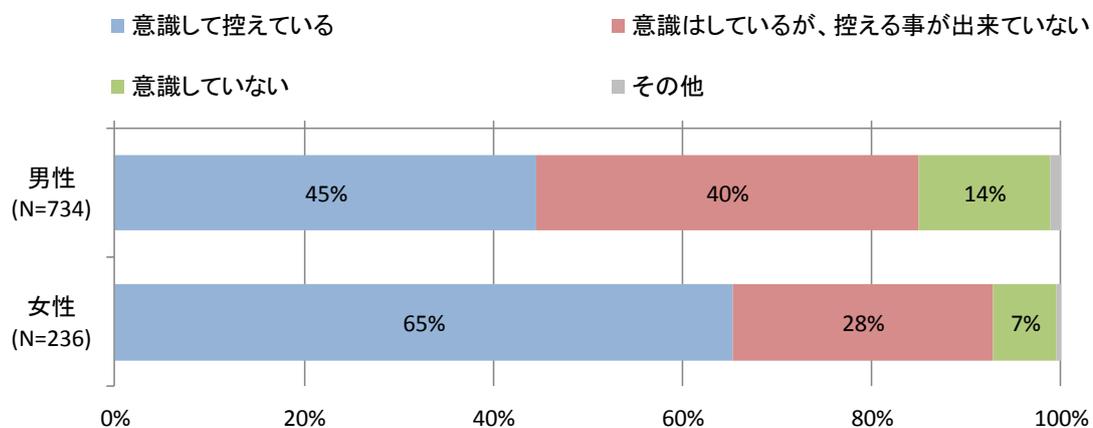


※ 3%未満は非表示

⑳	食生活（塩分摂取）	【新規設問】
<p>・「意識して控えている」が 49%で最も多く、次いで「意識はしているが、控える事が出来ていない」が 37%、「意識していない」が 12%となっている。</p>		



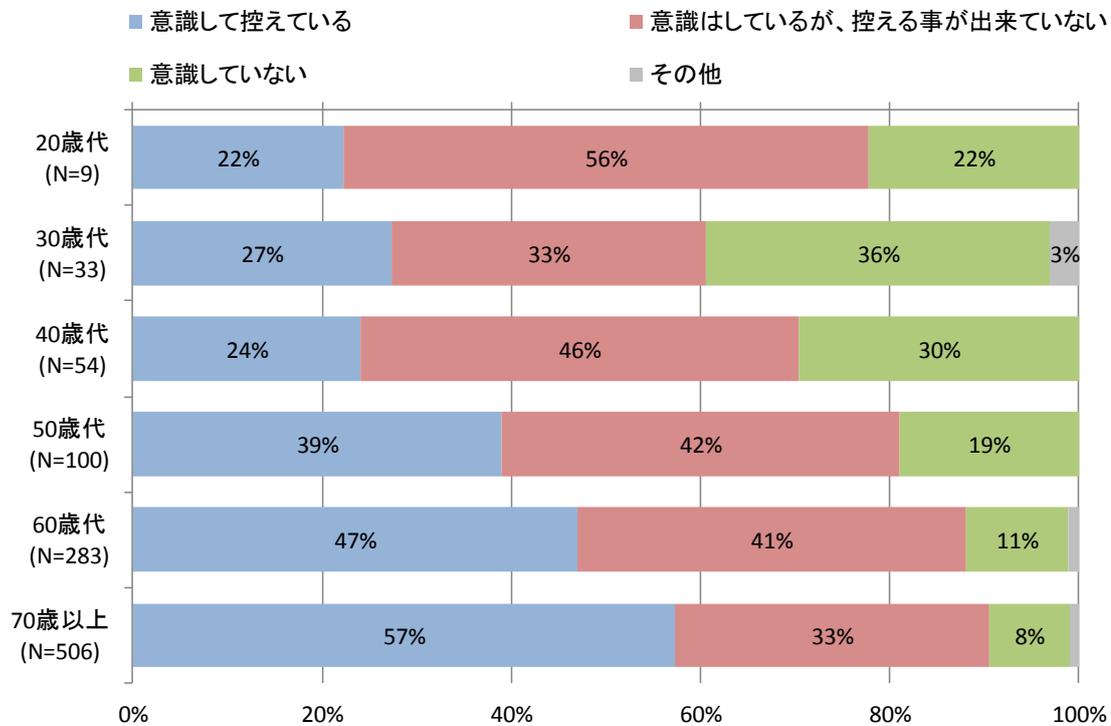
<p>■ 食生活（塩分摂取）（性別）</p>		
<p>・性別では、女性で「意識して控えている」が 65%と、男性と比べて 20 ポイント高くなっている。</p>		



※ 3%未満は非表示

■ 食生活（塩分摂取）（年代別）

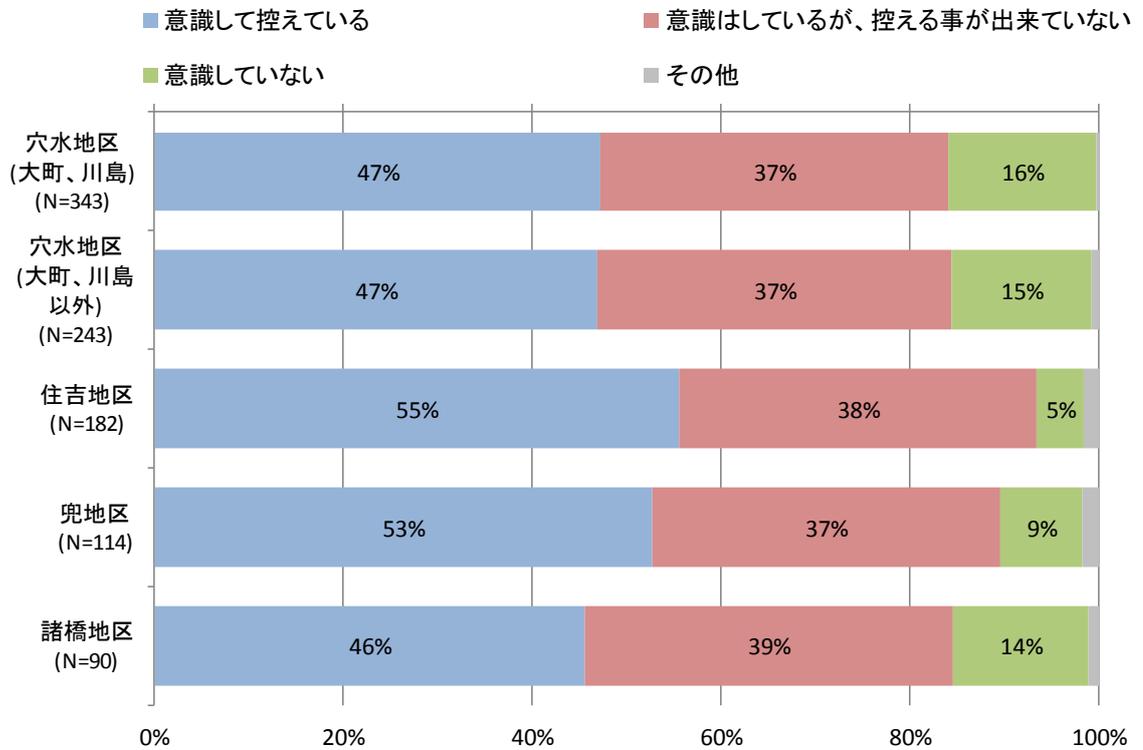
・年代別では、20歳代で「意識はしているが、控える事が出来ていない」が56%、70歳以上で「意識して控えている」が57%と、他と比べて10ポイント以上高くなっている。



※ 3%未満は非表示

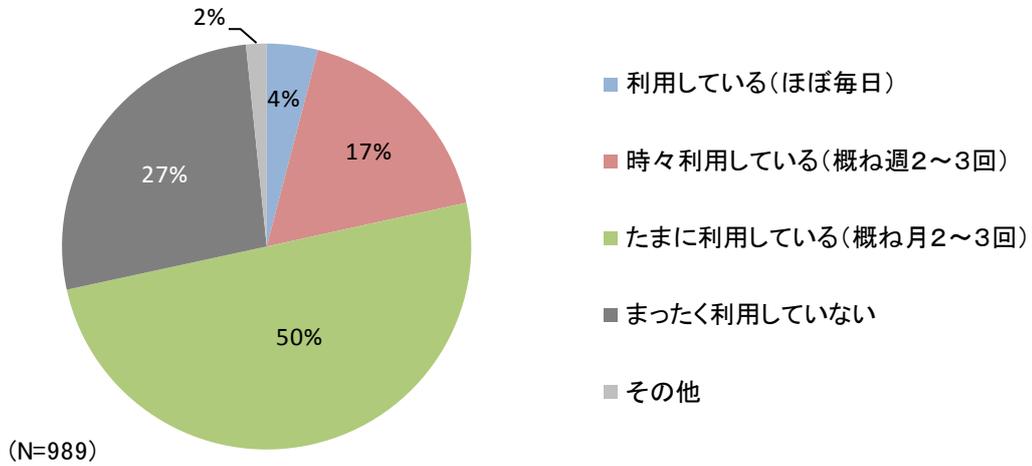
■ 食生活（塩分摂取）（居住地別）

・居住地別では、大きな違いはみられなかった。

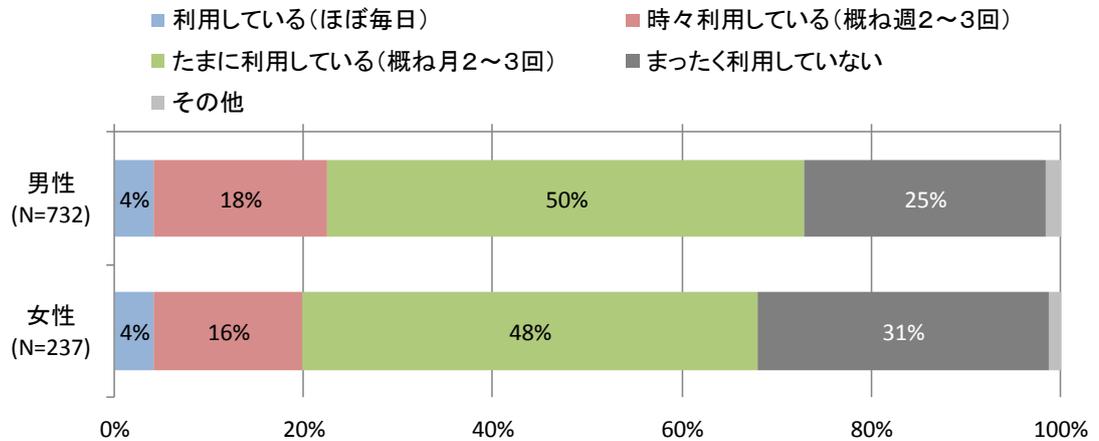


※ 3%未満は非表示

②	食生活（外食頻度）	【新規設問】
<p>・「たまに利用している（概ね月2～3回）」が50%で最も多く、次いで「まったく利用していない」が27%、「時々利用している（概ね週2～3回）」が17%となっている。</p>		



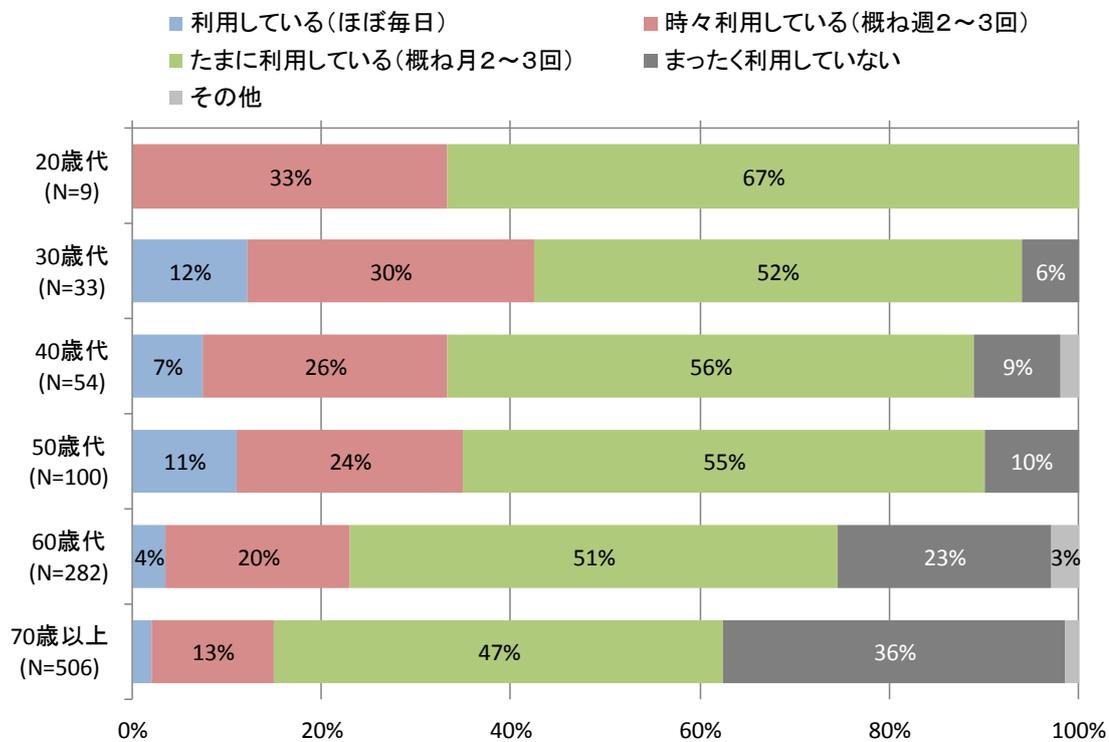
■ 食生活（外食頻度）（性別）
<p>・性別では、女性で「まったく利用していない」が31%と、男性と比べて6ポイント高くなっている。</p>



※ 3%未満は非表示

■ 食生活（外食頻度）（年代別）

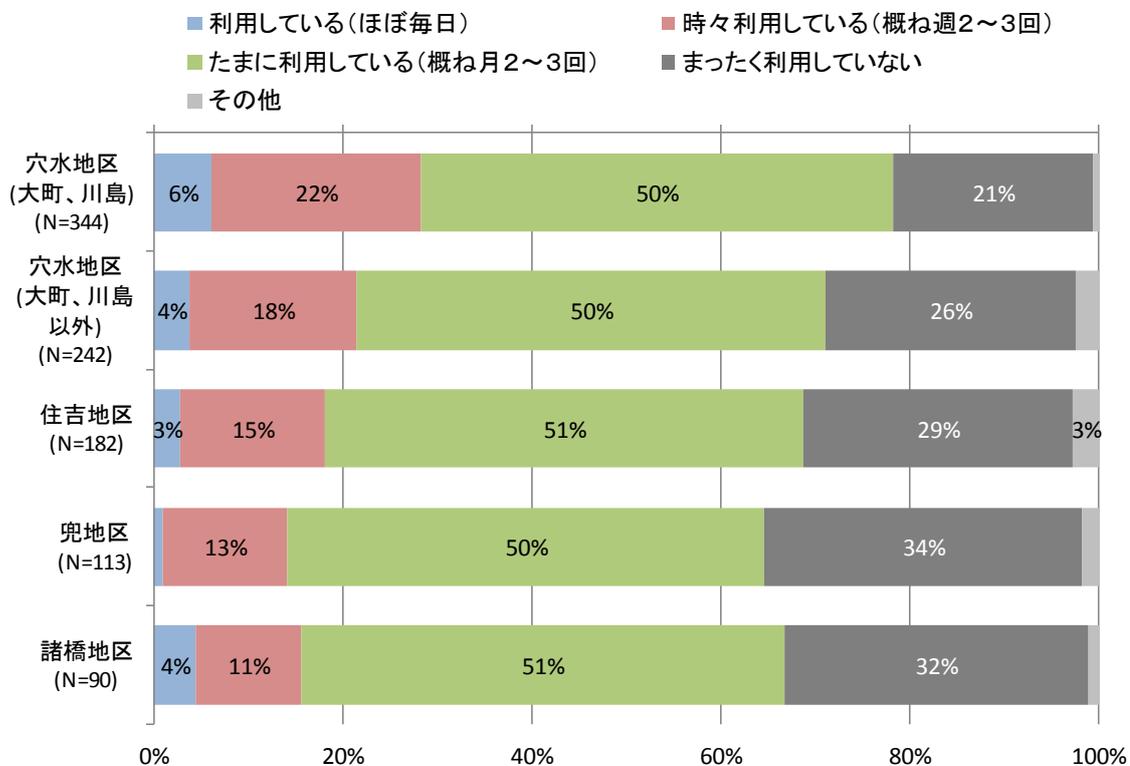
・年代別では、70歳以上で「まったく利用していない」が36%と、他と比べて13ポイント以上高くなっている。



※ 3%未満は非表示

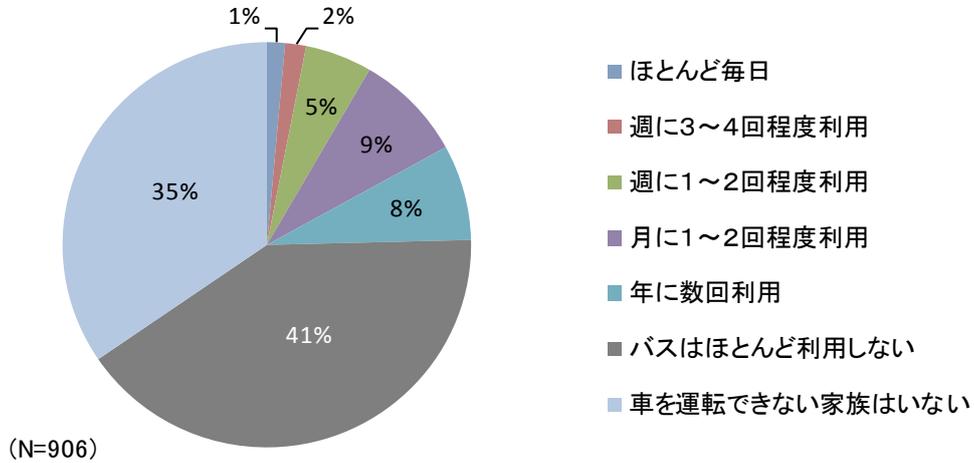
■ 食生活（外食頻度）（居住地別）

・居住地別では、穴水地区（大町、川島）で「まったく利用していない」が21%と、他と比べて5ポイント以上低くなっている。

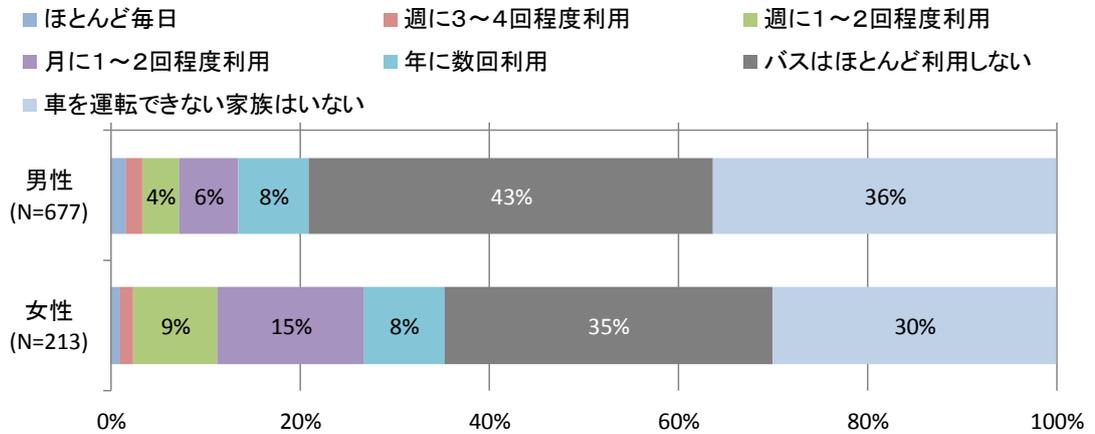


※ 3%未満は非表示

② バス利用頻度	【新規設問】
<p>・「バスはほとんど利用しない」が41%で最も多く、次いで「車を運転できない家族はいない」が35%、「月に1～2回程度利用」が9%となっている。</p>	



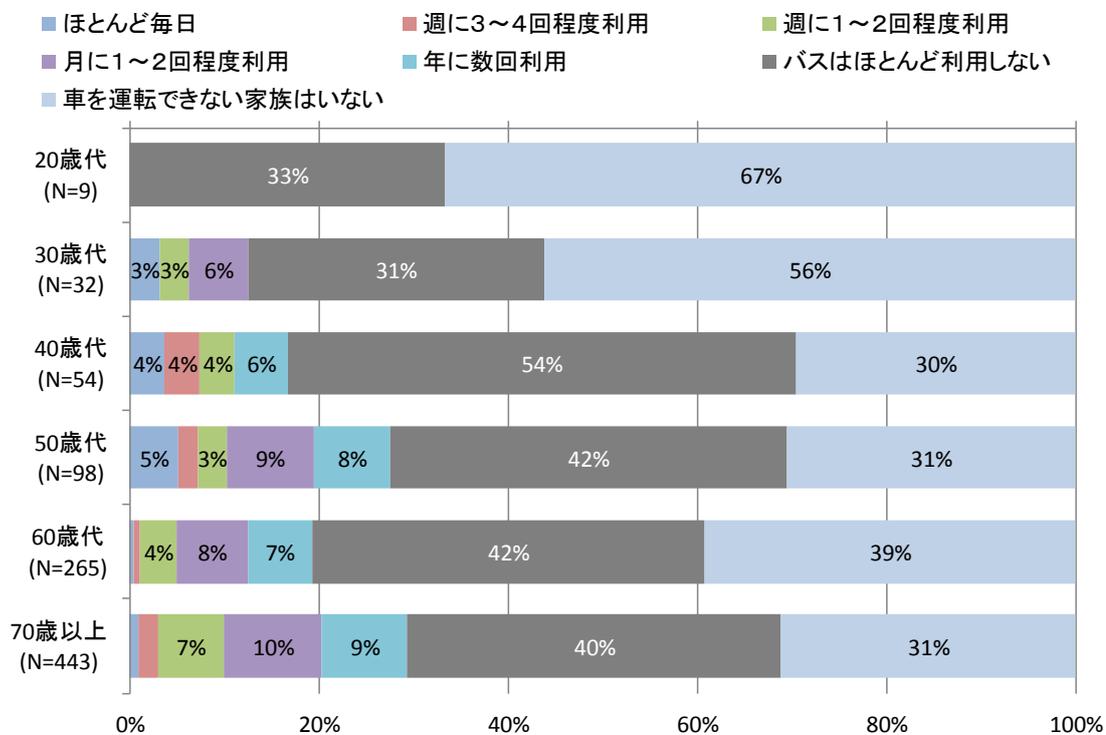
■ バス利用頻度 (性別)
<p>・性別では、女性で「月に1～2回程度利用」が15%と、男性と比べて9ポイント高くなっている。</p>



※ 3%未満は非表示

■ バス利用頻度（年代別）

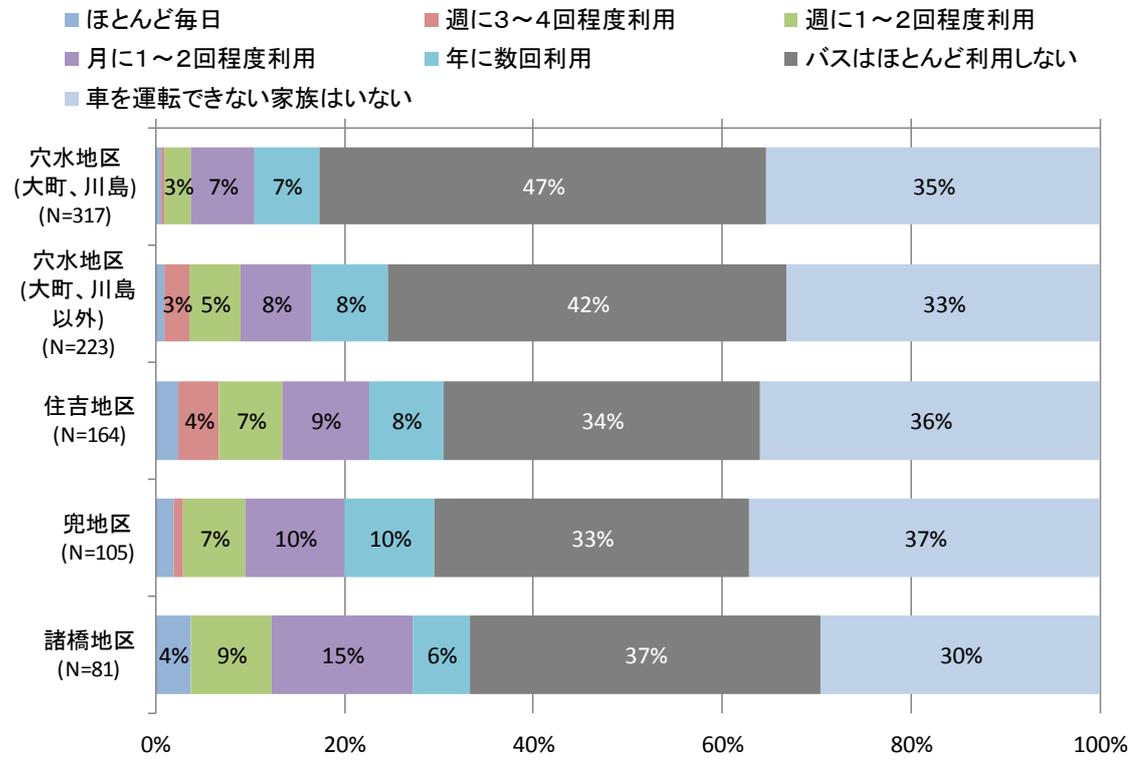
・年代別では、40歳代で「バスはほとんど利用しない」が54%と、他と比べて12ポイント以上高くなっている。



※ 3%未満は非表示

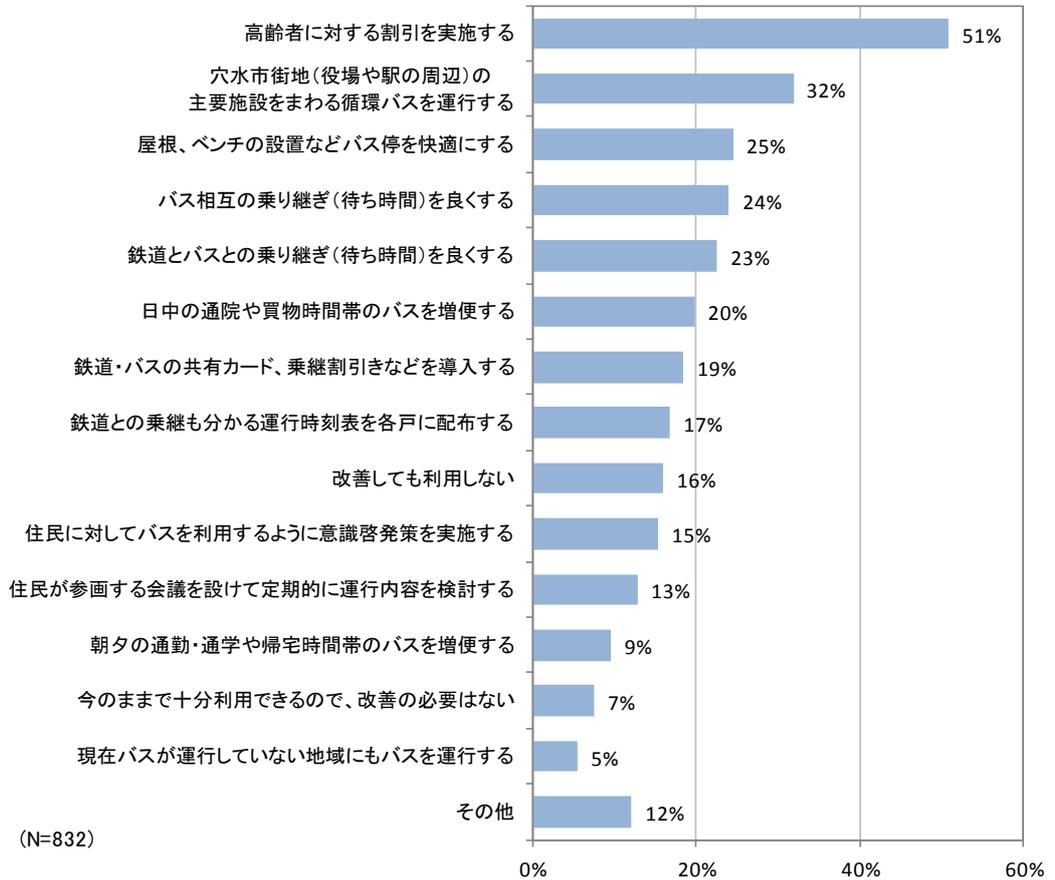
■ バス利用頻度（居住地別）

・居住地別では、大きな違いはみられなかった。



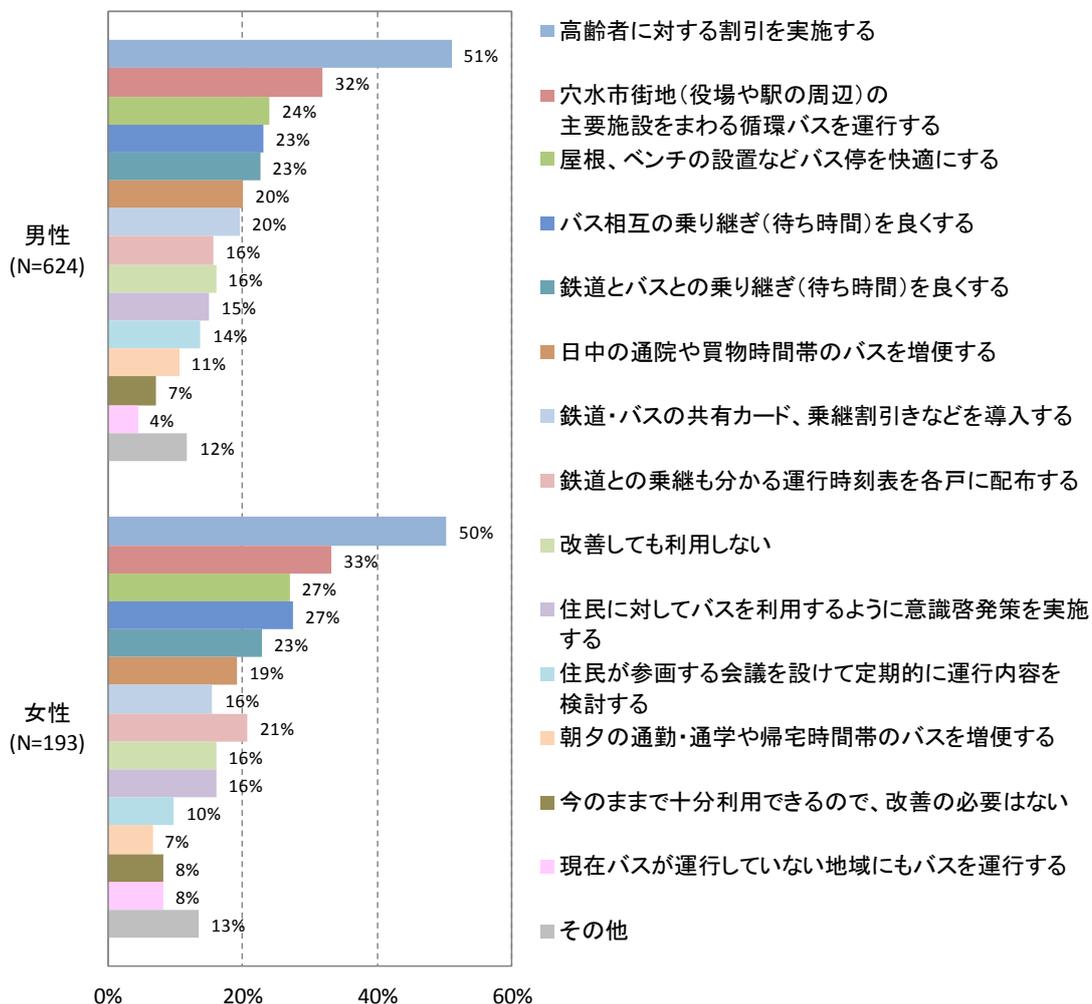
※ 3%未満は非表示

⑬	バスを利用するための改善策（5つ以内で回答）	【新規設問】
<p>・「高齢者に対する割引を実施する」が51%で最も多く、次いで「穴水市街地（役場や駅の周辺）の主要施設をまわる循環バスを運行する」が32%、「屋根、ベンチの設置などバス停を快適にする」が25%となっている。</p>		



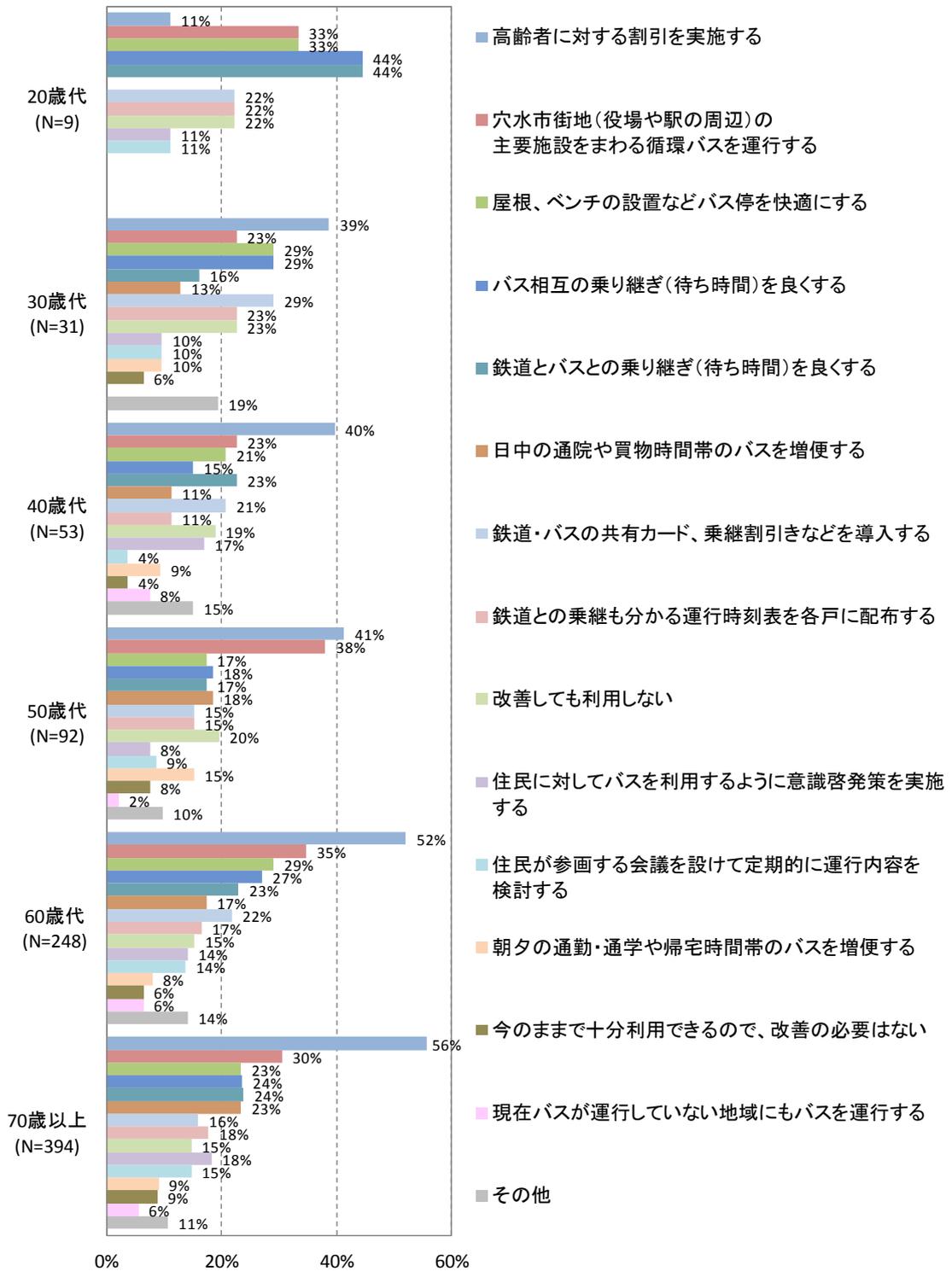
■ バスを利用するための改善策（性別）

・性別では、大きな違いはみられなかった。



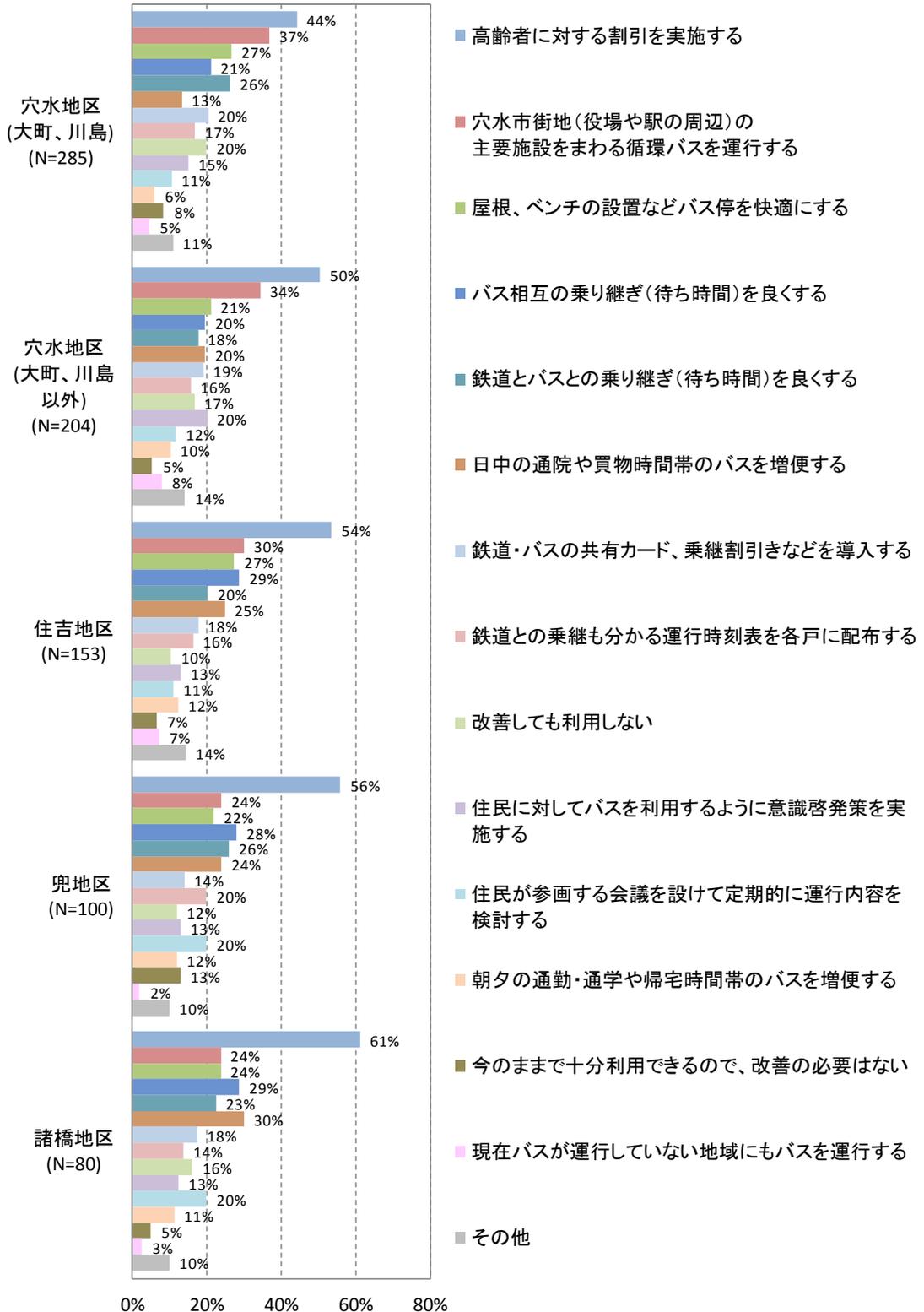
■ バスを利用するための改善策（年代別）

・年代別では、20歳代で「高齢者に対する割引を実施する」が11%と、他と比べて28ポイント以上低くなっている。

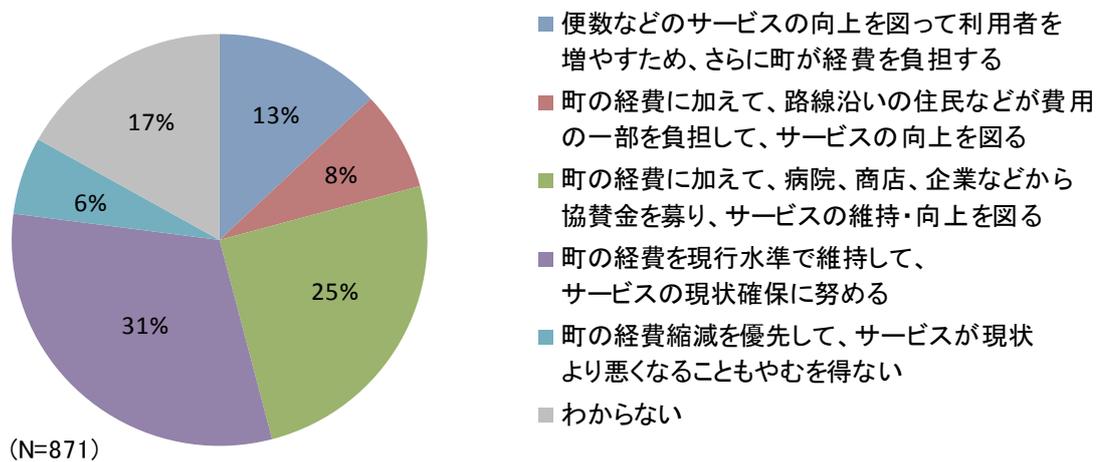


■ バスを利用するための改善策（居住地別）

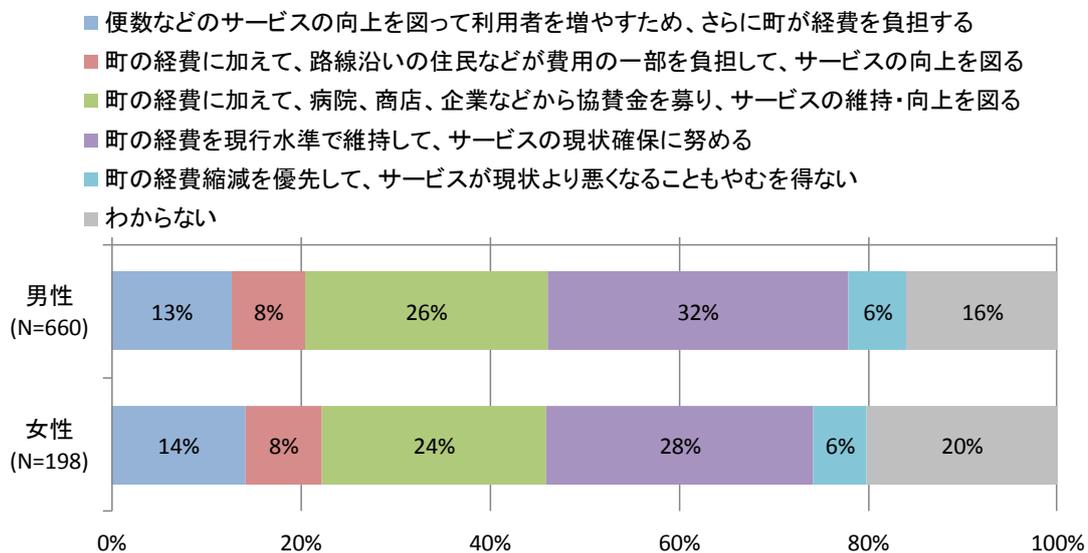
・居住地別では、穴水地区（大町、川島）で「日中の通院や買物時間帯のバスを増便する」が13%と、他と比べて7ポイント以上低くなっている。



⑭	バスを公共交通として維持するための対策	【新規設問】
<p>・「町の経費を現行水準で維持して、サービスの現状確保に努める」が 31%で最も多く、次いで「町の経費に加えて、病院、商店、企業などから協賛金を募り、サービスの維持・向上を図る」が 25%、「便数などのサービスの向上を図って利用者を増やすため、さらに町が経費を負担する」が 13%となっている。</p>		

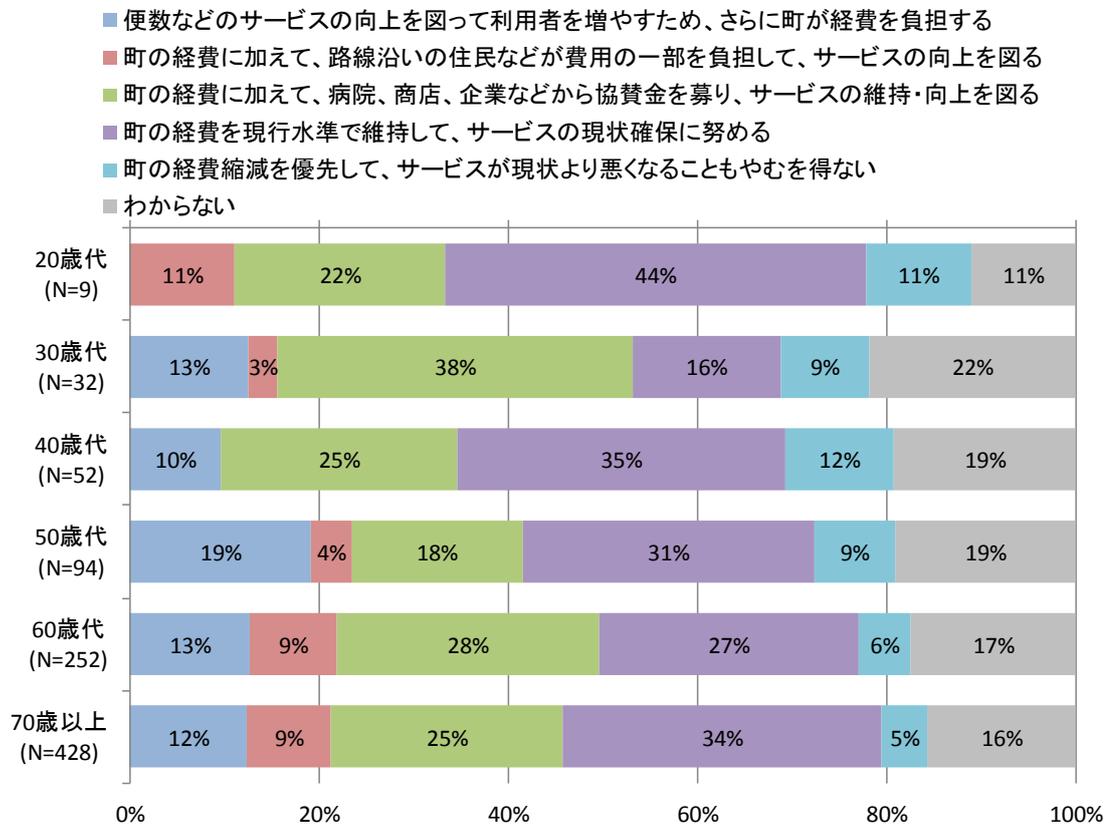


■ バスを公共交通として維持するための対策 (性別)	
<p>・性別では、大きな違いはみられなかった。</p>	



■ バスを公共交通として維持するための対策（年代別）

・年代別では、30歳代で「町の経費を現行水準で維持して、サービスの現状確保に努める」が16%と、他と比べて11ポイント以上低くなっている。



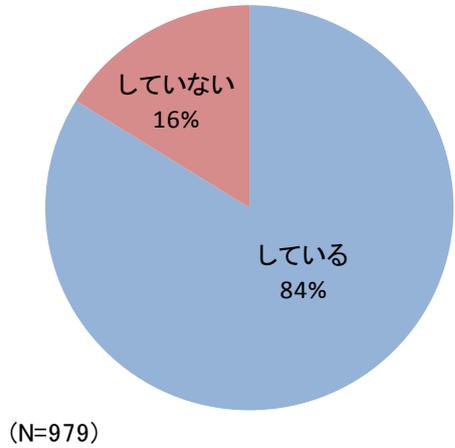
■バスを公共交通として維持するための対策（居住地別）

・居住地別では、兜地区で「町の経費に加えて、路線沿いの住民などが費用の一部を負担して、サービスの向上を図る」が15%と、他と比べて7ポイント以上高くなっている。

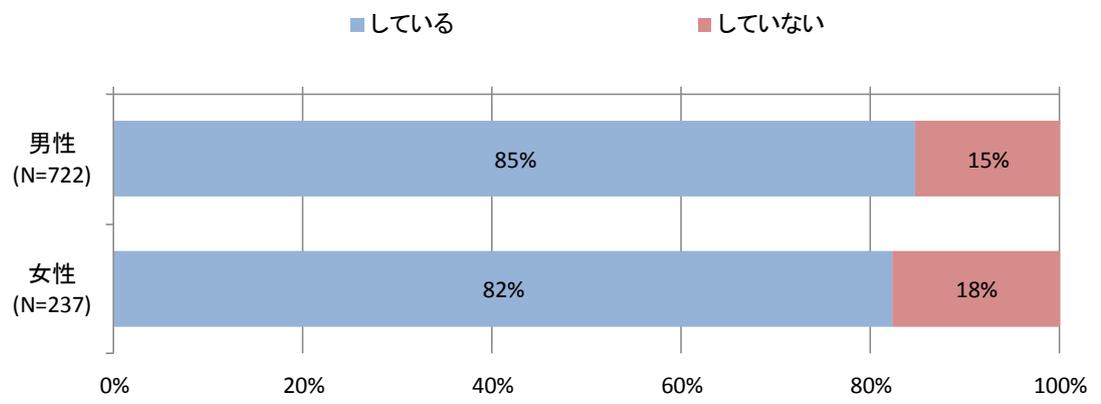
- 便数などのサービスの向上を図って利用者を増やすため、さらに町が経費を負担する
- 町の経費に加えて、路線沿いの住民などが費用の一部を負担して、サービスの向上を図る
- 町の経費に加えて、病院、商店、企業などから協賛金を募り、サービスの維持・向上を図る
- 町の経費を現行水準で維持して、サービスの現状確保に努める
- 町の経費削減を優先して、サービスが現状より悪くなることもやむを得ない
- わからない



⑫	墓の所有	【新規設問】
<p>・「している」が84%、「していない」が16%となっている。</p>		

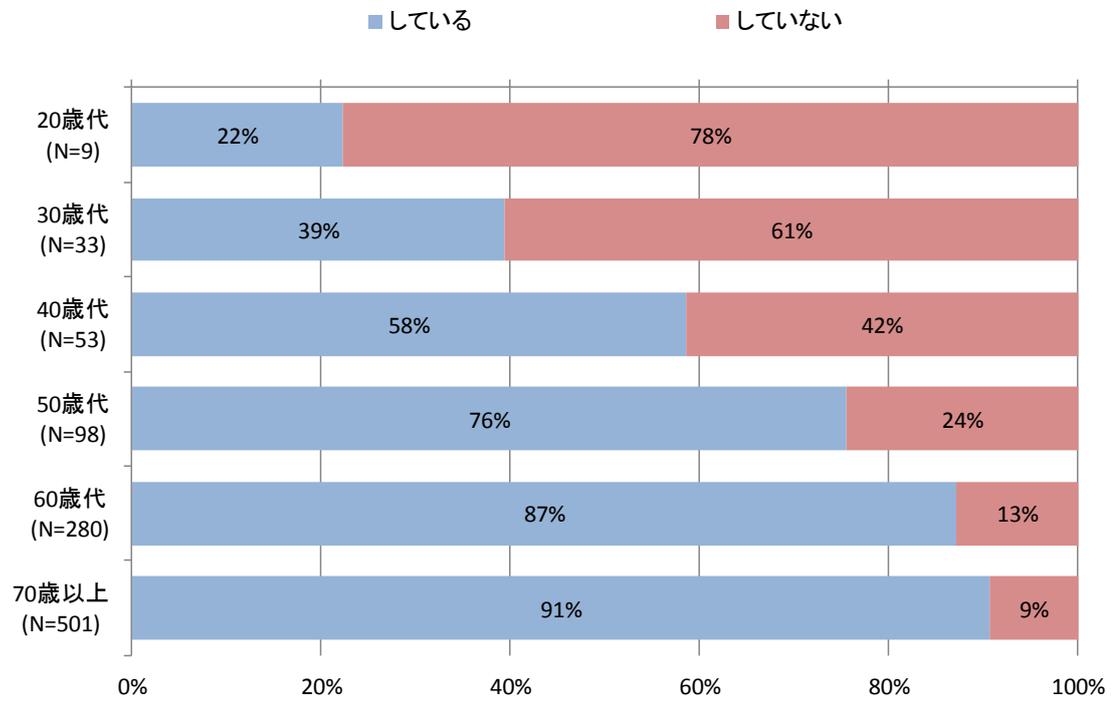


■ 墓の所有 (性別)	
<p>・性別では、大きな違いはみられなかった。</p>	



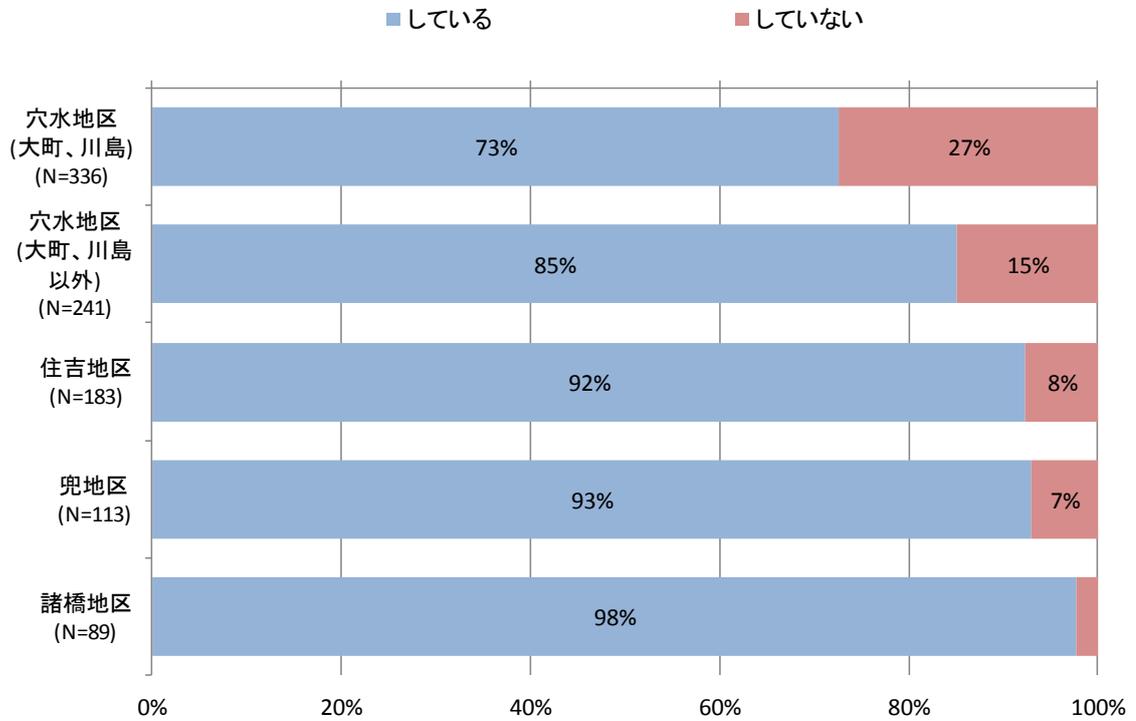
■墓の所有（年代別）

・年代別では、若年層ほど墓を所有している割合が少なくなっている。



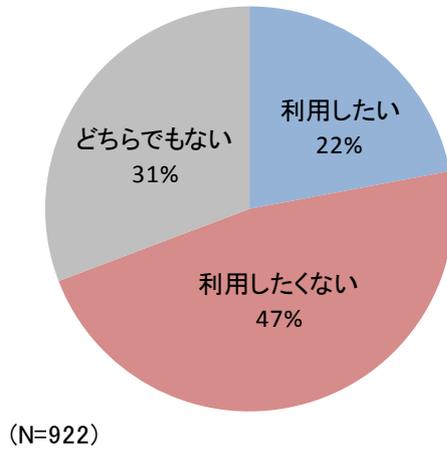
■墓の所有（居住地別）

・居住地別では、穴水地区（大町、川島）で「していない」が27%と、他と比べて12ポイント以上高くなっている。

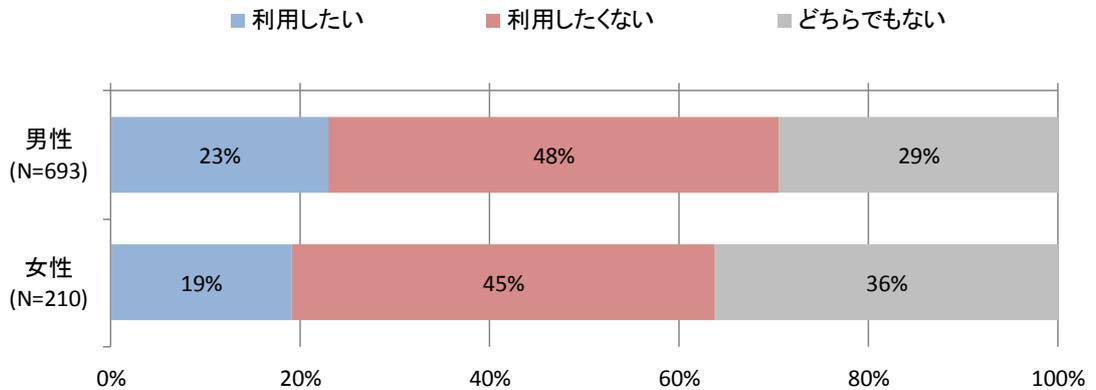


※ 3%未満は非表示

②⑥	合葬墓を利用したいか	【新規設問】
<p>・「利用したくない」が47%で最も多く、次いで「どちらでもない」が31%、「利用したい」が22%となっている。</p>		

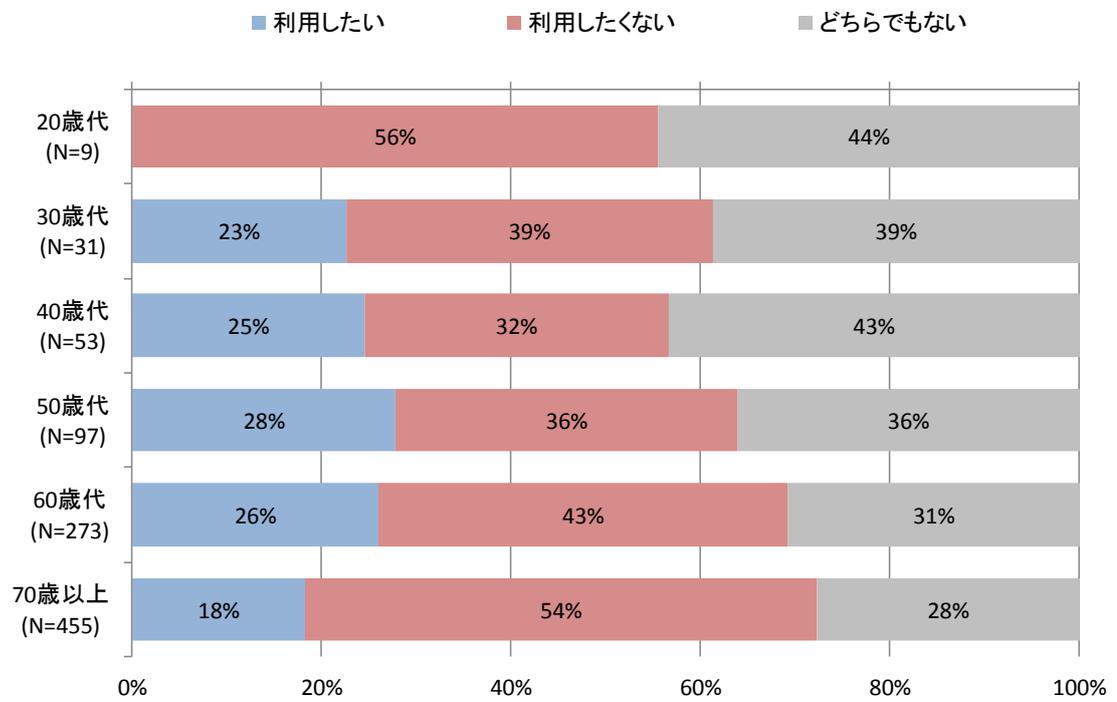


■ 合葬墓を利用したいか (性別)	
<p>・性別では、女性で「どちらでもない」が36%と、男性と比べて7ポイント高くなっている。</p>	



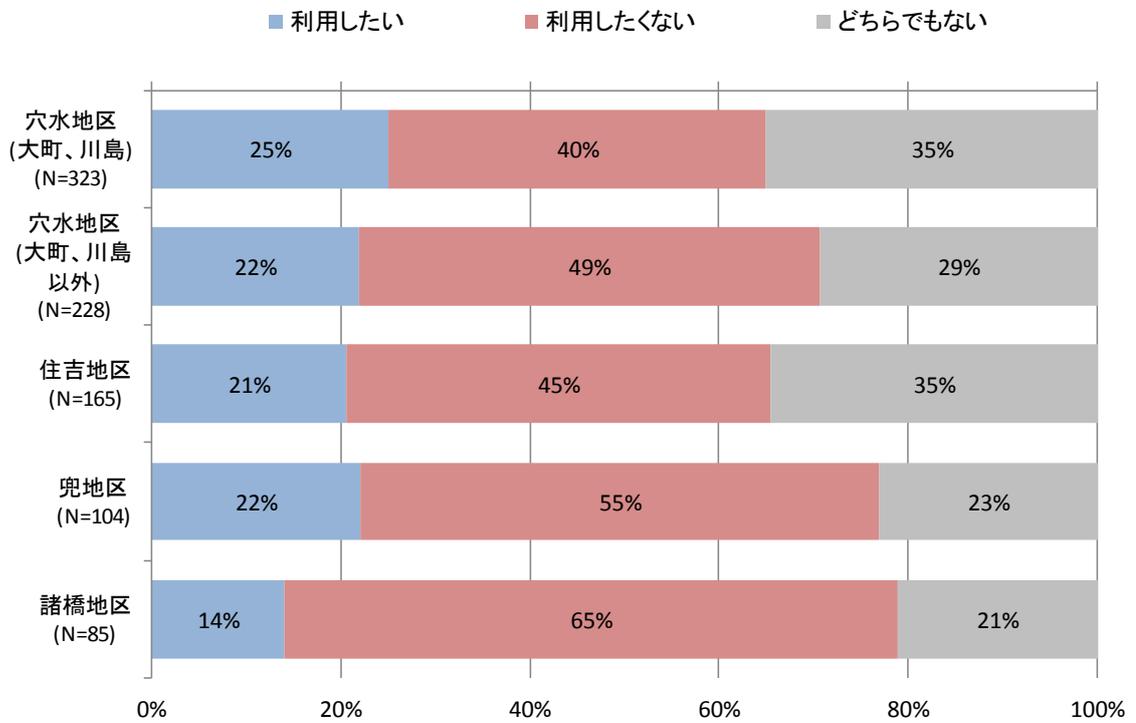
■合葬墓を利用したいか（年代別）

・年代別では、20歳代で「利用したい」が0%と、他と比べて18ポイント以上低くなっている。

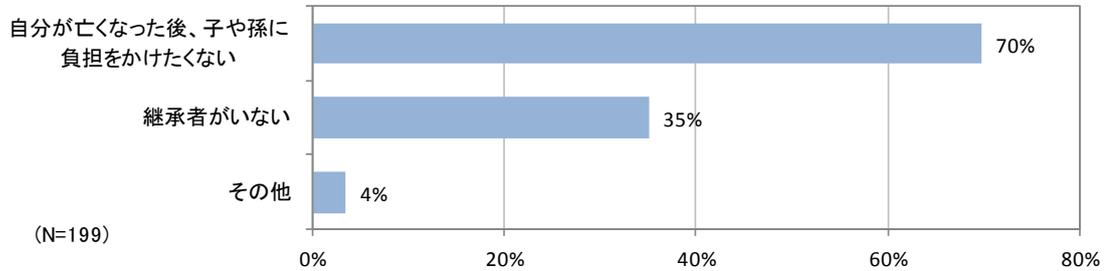


■合葬墓を利用したいか（居住地別）

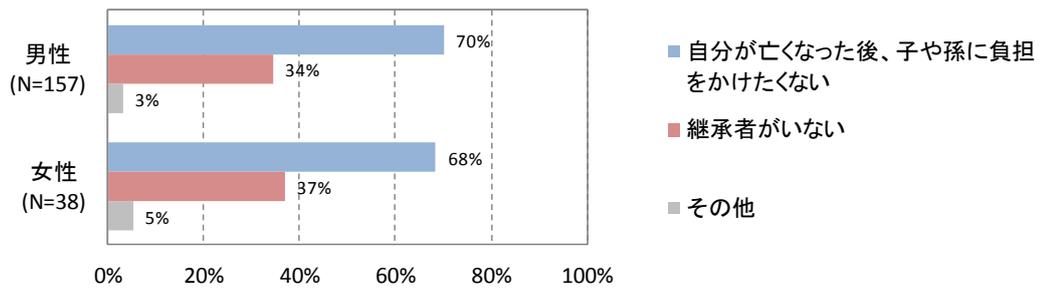
・居住地別では、諸橋地区で「利用したくない」が65%と、他と比べて10ポイント以上高くなっている。



⑰	合葬墓を利用したい理由（当てはまるものすべて回答）	【新規設問】
※⑳で「利用したい」との回答者を対象に集計		
<p>・「自分が亡くなった後、子や孫に負担をかけたくない」が70%で最も多く、次いで「継承者がいない」が35%、「その他」が4%となっている。</p>		

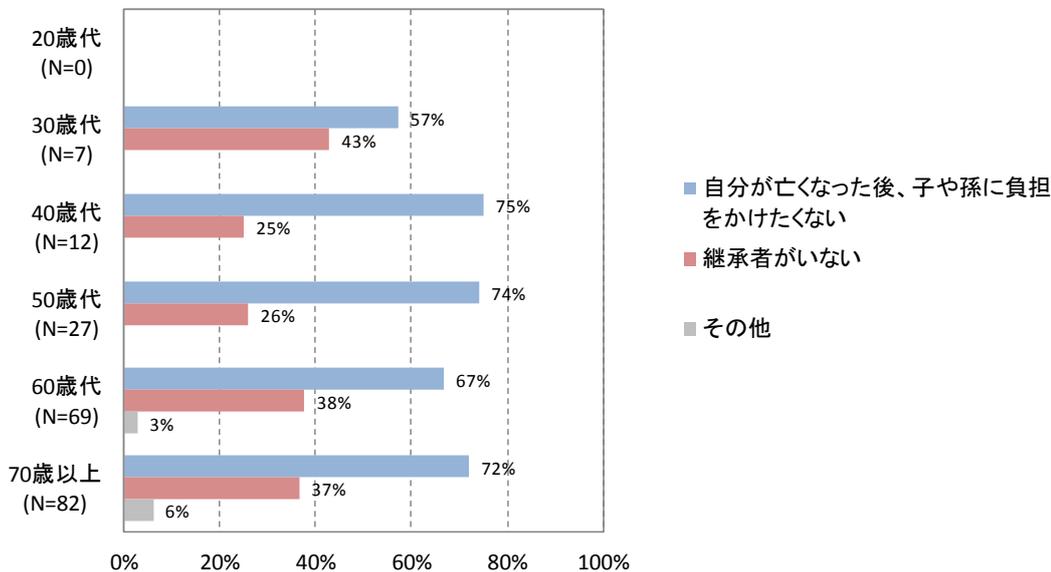


■ 合葬墓を利用したい理由（性別）
<p>・性別では、大きな違いはみられなかった。</p>



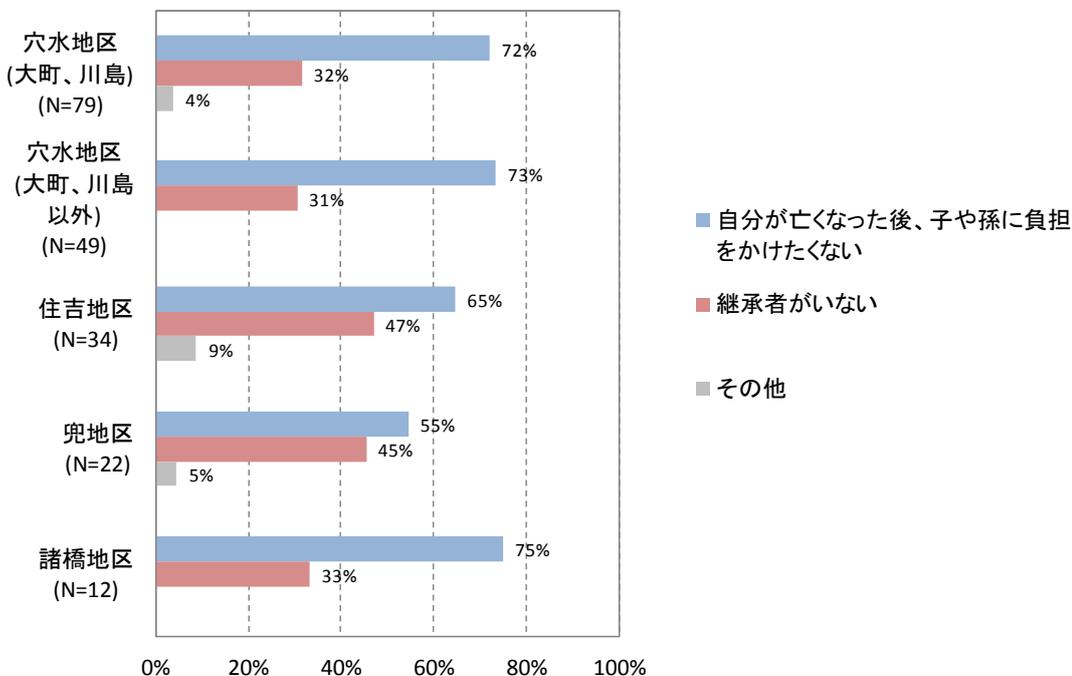
■合葬墓を利用したい理由（年代別）

・年代別では、30歳代で「自分が亡くなった後、子や孫に負担をかけたくない」が57%と、他と比べて10ポイント以上低くなっている。

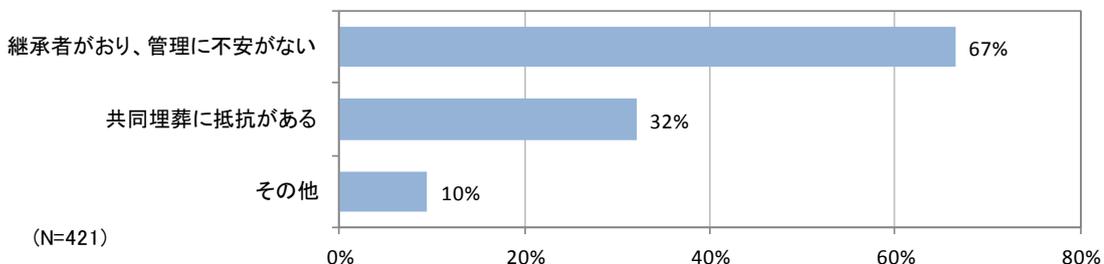


■合葬墓を利用したい理由（居住地別）

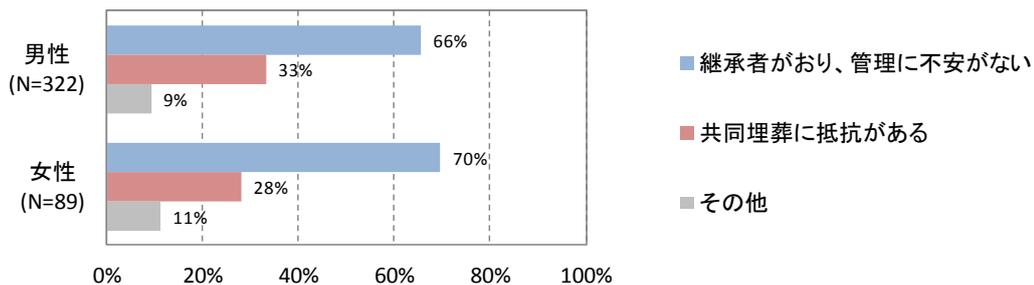
・居住地別では、兜地区で「自分が亡くなった後、子や孫に負担をかけたくない」が55%と、他と比べて10ポイント以上低くなっている。



⑳	合葬墓を利用したくない理由（当てはまるものすべて回答）	【新規設問】
※㉔で「利用したくない」との回答者を対象に集計		
<p>・「継承者がおり、管理に不安がない」が67%で最も多く、次いで「共同埋葬に抵抗がある」が32%、「その他」が10%となっている。</p>		

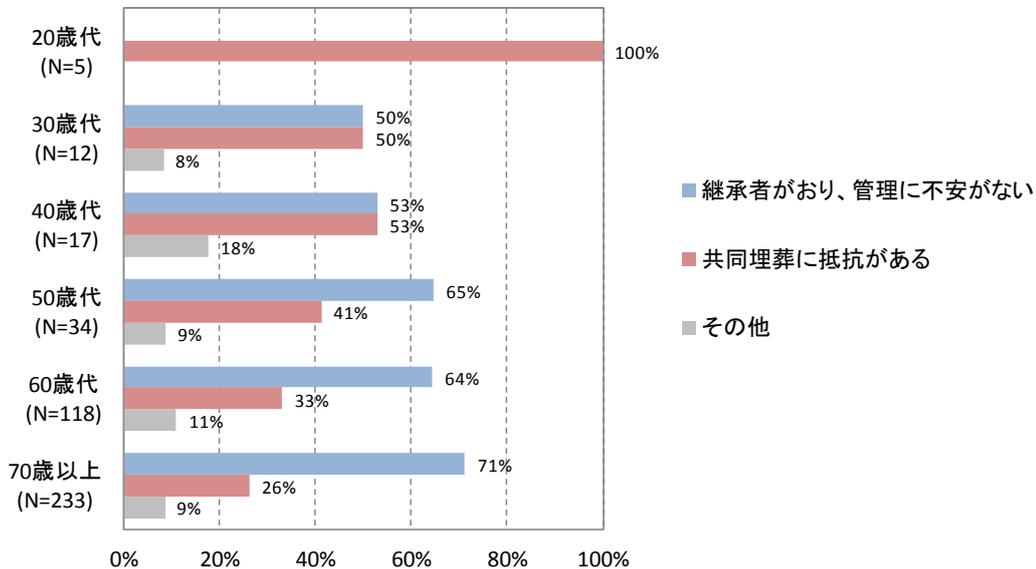


■合葬墓を利用したくない理由（性別）	
<p>・性別では、男性で「共同埋葬に抵抗がある」が33%と、女性と比べて5ポイント高くなっている。</p>	



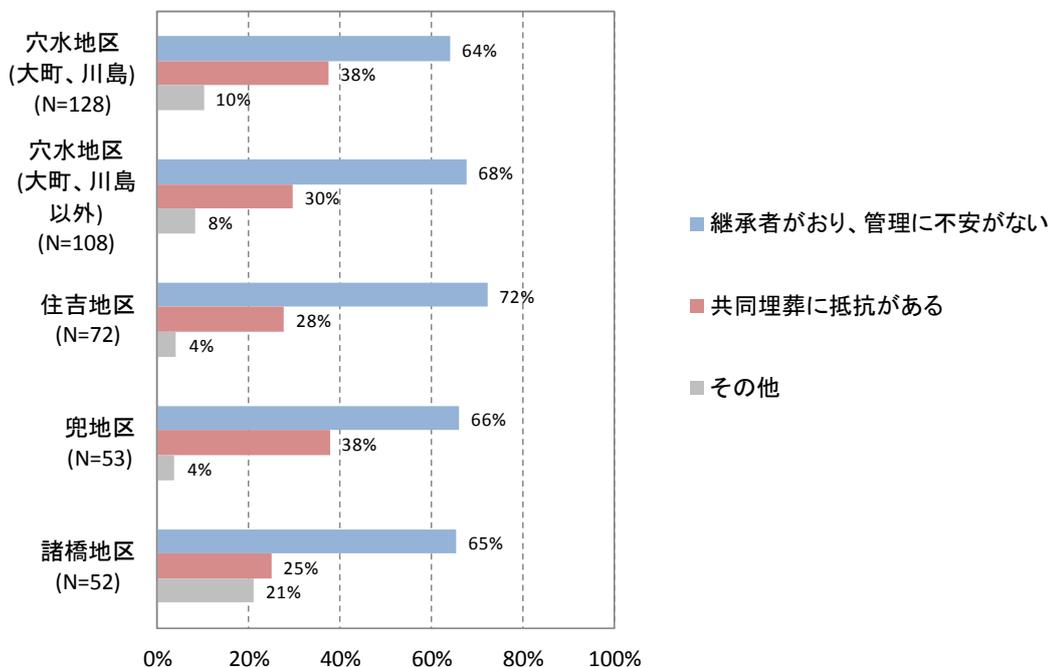
■合葬墓を利用したくない理由（年代別）

・年代別では、20歳代で「共同埋葬に抵抗がある」が100%と、他と比べて47ポイント以上高くなっている。



■合葬墓を利用したくない理由（居住地別）

・居住地別では、大きな違いはみられなかった。

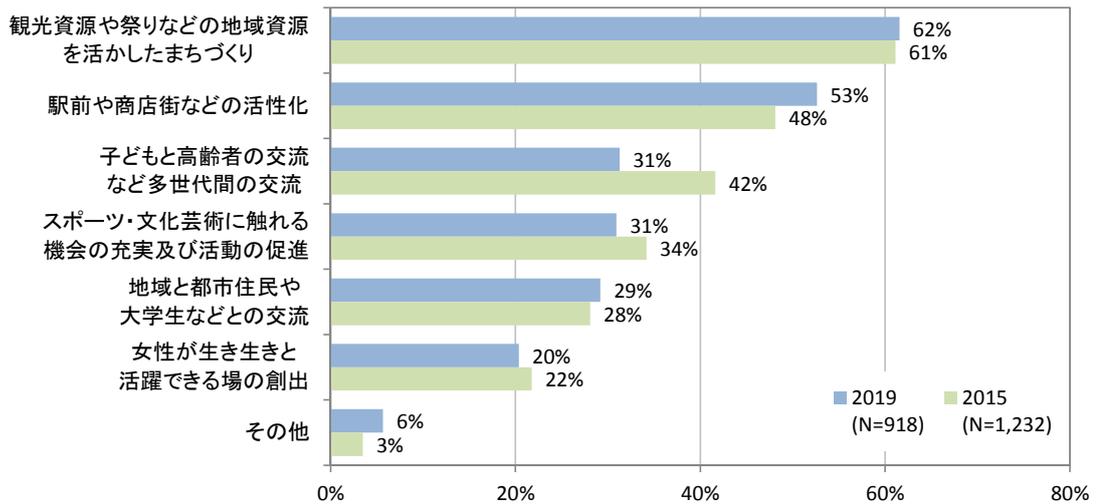


【問6】今後の穴水町の活性化とまちづくりの方向性について

⑲ 地域の活性化、にぎわい創出を目指す取組（3つ以内で回答）

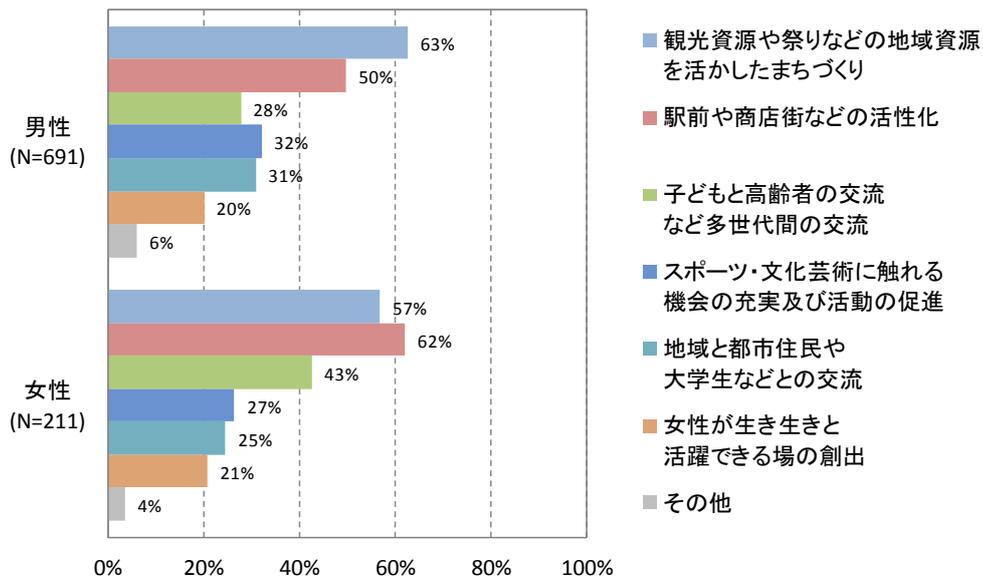
・「観光資源や祭りなどの地域資源を活かしたまちづくり」が62%で最も多く、次いで「駅前や商店街などの活性化」が53%、「子どもと高齢者の交流など多世代間の交流」が31%となっている。

・前回との比較では、2019年で「子どもと高齢者の交流など多世代間の交流」が31%と、2015年と比べて11ポイント低くなっている。



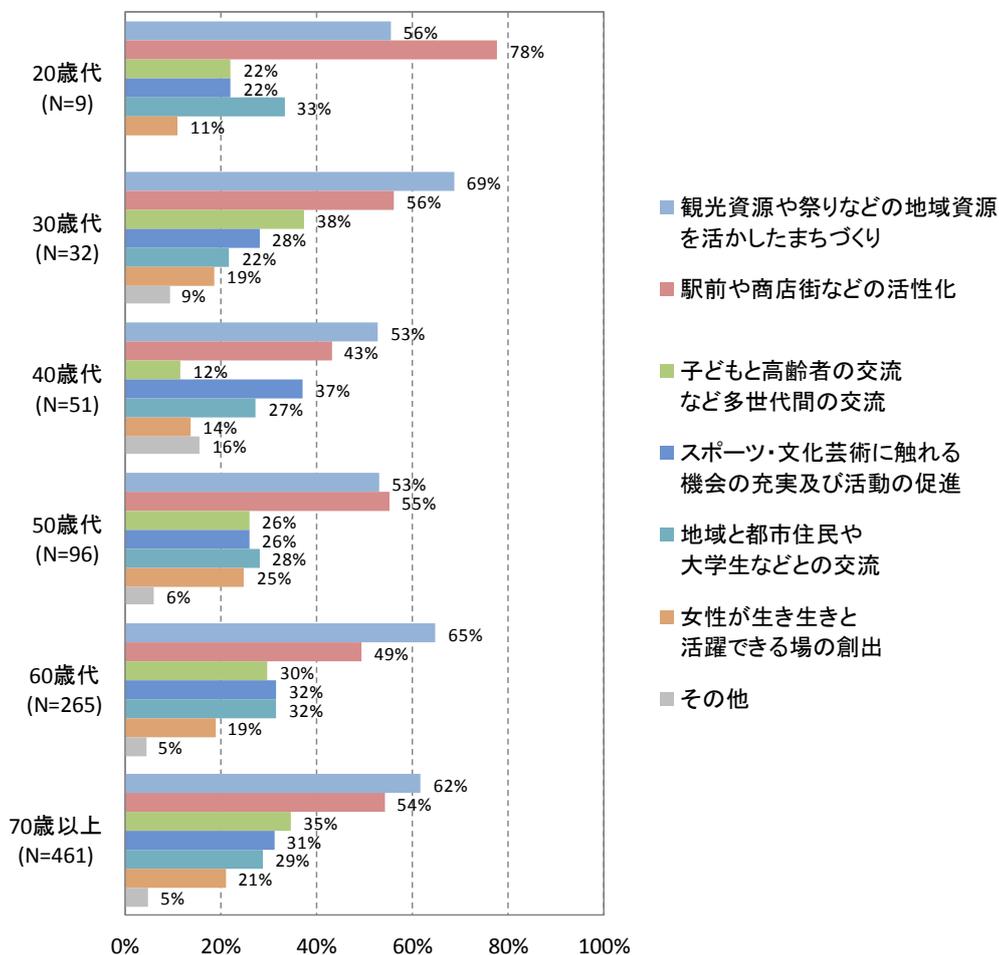
■ 地域の活性化、にぎわい創出を目指す取組（性別）

・性別では、女性で「子どもと高齢者の交流など多世代間の交流」が43%と、男性と比べて15ポイント高くなっている。



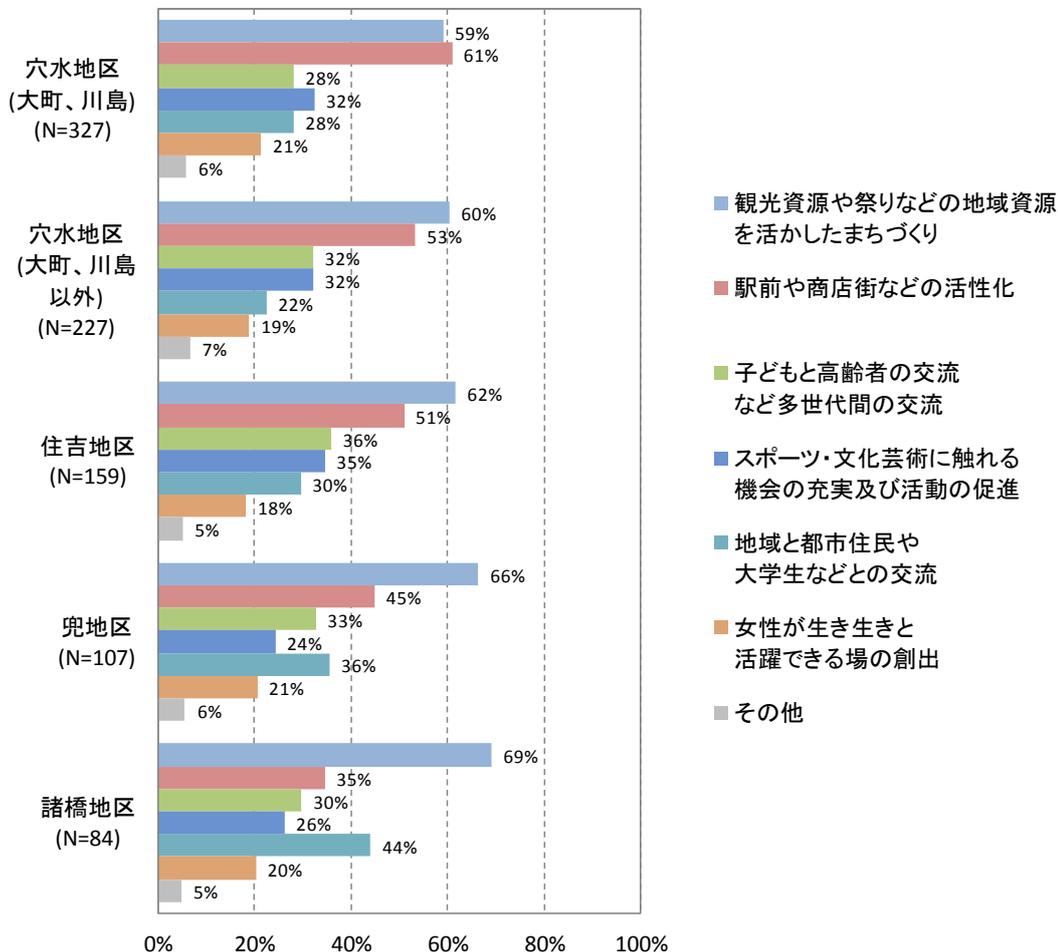
■地域の活性化、にぎわい創出を目指す取組（年代別）

・年代別では、20歳代で「駅前や商店街などの活性化」が78%と、他と比べて22ポイント以上高くなっている。



■地域の活性化、にぎわい創出を目指す取組（居住地別）

・居住地別では、諸橋地区で「駅前や商店街などの活性化」が35%と、他と比べて10ポイント以上低くなっている。

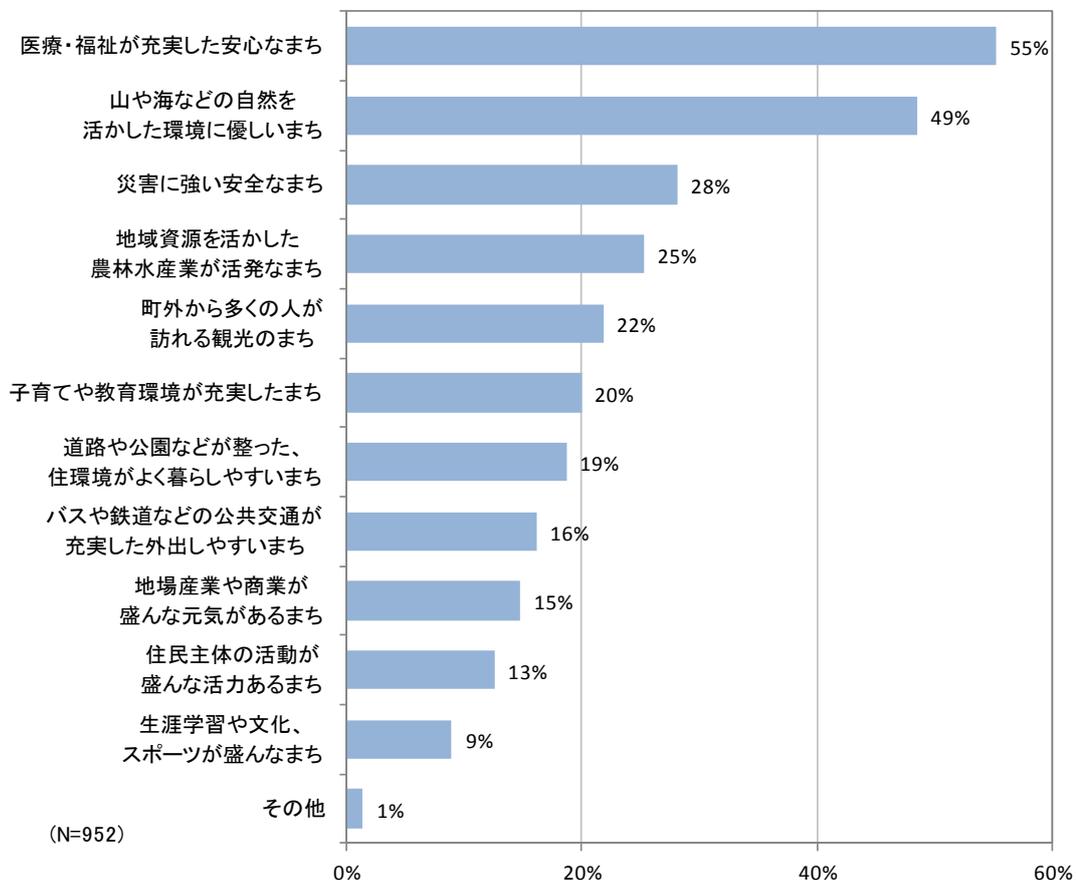


⑩

穴水町の目指すべき姿（3つ以内で回答）

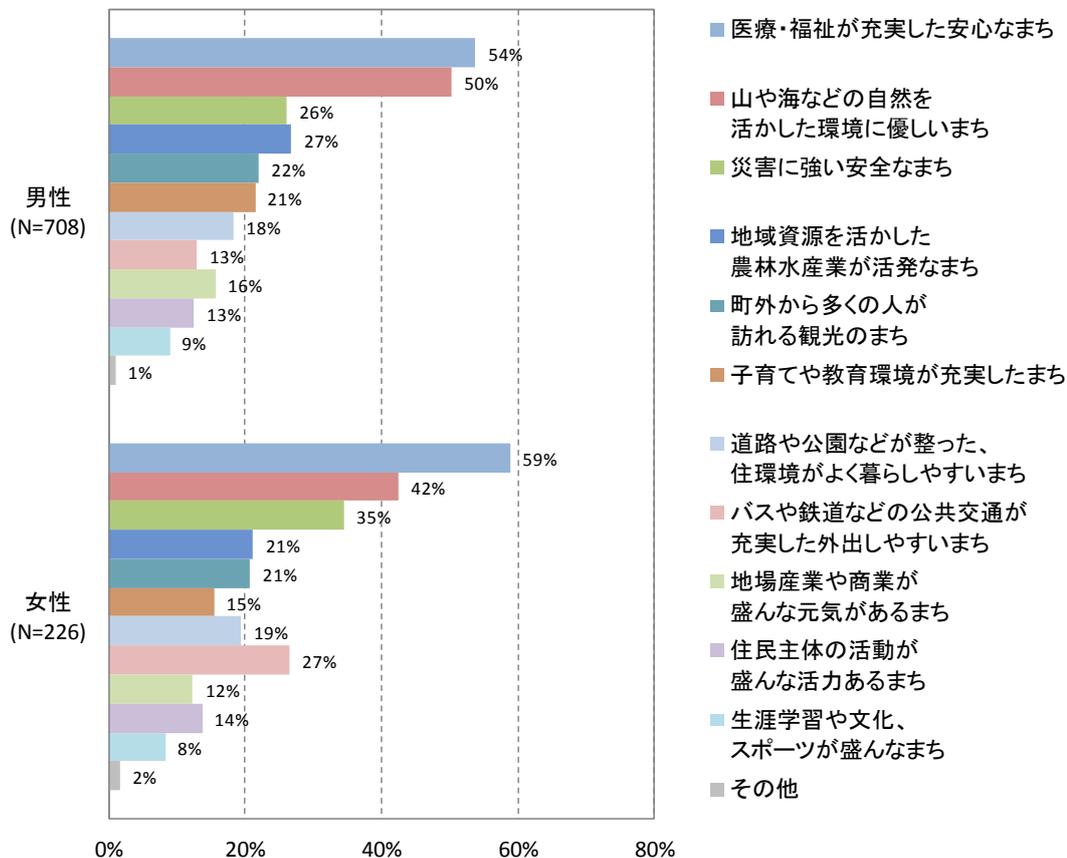
【新規設問】

・「医療・福祉が充実した安心なまち」が55%で最も多く、次いで「山や海などの自然を活かした環境に優しいまち」が49%、「災害に強い安全なまち」が28%となっている。



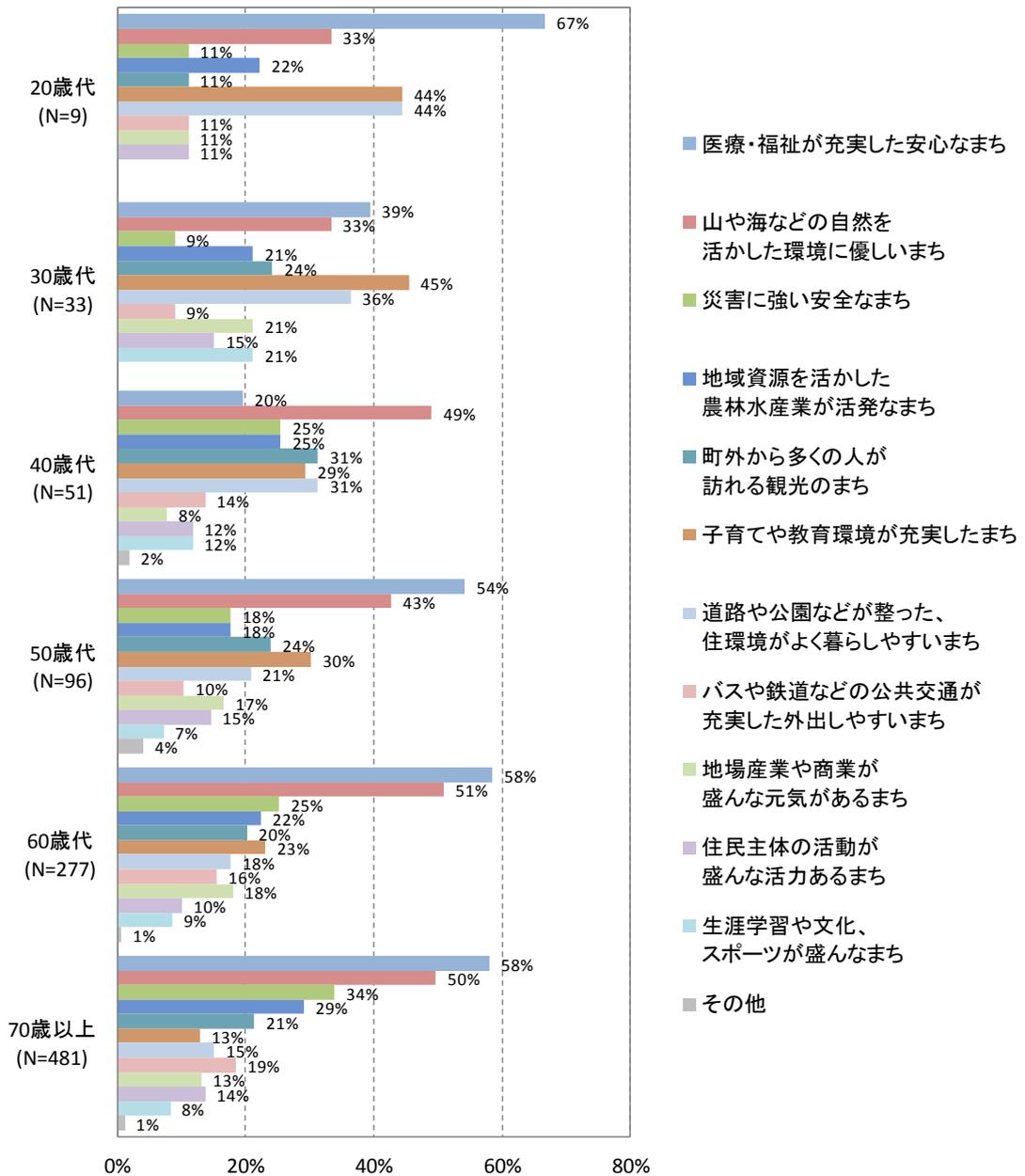
■ 穴水町の目指すべき姿（性別）

・性別では、女性で「バスや鉄道などの公共交通が充実した外出しやすいまち」が27%と、男性と比べて14ポイント高くなっている。



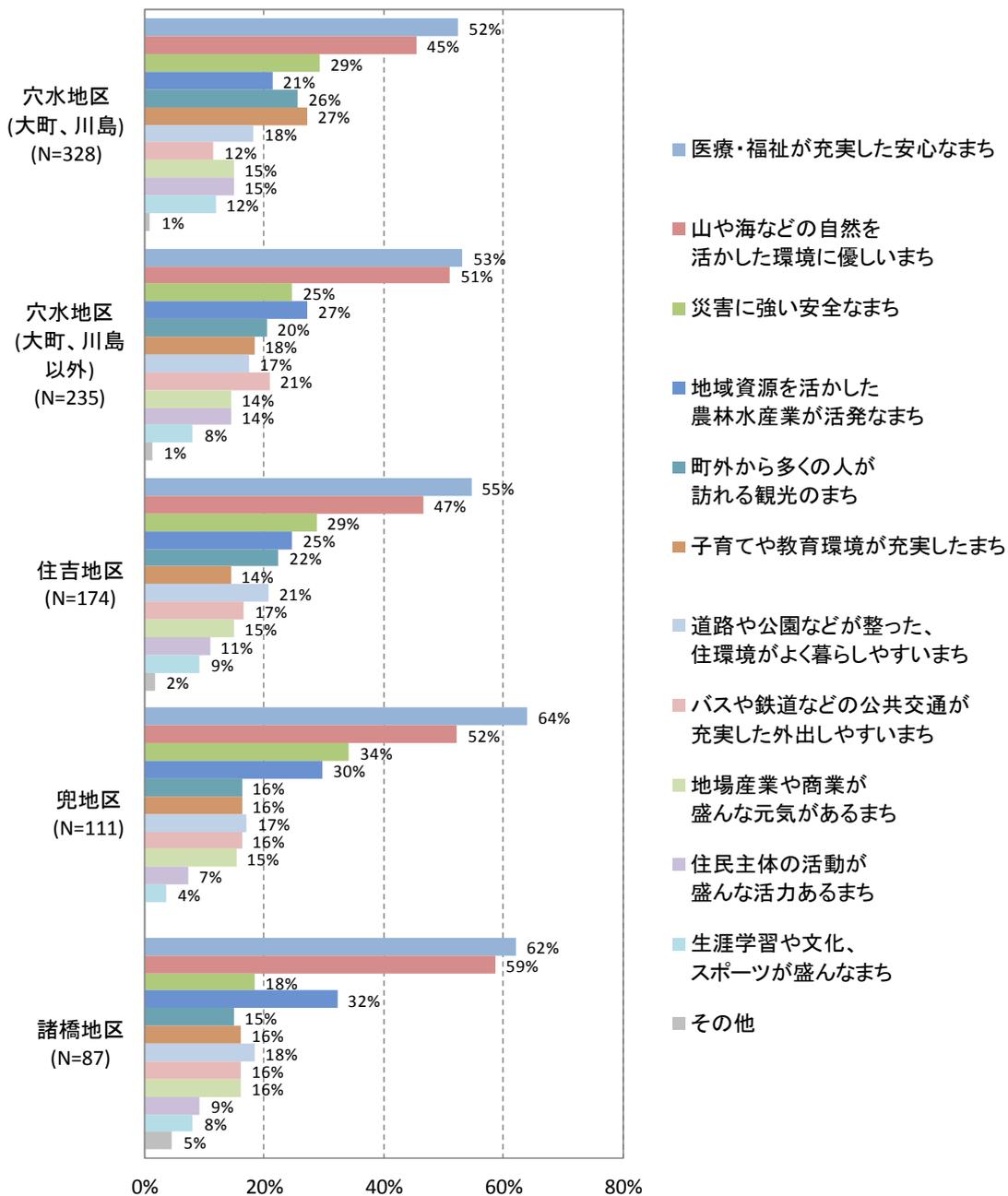
■ 穴水町の目指すべき姿（年代別）

・年代別では、40歳代で「医療・福祉が充実した安心なまち」が20%と、他と比べて19ポイント以上低くなっている。



■ 穴水町の目指すべき姿（居住地別）

・居住地別では、穴水地区（大町、川島）で「子育てや教育環境が充実したまち」が27%と、他と比べて9ポイント以上高くなっている。



③①	意見（自由回答）
	・「企業誘致・雇用（38件）」、「環境・施設整備（35件）」、「行政（33件）」に関する回答が多く、「企業誘致・雇用」では主に「企業誘致を積極的に実施」「若者の雇用創出」「高齢者の雇用創出」等が回答されている。

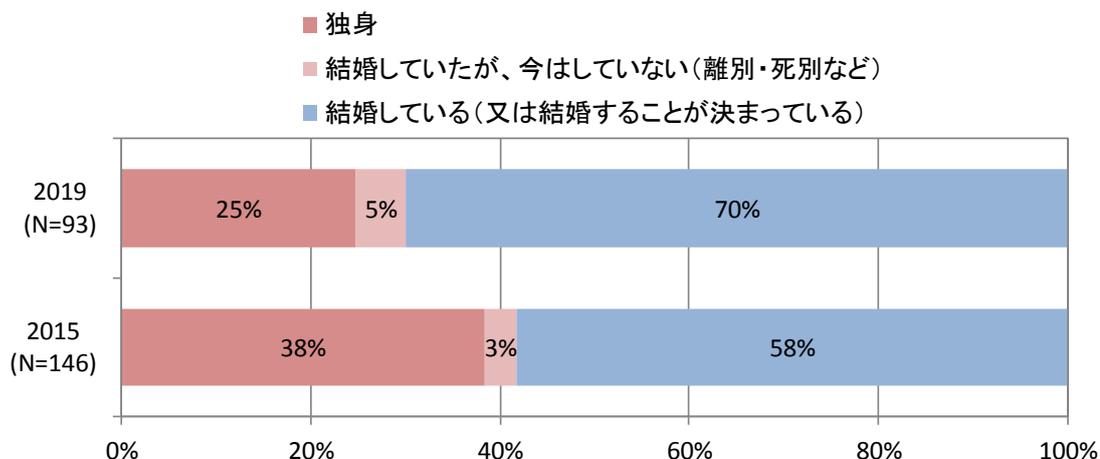
項目	回答数	回答数	主な回答
	2019年 (N=282)	2015年 (N=484)	
企業誘致・雇用	38	65	企業誘致を積極的に実施
			若者の雇用創出
			高齢者の雇用創出
環境・施設整備	35	98	安心して遊べる公園整備
			宿泊施設の整備
			大型商業店の誘致
行政	33	33	議員数の削減
			役場職員の意欲向上
			役場職員の対応
観光	23	23	観光産業の活性化
			マリンスポーツの推進
人口	20	23	移住者の積極的な受入
			若い世代への経済支援
交通	17	25	町内の交通の見直し
			免許返納後の不安
まちづくり	14	12	コンパクトシティへの取組
情報発信	13	25	繰り返しアピールする努力の継続
産業	11	12	地域資源を活かしたブランド品の開発
高齢者	8	19	高齢者の健康管理
子育て・教育	8	-	教育の充実と通学環境の充実
空き家・空き地	6	9	空き家の活用
調査	6	8	アンケート結果の各家庭への配布
地域協力	5	11	奥能登二市二町間での連携
イベント	4	22	自然を活かした山、海のスポーツの大会の開催
税金・公共料金	4	9	公共料金の高さ

項目	回答数	回答数	主な回答
	2019年 (N=282)	2015年 (N=484)	
病院	4	4	医療機関の少なさ
農業	3	15	休耕田や荒地の活用
若者	3	8	若い世代の活用
出会い	3	3	町内（近隣も含めて）の独身者を結婚に向かわせる施策の実施
美化	2	4	既存の観光道路の補修整備や美化の持続
商店街	1	8	町商店街の復活
特になし	-	8	-
意識	-	7	-
その他	21	33	将来への不安
			ふれあい文化センターの活用

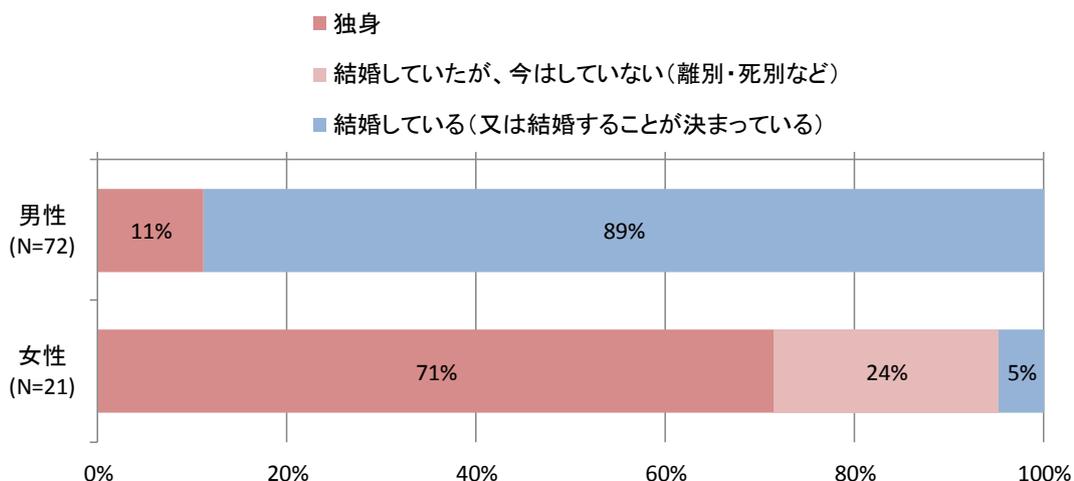
※問7は世帯主の中でも18～49歳を対象に集計している。

【問7】結婚・出産・子育てについて

⑳	結婚について
	<ul style="list-style-type: none"> ・「結婚している（又は結婚することが決まっている）」が70%で最も多く、次いで「独身」が25%、「結婚していたが、今はしていない（離別・死別など）」が5%となっている。 ・前回との比較では、2019年で「独身」が25%と、2015年と比べて13ポイント低くなっている。一方で、2019年で「結婚している（又は結婚することが決まっている）」が70%と、2015年と比べて12ポイント高くなっている。

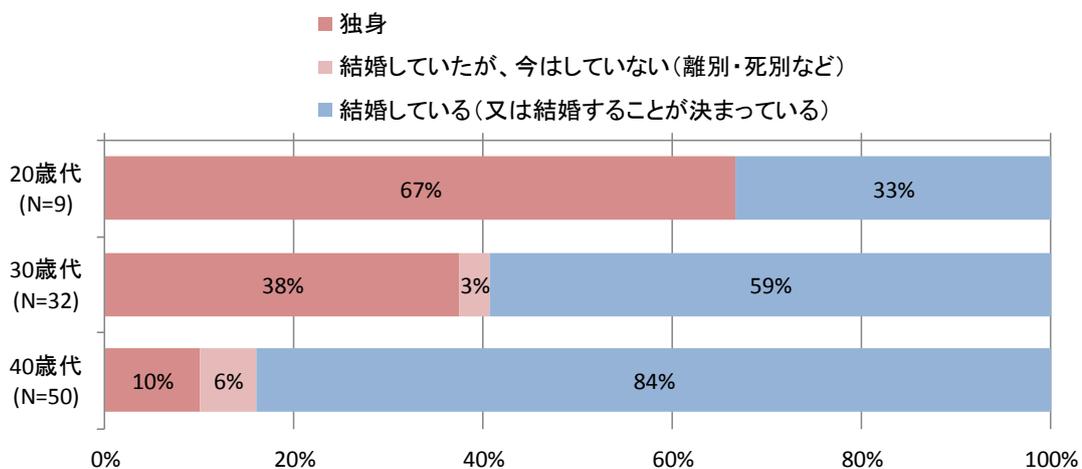


■	結婚について（性別）
	<ul style="list-style-type: none"> ・性別では、男性で「結婚している（又は結婚することが決まっている）」が89%と、女性と比べて84ポイント高くなっている。



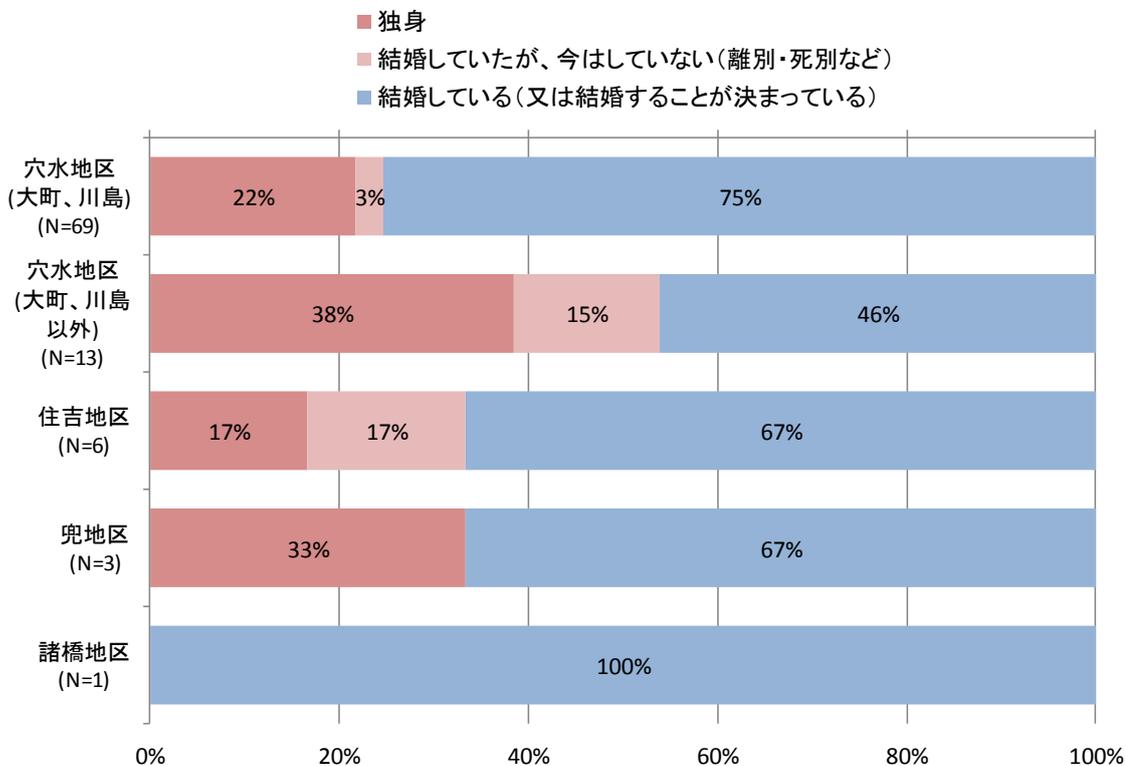
■ 結婚について（年代別）

・年代別では、20歳代で「独身」が67%と、他と比べて29ポイント以上高くなっている。



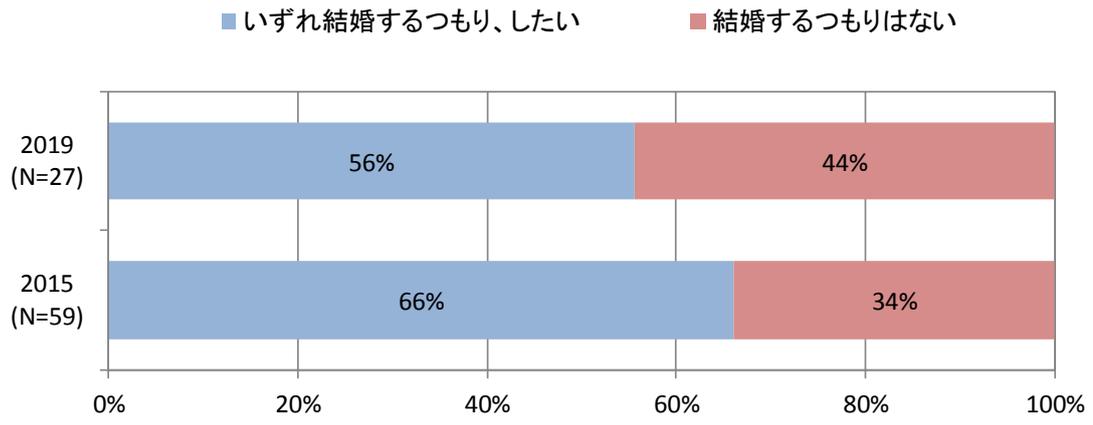
■ 結婚について（居住地別）

・居住地別では、穴水地区（大町、川島以外）で「独身」と「結婚していたが、今はしていない（離別・死別など）」の合計が53%と、他の合計と比べて19ポイント以上高くなっている。

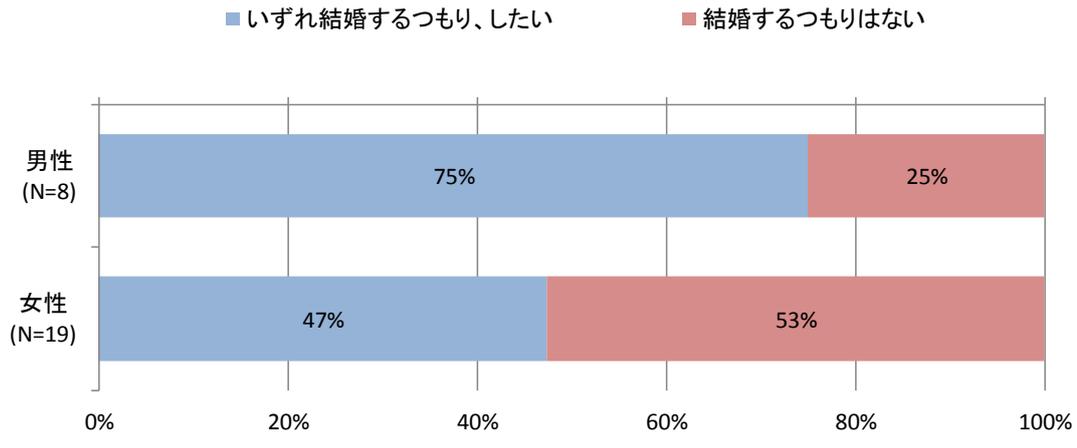


※ 3%未満は非表示

③③	将来結婚したいか
※③②で「独身」「結婚していたが、今はしていない（離別・死別など）」との回答者を対象に集計	
<ul style="list-style-type: none"> ・「いずれ結婚するつもり、したい」が 56%、「結婚するつもりはない」が 44%となっている。 ・前回との比較では、2019 年で「いずれ結婚するつもり、したい」が 56%と、2015 年と比べて 10 ポイント低くなっている。 	

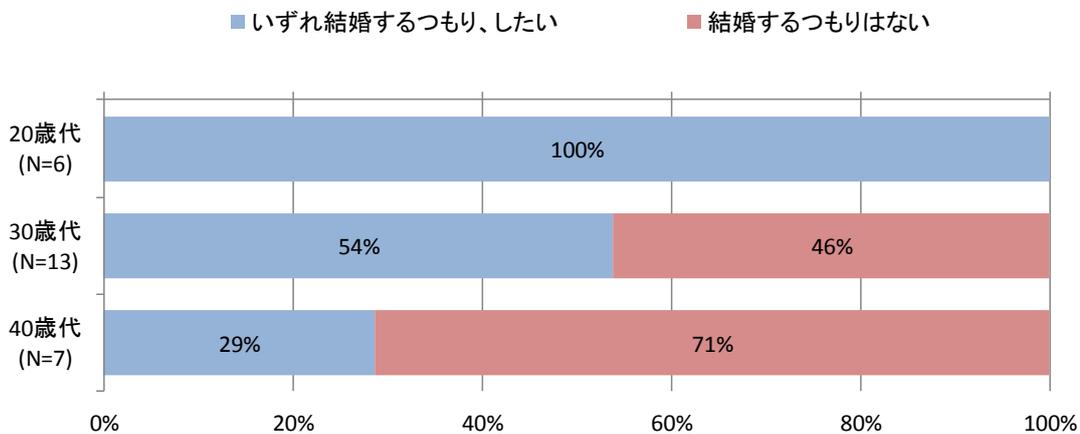


■ 将来結婚したいか（性別）	
<ul style="list-style-type: none"> ・性別では、男性で「いずれ結婚するつもり、したい」が 75%と、女性に比べて 28 ポイント高くなっている。 	



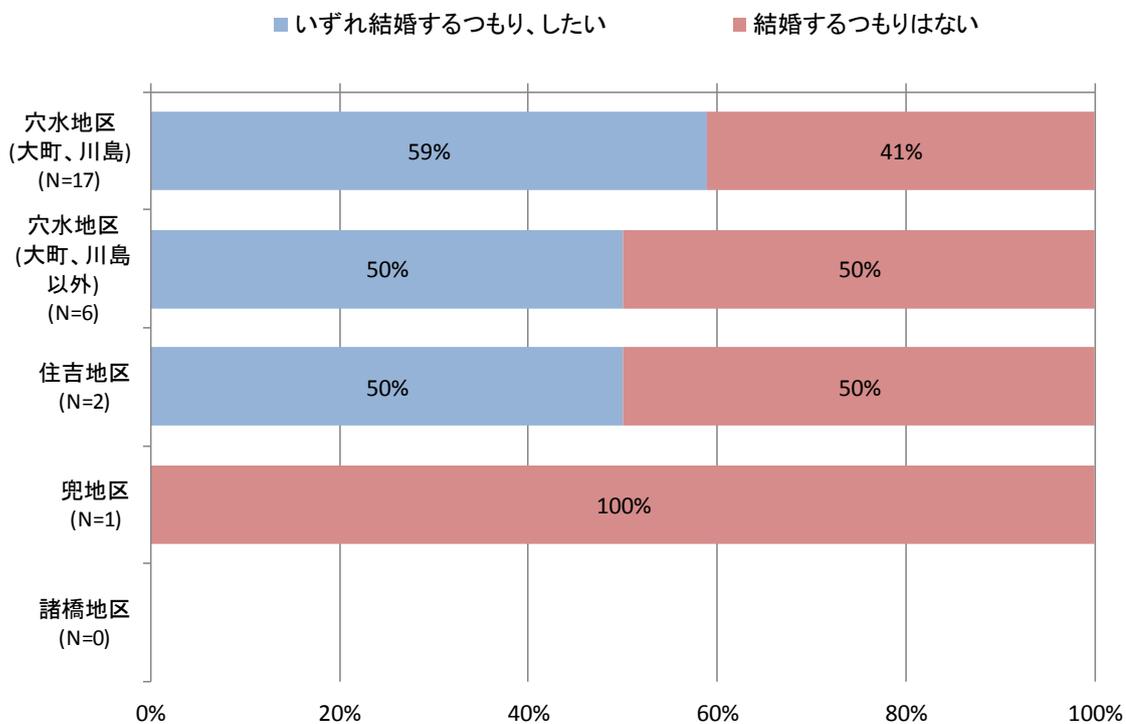
■ 将来結婚したいか（年代別）

・年代別では、20歳代で「いずれ結婚するつもり、したい」が100%と、他と比べて46ポイント以上高くなっている。

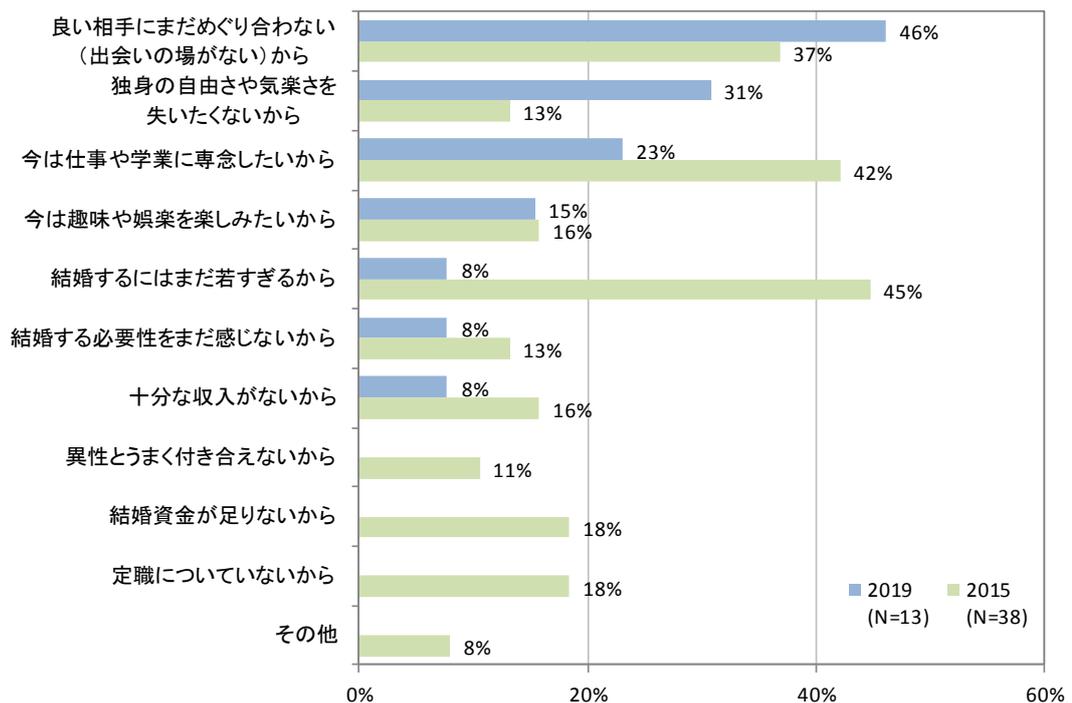


■ 将来結婚したいか（居住地別）

・居住地別では、穴水地区（大町、川島）、穴水地区（大町、川島以外）、住吉地区で「いずれ結婚するつもり、したい」が5割以上となっている。



③④	独身でいる理由（3つ以内で回答）
	※③④で「いずれ結婚するつもり、したい」との回答者を対象に集計
<ul style="list-style-type: none"> ・「良い相手にまだめぐり合わない（出会いの場がない）から」が46%で最も多く、次いで「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」が31%、「今は仕事や学業に専念したいから」が23%となっている。 ・前回との比較では、2019年で「結婚するにはまだ若すぎるから」が8%と、2015年と比べて37ポイント低くなっている。 	

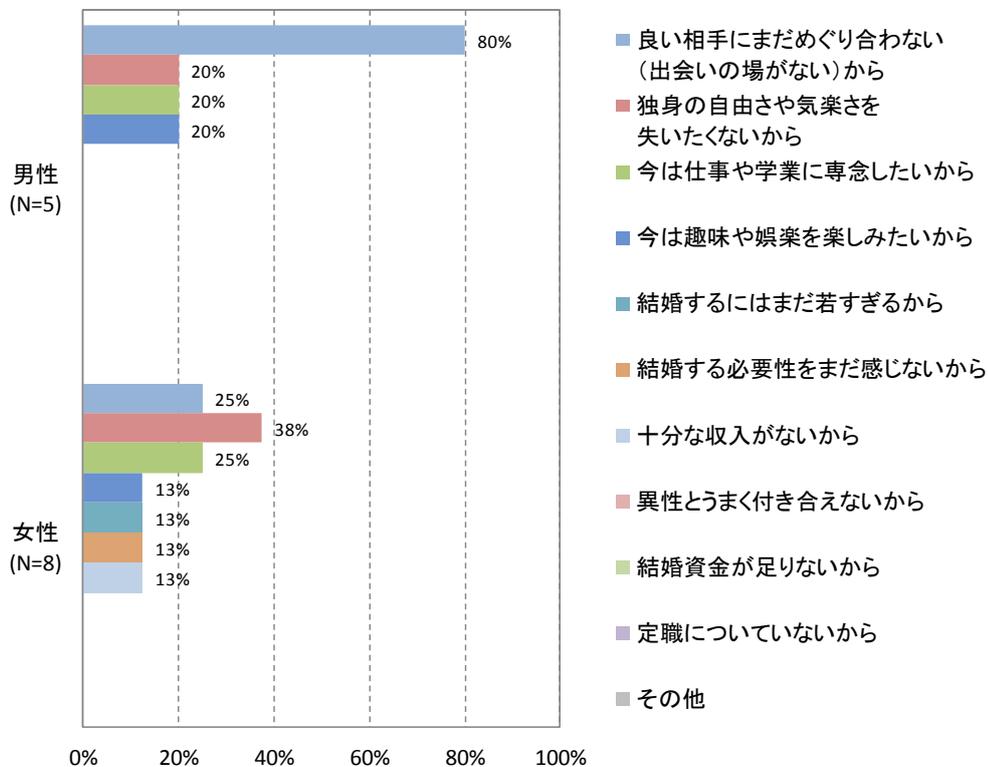


※選択肢について

本調査（2019年）では、前回調査（2015年）で回答が少なかった一部の選択肢を除いている。なお、2015年の値は削除した選択肢を除いて再集計している。

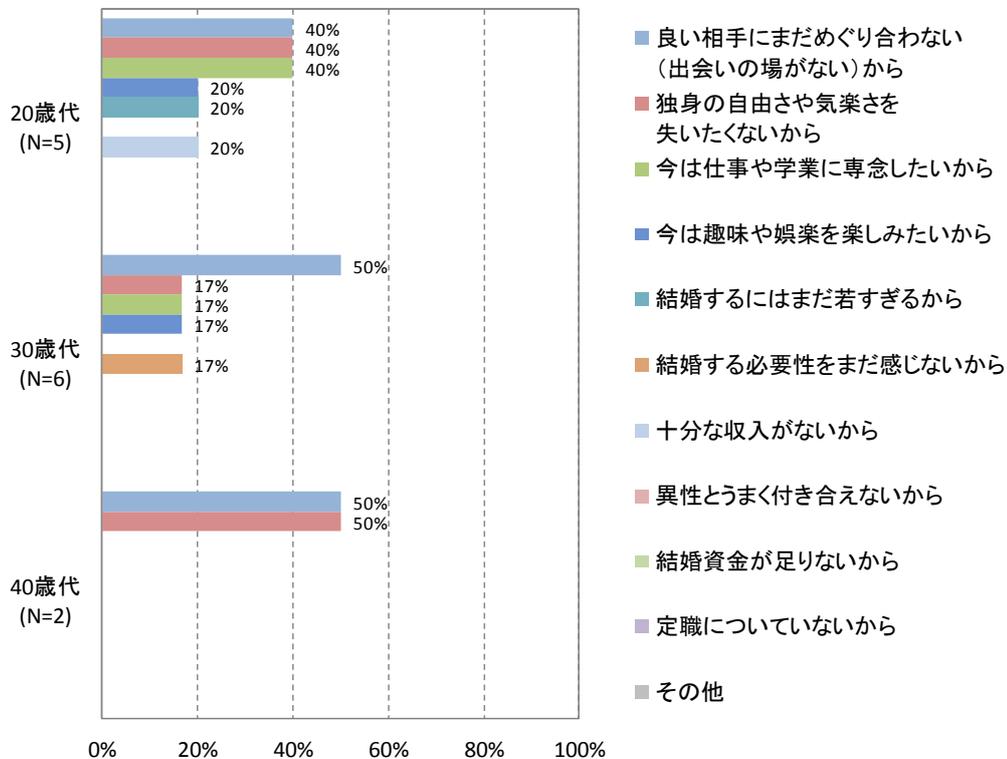
■独身でいる理由（性別）

・性別では、男性で「良い相手にまだめぐり合わない（出会いの場がない）から」が80%と、女性と比べて55ポイント高くなっている。



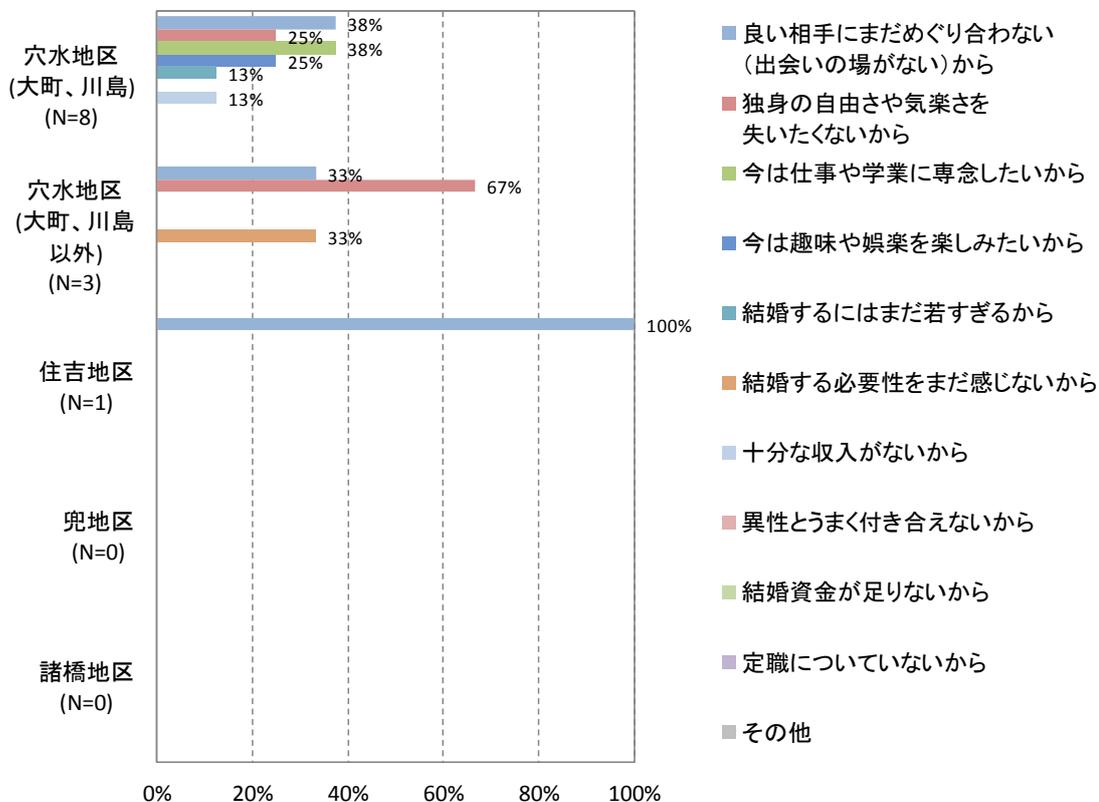
■独身でいる理由（年代別）

・年代別では、20歳代で「今は仕事や学業に専念したいから」が40%と、他と比べて23ポイント以上高くなっている。

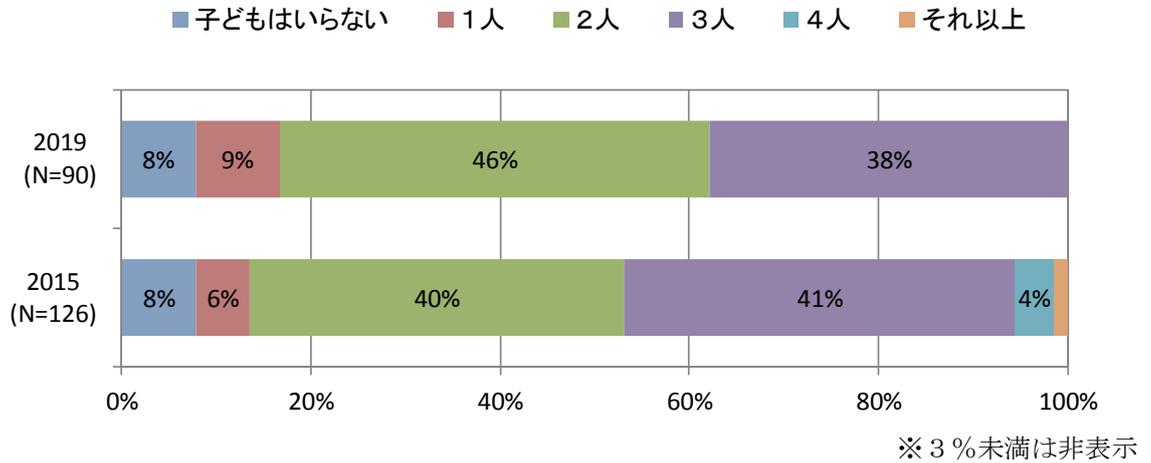


■独身でいる理由（居住地別）

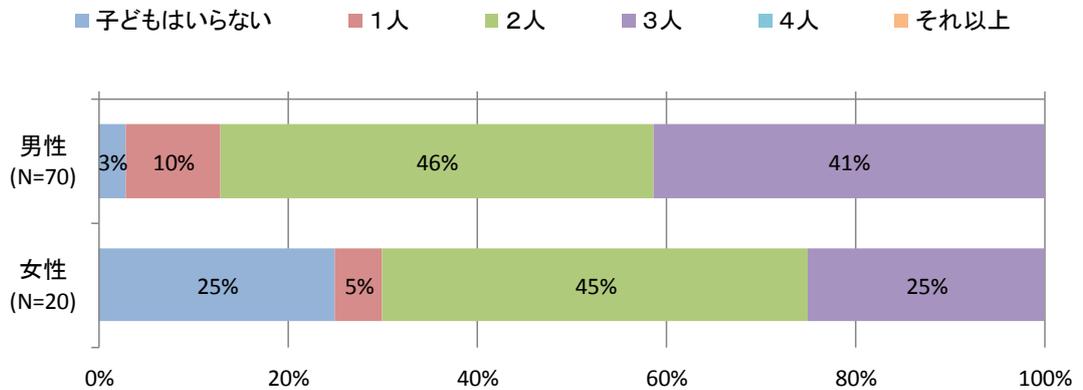
・居住地別では、穴水地区（大町、川島）で「良い相手にまだめぐり合わない（出会いの場がない）から」「今は仕事や学業に専念したいから」が約4割となっている。



③⑤	理想的な子どもの人数
<ul style="list-style-type: none"> ・「2人」が46%で最も多く、次いで「3人」が38%、「1人」が9%となっている。 ・前回との比較では、2019年で「2人」が46%と、2015年と比べて6ポイント高くなっている。 	

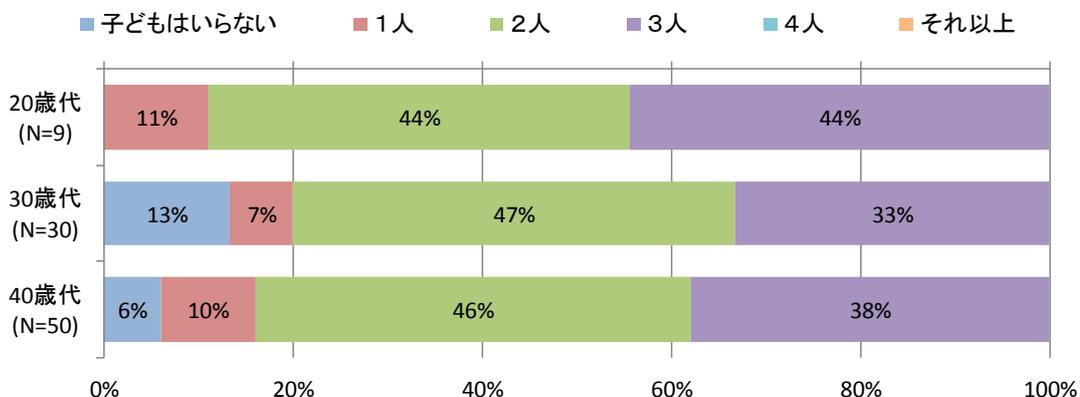


理想的な子どもの人数 (性別)	
<ul style="list-style-type: none"> ・性別では、女性で「子どもはいらない」が25%と、男性と比べて22ポイント高くなっている。 	



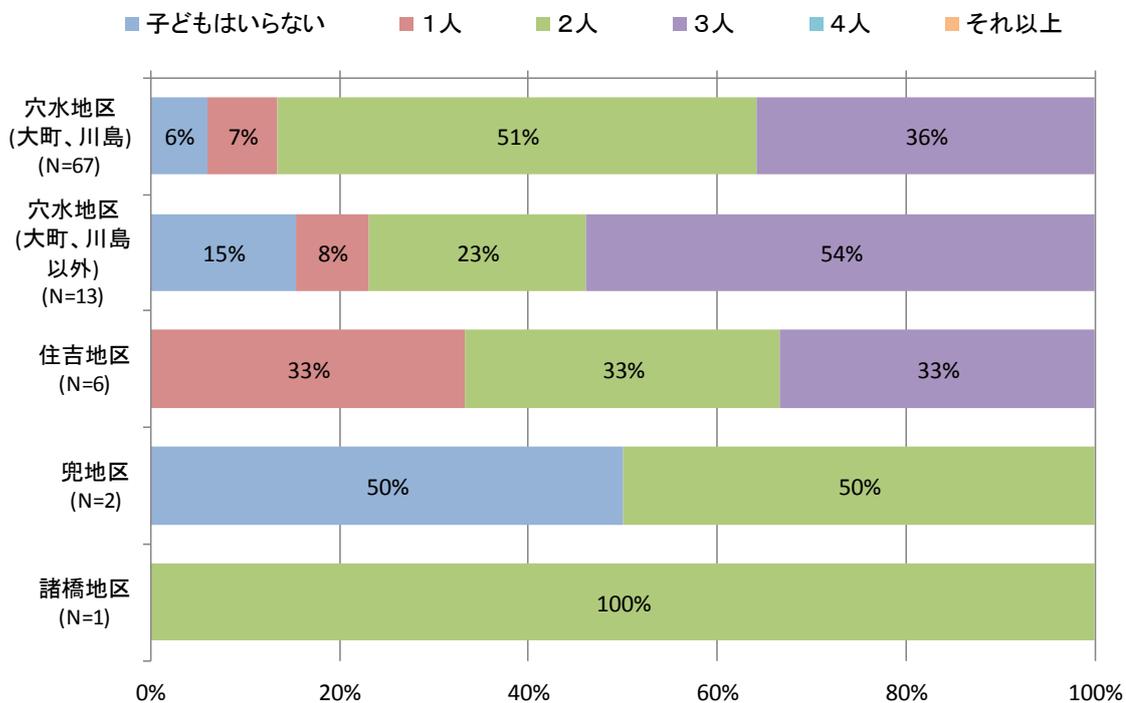
■理想的な子どもの人数（年代別）

・年代別では、30歳代で「子どもはいらない」が13%と、他と比べて7ポイント以上高くなっている。

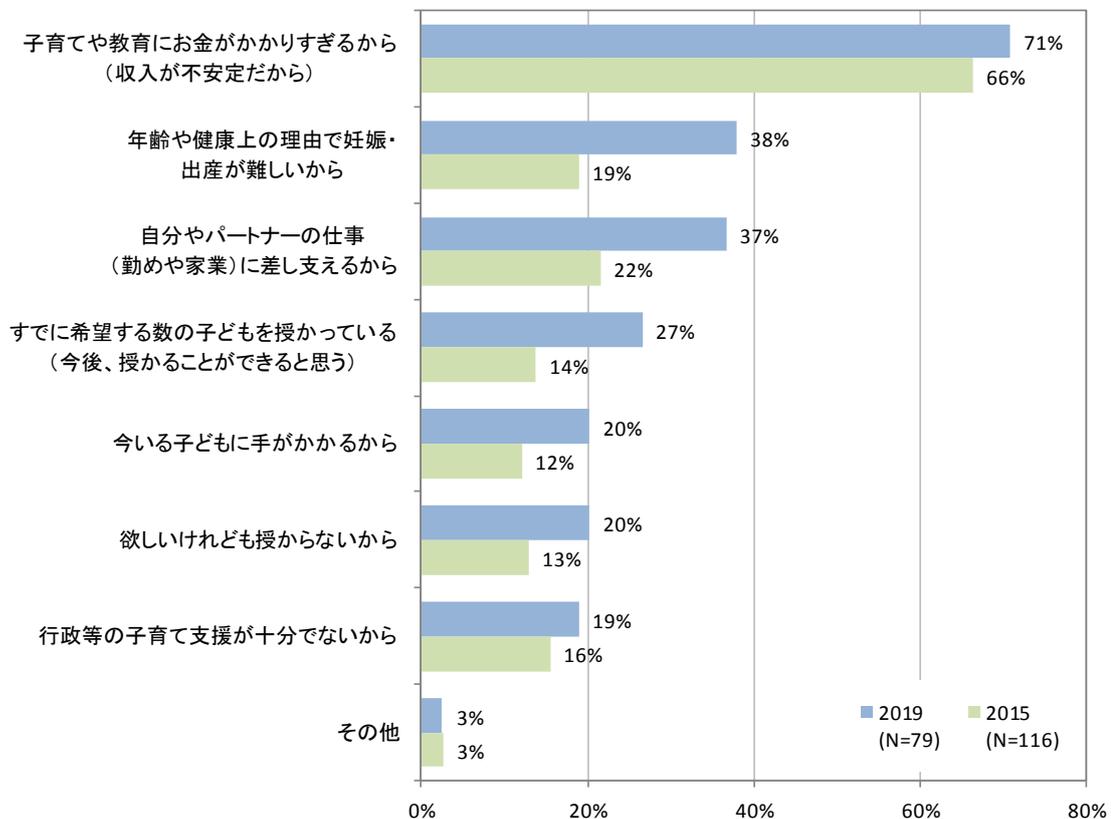


■理想的な子どもの人数（居住地別）

・居住地別では、穴水地区（大町、川島）で「2人」、穴水地区（大町、川島以外）で「3人」が5割以上となっている。



③⑥	希望する子どもの数を持っていない場合に想定される要因（3つ以内で回答）【前回比較】
※③⑤で「理想的な子どもが1人以上」との回答者を対象に集計	
<p>・前回との比較では、2019年で「年齢や健康上の理由で妊娠・出産が難しいから」が38%と、2015年と比べて19ポイント高くなっている。</p>	



※集計について

前回調査（2015年）の結果と比較するため、順位を考慮せず集計した。

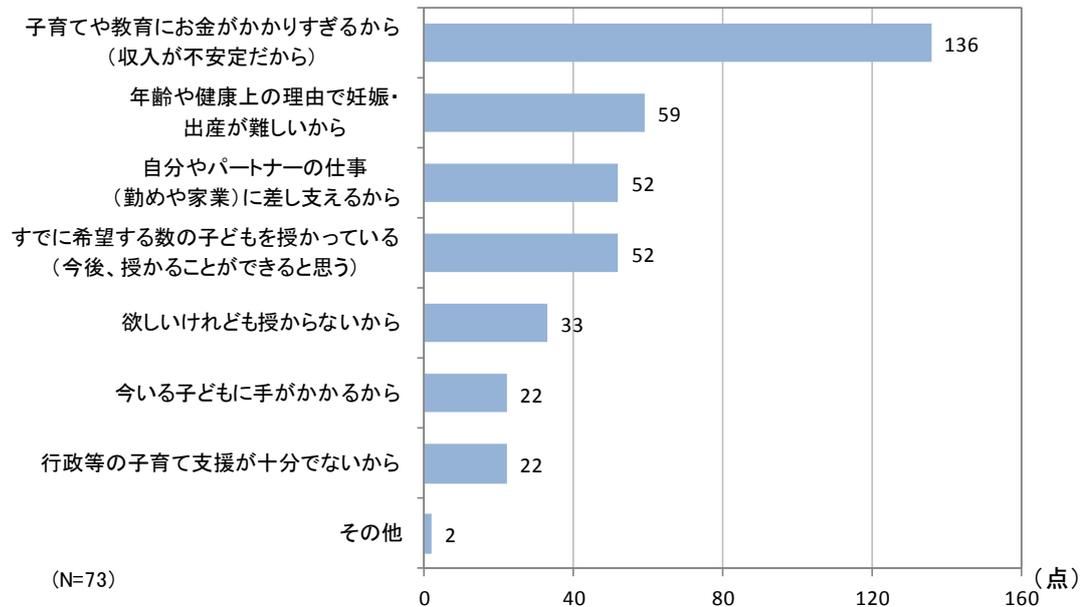
※選択肢について

本調査（2019年）では、前回調査（2015年）で回答が少なかった一部の選択肢を除いている。なお、2015年の値は削除した選択肢を除いて再集計している。

■希望する子どもの数を持たない場合に想定される要因

【順位付け】

・「子育てや教育にお金がかかりすぎるから（収入が不安定だから）」が136点で最も多く、次いで「年齢や健康上の理由で妊娠・出産が難しいから」が59点、「自分やパートナーの仕事（勤めや家業）に差し支えるから」「すでに希望する数の子どもを授かっている（今後、授かることができると思う）」が52点となっている。



※算出方法

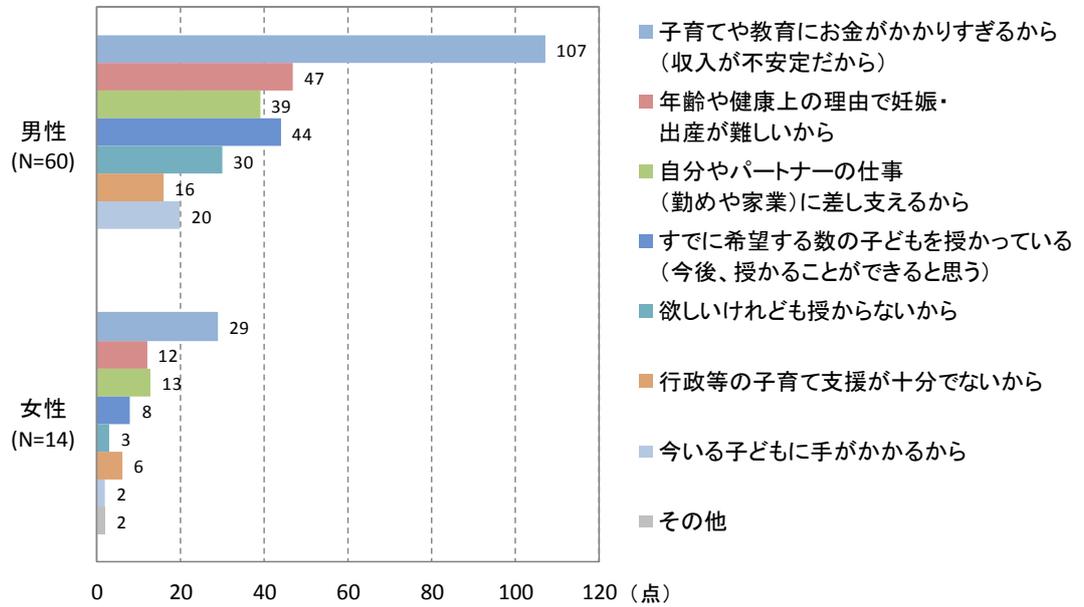
調査票では、1位～3位と順位毎に回答欄を設けており、1位を3点、2位を2点、3位を1点として集計し、各項目の点数を算出した。

※母数について

1位～3位のうち、2位のみ無回答である回答は集計の対象外としているため、116頁の「前回比較」のグラフよりも母数は少なくなる。

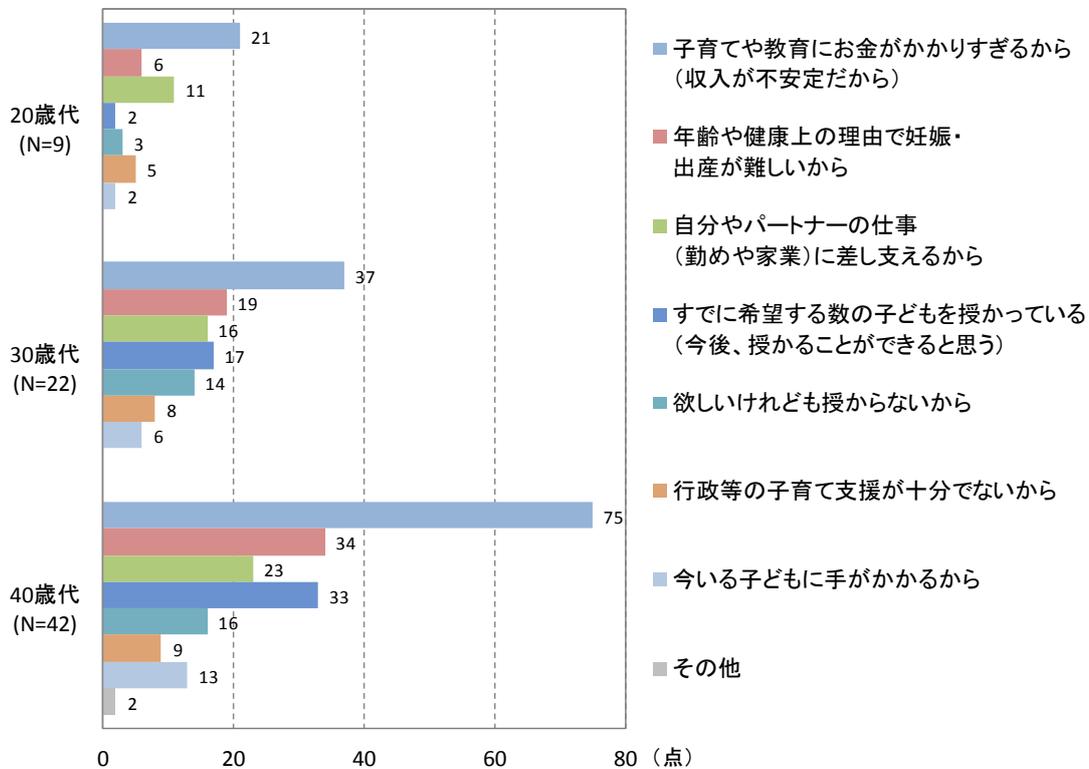
■ 希望する子どもの数を持たない場合に想定される要因（性別）

・性別では、男性、女性ともに「子育てや教育にお金がかかりすぎるから（収入が不安定だから）」が最も高くなっている。



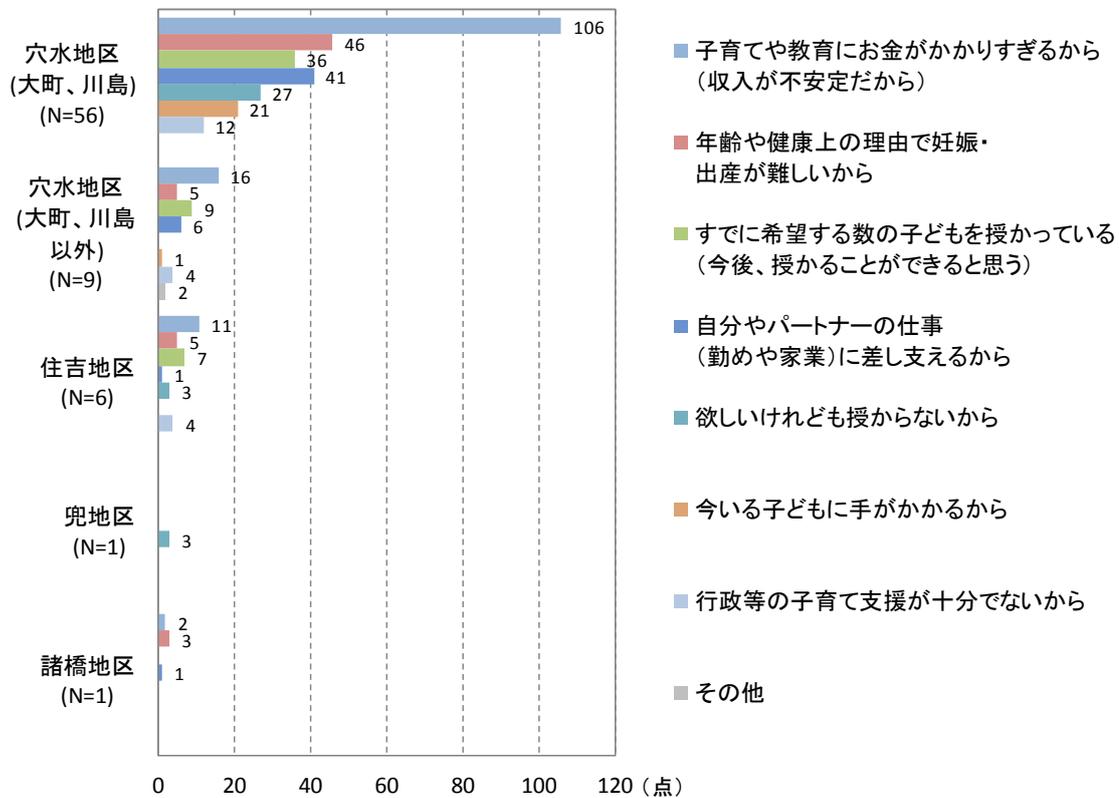
■ 希望する子どもの数を持たない場合に想定される要因（年代別）

・年代別では、全ての年代で「子育てや教育にお金がかかりすぎるから（収入が不安定だから）」が最も高くなっている。



■希望する子どもの数を持っていない場合に想定される要因（居住地別）

・居住地別では、穴水地区（大町、川島）、穴水地区（大町、川島以外）、住吉地区で「子育てや教育にお金がかかりすぎるから（収入が不安定だから）」が最も高くなっている。



③7	意見（自由回答）
<p>・「企業誘致・雇用（6件）」、「助成（5件）」、「環境・施設整備（3件）」に関する回答が多く、「企業誘致・雇用」では主に「働く場所の確保」「給与水準の改善」等の回答がみられる。</p>	

項目	回答数	回答数	主な回答
	2019年 (N=21)	2015年 (N=42)	
企業誘致・雇用	6	8	働く場所の確保 給与水準の改善
助成	5	8	町からの助成を増やす 保育・小・中学校に係る費用は全て無料
環境・施設整備	3	7	子どもの遊べる施設の充実
出会い	1	5	婚活イベントの企画
行政	1	4	行政サービスの改善
保育	-	4	-
その他	5	6	結婚に対する意識の変化